

ご契約のしおり・約款

プレミアストーリー4

生存給付金付終身保険(通貨指定型)

- この商品は、第一フロンティア生命を引受保険会社とする生命保険です。預金とは異なり、また、元本割れすることがあります。
- 為替、解約時の市場金利の変動などによって、損失が生じるおそれがあります。

もくじ

ご契約のしおり

「ご契約のしおり」は、ご契約についての重要な事項、諸手続き、税務の取扱いなど、ぜひ知っていただきたい事項をわかりやすくご説明しています。

目的別もくじ 3

主な保険用語のご説明 5

お知らせとお願い 8

生命保険募集人	8
ご契約お申込みのお手続きの際の留意点	8
クーリング・オフ制度（お申込みの撤回など）	9
元本欠損が生じる場合	10
現在のご契約の解約、減額を前提として新たな保険契約へのお申込みを検討しているお客さまへ	10

商品のしくみ 11

商品の特徴	11
積立利率	14
積立利率保証期間の更新	15
市場価格調整	16
為替リスク	19
保険料円貨入金特約	20
保険料外貨入金特約	20
円貨支払特約	21
生存給付金等の円貨支払特約	21
生存給付金の円換算額上限設定特約	22
年金支払移行特約	24
死亡給付金等の年金払特約	25
保険契約者代理特約	27

死亡保険金および生存給付金のお支払い 29

死亡保険金のお支払い	29
生存給付金のお支払い	29
死亡保険金および生存給付金をお支払いできない場合	30

ご契約に際して 32

告知	32
ご契約内容などの確認	32
ご契約の成立と保障の責任開始期	32

ご契約後について 33

解約と解約返還金	33
被保険者による保険契約者への解約の請求	36
死亡保険金受取人によるご契約の存続	36
保険契約者、死亡保険金受取人および生存給付金受取人の変更	36

住所などの変更・保険証券の再発行のお手続き	37
死亡保険金または生存給付金のご請求方法	38
死亡保険金または生存給付金のお支払期限	38
死亡保険金のご請求手続きの流れ	39
死亡保険金または生存給付金の請求訴訟	40
生命保険と税金	40

お客さまにご負担いただく諸費用 42

お客さまにご負担いただく諸費用	42
-----------------	----

会社・制度のご案内 44

当社の組織形態	44
個人情報の取扱い	44
本人特定事項などの確認	44
米国法「FATCA」に関する確認	44
税法上の居住地国などの届出	44
支払査定時照会制度	45
保険金額などの削減	46
生命保険契約者保護機構	46
金融商品取引法に規定する「特定投資家」の方へ	47

約款・特約条項

「ご契約のしおり」とあわせてご一読され、ご契約内容を正確にご理解いただきますようお願いいたします。

約款 48

生存給付金付終身保険（通貨指定型）	48
-------------------	----

特約条項 68

保険料円貨入金特約	68
保険料外貨入金特約	69
円貨支払特約	70
生存給付金等の円貨支払特約	81
生存給付金の円換算額上限設定特約	83
年金支払移行特約	89
死亡給付金等の年金払特約	96
保険契約者代理特約	102

* 裏表紙の「説明事項ご確認のお願い」もご確認ください。

「生存給付金付終身保険（通貨指定型）」お申込みの際の留意点

- 募集代理店などによっては、取扱内容が異なる場合があります。募集代理店ごとの取扱内容は各契約概要に記載しています。（当社ホームページでもご確認いただけます。）
- 金利情勢などによっては、お選びいただけない取扱内容があります。

* お申込後に当社から送付される「保険証券」でお申込内容をご確認のうえ、この冊子もあわせてご覧ください。

目的別もくじ

ご契約にあたって

保険用語の意味が
わからない

主な保険用語のご説明

5 ページ

申込みの手続きに
ついて知りたい

ご契約お申込みの
お手続きの際の留意点

8 ページ

申込みを撤回したい

クーリング・オフ制度
(お申込みの撤回など)

9 ページ

いつから保障が開始
されるのか知りたい

ご契約の成立と保障の
責任開始期

32 ページ

商品のしくみ

商品のしくみについて
知りたい

商品のしくみ

11 ページ

死亡保険金および生存給付金のお支払い

保障内容について
知りたい死亡保険金のお支払い
生存給付金のお支払い

29 ページ

死亡保険金などが
受け取れない場合に
ついて知りたい死亡保険金および
生存給付金を
お支払いできない場合

30 ページ

死亡保険金などの
請求の流れについて
知りたい死亡保険金または
生存給付金のご請求方法

38 ページ

死亡保険金のご請求
手続きの流れ

39 ページ

ご契約後のお取扱い

保険を解約したい

解約と解約返還金

33 ページ

死亡保険金受取人または
生存給付金受取人を
変更したい保険契約者、死亡保険金
受取人および生存給付金
受取人の変更

36 ページ

住所や名前が変わった

住所などの変更・保険
証券の再発行のお手続き

37 ページ

税金について知りたい

生命保険と税金

40 ページ

主な保険用語のご説明

この冊子をお読みいただくにあたって、ご参照ください。

あ	一時払保険料充当金 (いちじばらいほけんりょうじゅうとうきん)	ご契約のお申込みの際にお払い込みいただくお金のことで、ご契約が成立した場合には、一時払保険料に充当されます。
	円貨払込金額 (えんかはらいこみきんがく)	「保険料円貨入金特約」を付加した場合において、円貨によりお払い込みいただくお金のことで、当社所定の為替レートで換算し、指定通貨建の一時払保険料に充当されます。
か	外貨払込金額 (がいかはらいこみきんがく)	「保険料外貨入金特約」を付加した場合において、指定通貨と異なる外貨によりお払い込みいただくお金のことで、当社所定の為替レートで換算し、指定通貨建の一時払保険料に充当されます。
	解約返還金 (かいはくへんかんきん)	ご契約を解約した場合に、保険契約者にお支払いするお金のことで、
	基本給付金額 (きほんきゅうふきんがく)	死亡保険金および生存給付金を支払う場合に基準となる金額のことで、契約日に定めます。
	基本終身保険金額 (きほんしゅうしんほけんきんがく)	終身保障の基準となる金額として契約日に定められる金額をいい、基本給付金額に終身保障倍率を乗じた金額となります。積立利率保証期間の更新の際、適用する積立利率が更新後最低保証積立利率を上回っているときは、積立利率保証期間更新日以後の基本終身保険金額は、積立利率保証期間更新日における積立利率に基づき当社の定める方法により計算（増額）します。なお、積立利率保証期間更新日における被保険者の性別・年齢によっては、基本終身保険金額が増額されないことがあります。
	基本保険金額 (きほんほけんきんがく)	基本給付金額の計算にあたり基準となる金額のことで、一時払保険料と同額となります。
	繰越準備金 (くりこしじゅんびきん)	「生存給付金の円換算額上限設定特約」を付加した場合において、生存給付金について、円貨で設定した上限額をこえた場合にそのこえた部分を積み立てたお金のことで、次回以降の生存給付金が上限額を下回った場合に生存給付金として上乗せしてお支払いします。
	契約応当日 (けいやくおうとうび)	保険期間中に迎える毎月または毎年の契約日に対応する日のことで、毎月の契約日に対応する日を「月単位の契約応当日」、毎年の契約日に対応する日を「年単位の契約応当日」といいます。
	契約年齢 (けいやくねんれい)	契約日における被保険者の年齢のことで、この年齢は満年齢で計算し、1年未満の端数については切り捨てます。
	契約日 (けいやくび)	契約年齢・積立利率保証期間などを定める基準となる日のことで、この保険では当社の責任が開始される日となります。
	告知 (こくち)	ご契約のお申込みの際に、保険契約者と被保険者に職業などの当社がおたずねする重要なことがらについてありのままに報告していただくことです。この保険では告知は不要です。
さ	市場価格調整 (しじょうかかくちょうせい)	解約などの際に市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額などに反映させるための手法のことで、ただし、最終の積立利率保証期間更新日以後は、市場価格調整を行いません。（この手法により、契約日（積立利率保証期間の更新後は、直前の積立利率保証期間更新日）と比して市場金利が上昇した場合は解約返還金額などが減少し、逆に低下した場合は解約返還金額などが増加する傾向にあります。）
	指定生存給付金支払日 (していせいぞんきゅうふきんしはらいび)	生存給付金の支払事由が生じる日のことで、第1回は契約日から翌年の年単位の契約応当日までの間でご指定いただいた日、第2回以後はその毎年の年単位の応当日とします。
	指定通貨 (していつうか)	ご契約のお申込みの際に1つご指定いただく通貨のことで、米ドル、豪ドル、円からご指定いただけます。この保険の金銭の授受はすべて指定通貨で行います。なお、指定通貨が外貨の場合、各種特約を付加することにより、指定通貨と異なる通貨で金銭の授受を行うことができます。
	死亡保険金 (しぼうほけんきん)	被保険者が死亡したときに支払われるお金のことで、
	死亡保険金受取人 (しぼうほけんきんうけとりんにん)	死亡保険金を受け取る人のことで、

	終身保障倍率 (しゅうしんほしょうばいりつ)	基本給付金額に対する契約日における終身保障の金額の倍率のことで、保険契約の締結の際に1つご指定いただきます。「終身保障不担保特則」を適用することにより、終身保障倍率を0倍とすることができます。
	主契約 (しゅけいやく)	保険契約のうち普通保険約款に記載されている契約内容のことで、
	生存給付金 (せいぞんきゅうふきん)	被保険者が毎年の指定生存給付金支払日が到来した時に生存しているときに支払われるお金のことで、
	生存給付金受取人 (せいぞんきゅうふきんうけとりんにん)	生存給付金を受け取る人のことで、
	生存給付金支払日 (せいぞんきゅうふきんしはらいび)	契約日および契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日のことで、ただし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。 第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外とした場合、生存給付金支払日から直後の指定生存給付金支払日まで、基本給付金額を積み立てます。
	生存給付金積立金 (せいぞんきゅうふきんつみたてきん)	基本給付金額を生存給付金支払日から当社所定の利率による利息をつけて積み立てたお金のことで、被保険者が直後の指定生存給付金支払日が到来した時に生存しているときに、生存給付金としてお支払いします。
	責任開始期 (せきにんかいしき)	当社がご契約上の保障を開始する時期のことで、
た	対顧客電信売相場 (TTS) (たいこきやくでんしんうりそうば)	お客さまが円貨を外貨に替えるときに適用される一般的な為替レートです。
	対顧客電信買相場 (TTB) (たいこきやくでんしんかいそうば)	お客さまが外貨を円貨に替えるときに適用される一般的な為替レートです。
	対顧客電信売買相場仲値 (TTM) (たいこきやくでんしんばいばいそうばなかね)	対顧客電信売相場 (TTS) と対顧客電信買相場 (TTB) の中間の値です。
	積立金 (つみたてきん)	積立利率保証期間において、将来の死亡保険金および生存給付金を支払うために積み立てたお金のことで、積立金額は、積立利率を適用し、経過年月数に応じて当社の定める方法により計算します。
	積立利率 (つみたてりりつ)	通貨の種類、終身保障倍率、積立利率保証期間および生存給付金支払回数などに応じて当社が定めた利率のことで、毎月2回(1日と16日)設定します。ただし、最終の積立利率保証期間の更新の際、適用する積立利率は最終の積立利率保証期間更新日における当社所定の利率とします。更新後の積立利率は更新後最低保証積立利率(0.01%)を下回りません。
	積立利率保証期間 (つみたてりりつほしょうきかん)	同一の積立利率を適用する期間のことで、指定通貨が外貨の場合は20年、円貨の場合は契約年齢に応じて20年または30年となります。積立利率保証期間は、積立利率保証期間の満了日の翌日に更新前の積立利率保証期間と同一の期間で更新し、その日を積立利率保証期間更新日とします。ただし、積立利率保証期間更新日における被保険者の年齢が当社所定の年齢(積立利率保証期間が20年の場合は91歳、30年の場合は81歳)以上となる場合は、その更新を最終の更新とし、積立利率保証期間は終身とします。 なお、「終身保障不担保特則」を適用した場合の積立利率保証期間は、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数となります。また、最終回の生存給付金支払日が到来したときに積立利率保証期間は満了し、積立利率保証期間は更新しません。
	特約 (とくやく)	主契約と異なる特別なお約束をする目的や主契約の保障内容を充実させるために、主契約に付加するものです。特約のみでは、契約できません。
は	被保険者 (ひほけんしゃ)	保険がかけられている人のことで、その人の生死などが保険の対象となります。
	保険期間 (ほけんきかん)	当社がご契約上の保障を開始してから終了するまでの期間のことで、
	保険契約者 (ほけんけいやくしゃ)	当社と保険契約を結び、ご契約上のいろいろな権利(契約内容の変更の請求権など)および義務(保険料支払義務など)を持つ人のことで、
	保険契約者代理人 (ほけんけいやくしゃだいにん)	「保険契約者代理特約」を付加した場合において、保険契約者がご契約に関する手続きを行うことができない特別な事情があるときに、保険契約者の代理人として手続きを行うことができる人のことをいいます。

	保険証券 (ほけんしょうけん)	保険契約の締結の際に交付する重要書類で、基本保険金額や保険期間などの契約内容を具体的に記載したものです。
	保険料 (ほけんりょう)	保険契約者からお払い込みいただくお金のことです。
ま	免責事由 (めんせきじゆう)	支払事由に該当しても、死亡保険金をお支払いできない場合のことです。
や	約款 (やっかん)	ご契約の締結から消滅までの契約内容を記載したものです。

お知らせとお願い

生命保険募集人

1 保険契約の「媒介」と「代理」

- 生命保険募集人が保険契約締結の「媒介」を行う場合は、保険契約のお申込みに対して保険会社が承諾したときに保険契約は有効に成立します。
- 生命保険募集人が保険契約締結の「代理」を行う場合は、生命保険募集人が保険契約のお申込みに対して承諾すれば保険契約は有効に成立します。

2 生命保険募集人の権限

- 当社の保険契約を取り扱う生命保険募集人（当社の社員・募集代理店の担当者）は、お客さまと当社の保険契約締結の媒介を行う者で、保険契約締結の代理権や告知の受領権はありません。したがって、保険契約は、お客さまからのお申込みに対して当社が承諾したときに有効に成立します。
- また、ご契約の成立後にご契約内容の変更などをする場合にも、原則としてご契約内容の変更などに対する当社の承諾が必要となります。

ご契約お申込みのお手続きの際の留意点

ご契約お申込みのお手続きに際してご留意いただきたいことがらはずつぎのとおりです。

1 お申込み

- お申込内容を十分お確かめのうえ、保険契約者ご自身（被保険者欄は被保険者ご自身）でお手続きください。

2 保険料などのお払込み

- 一時払保険料に充当する金額などは、当社の指定した口座に送金することにより、お払い込みください。

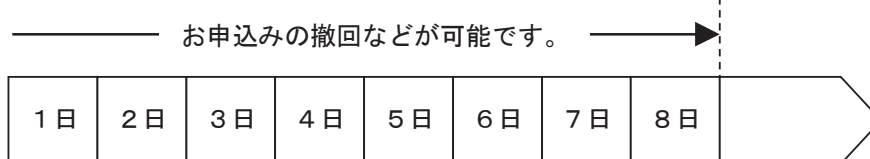
3 お申込内容の確認

- ご契約をお引き受けしますと、当社は「保険証券」などをお送りします。お申込みの際の内容と相違していないかどうか、必ずお確かめください。
- 万一、内容が相違していたり、ご不審の点がありましたら、すみやかにお客さまサービスセンターにご連絡ください。
- 「保険証券」は、契約上の諸手続きにかかせないものですので、大切に保管してください。

クーリング・オフ制度（お申込みの撤回など）

お申込者または保険契約者（以下「お申込者など」といいます。）は、ご契約の申込日または一時払保険料充当金を当社が受け取った日のいずれか遅い日から起算して8日以内（土日、祝日、年末・年始などの休日を含みます。）であれば、当社への電磁的記録または書面によるお申出によりご契約のお申込みの撤回またはご契約の解除（以下「お申込みの撤回など」といいます。）をすることができます。

■イメージ図



▲
申込日または一時払保険料充当金を当社が受け取った日のいずれか遅い日

1 お申出方法

(1) 電磁的記録

主たる窓口としている当社ホームページ (<https://www.d-frontier-life.co.jp/>) の「ご契約者向けサービス・お手続き」よりお申し出ください。当社ホームページにてお申し出いただいた場合、お申込みの撤回などは、お手続きの完了画面が表示された時に効力を生じます。

(2) 書面

郵便（はがき、封書（※1））により以下のとおりお申し出ください。お申込みの撤回などは、書面の発信時（郵便の消印日付）に効力を生じます。

※1 個人情報保護の観点から、なるべく封書によりお申し出ください。

●お申出先

〒141-8712

日本郵便株式会社 大崎郵便局 郵便私書箱第26号

第一フロンティア生命保険株式会社 お客さまサービスセンター

●記入事項

- ① お申込みの撤回などをする旨
- ② お申込者などの氏名（自署）・フリガナ
- ③ お申込者などの住所・電話番号
- ④ お払い込みいただいた金額・通貨
- ⑤ ご本人名義の返金口座（銀行名、支店名、預金種目、口座番号、口座名義人）
- ⑥（推奨）申込番号または証券番号 ※2
- ⑦（任意）お申込者のEメールアドレス ※3

（記入例）米ドルでお払い込みいただいた場合

- ① 私は契約の申込みの撤回を行います。
- ② ^{ダイイチ} ^{タロウ} 第一 太郎
- ③ 〒123-4567 ○○県○○市××1-2-3
TEL ○○-×××-○○○○
- ④ 〇,〇〇〇,〇〇〇米ドル
- ⑤ ○○銀行 ○○支店
普通 1234567 口座名義人 ダイイチ タロウ
- ⑥ 申込番号:12-345-678901-23/証券番号:S1234-56789-01
- ⑦ XXXXX@XXXXX.com

※2 確実・迅速な返金手続きのため、やむを得ない場合を除きご記入ください。

※3 当社からのメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。ご記入いただいた場合、お手続き状況に関するお知らせを送信します。

2 返金する金額

お払い込みいただいた金額を、当社へお払い込みいただいた通貨でお申込者などに全額お返しいたします。

* 外貨でお受取りになる際には、返金口座として外貨預金口座をご指定ください。取扱金融機関によっては、円貨預金口座をご指定された場合、円貨に両替される場合があります。



- ・指定通貨が外貨の場合で、お申込者などが当社特約を用いずに募集代理店で円貨などを指定通貨に両替してお払い込みいただいたときは、指定通貨でお返しいたします。
- ・外貨でお受取りになる際には、取扱金融機関により諸手数料などの実費をご負担いただく場合があります。
- ・既に生存給付金受取人に生存給付金をお支払いしている場合は、そのお支払いした額を当社へ全額返還いただきます。また、既にお申込者などに生存給付金をお支払いしている場合は、一時払保険料からお支払いした額を差し引いてお申込者などにお返しいたします。

3 取扱いができない場合

● つぎの場合には、お申込みの撤回などの取扱いができません。

- ① ご契約の更新またはご契約の内容変更（保険金額・保険期間の変更、特約の中途付加など）の場合
- ② 債務履行の担保のための保険契約である場合

4 その他

- 当社は、お申込みの撤回などに関して、損害賠償または違約金その他金銭の支払いを請求しません。
- お申込みの撤回などの時点において死亡保険金の支払事由が生じている場合には、お申込みの撤回などの効力は生じません。ただし、お申込者などが死亡保険金の支払事由が生じていることを知っている場合を除きます。

元本欠損が生じる場合

- この保険は、市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額などに反映させるための市場価格調整を行うこと、ご契約を解約する際に解約控除がかかることなどの理由により、「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
 - 指定通貨が外貨の場合、この保険には為替リスクがあり、為替相場の変動により、お支払時の為替レートで円貨に換算した「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」や「死亡保険金とお支払いした生存給付金の合計額」などが、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
- * 市場価格調整、為替リスク、解約控除についてはそれぞれP16、19、43をご参照ください。

現在のご契約の解約、減額を前提として新たな保険契約へのお申込みを検討しているお客さまへ

ご契約中の保険契約について解約、減額などの契約内容変更をするときには、一般的につきのような場合、保険契約者にとって不利益となることがあります。

- ご契約中の保険契約の解約返還金は、多くの場合、お払込保険料の合計額より少ない金額となります。特にご契約後短期間で解約したときの解約返還金は、まったくないか、あってもごくわずかです。なお、解約返還金の計算は、個々のご加入生命保険会社・ご契約内容により異なります。また、一定期間のご契約の継続を条件に発生する配当の請求権などを失うこととなる場合があります。
- ご契約中の保険契約のままであればお支払いができる場合であっても、新たな保険契約では、詐欺による取消しや責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したときなど、保険金、給付金などが支払われないことがあります。
- ご契約中の保険契約を解約した場合、新たな保険契約の取扱いにかかわらず、いったん解約した保険契約を元に戻すことはできません。また、ご契約中の保険契約を減額した場合、元の契約に戻す（復旧する）取扱いに制限を受けることがあります。

商品のしくみ

商品の特徴

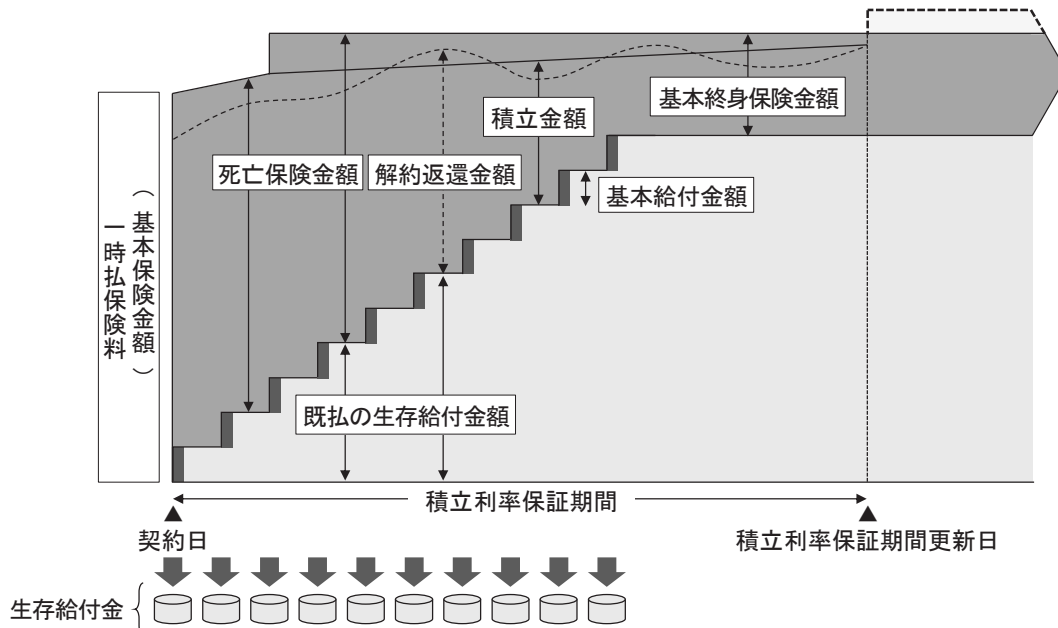
この保険は、金利情勢に応じて積立利率を定め、その積立利率などに基づき生存給付金額などを定めるしくみの保険料一時払方式の生存給付金付終身保険です。



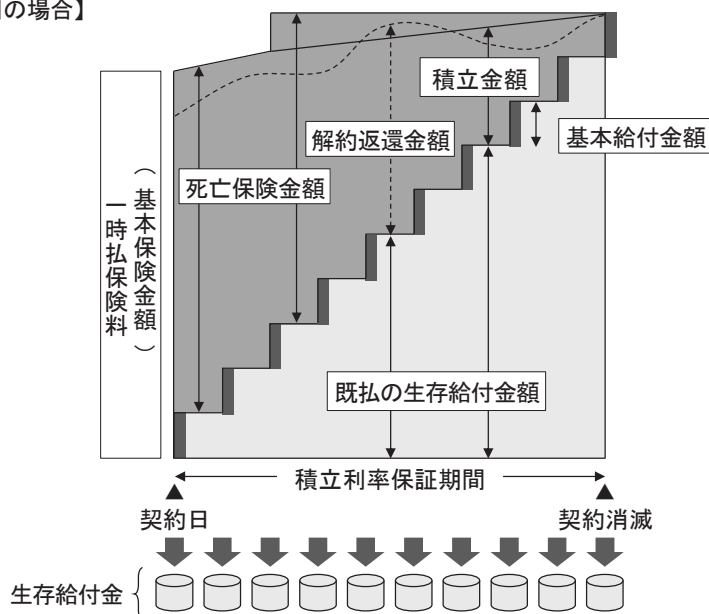
・この商品は生命保険であり、預金または投資信託などではありません。

■商品のイメージ図

【第1回の生存給付金の支払日が契約日、終身保障倍率が3倍、生存給付金支払回数が10回の場合】



【第1回の生存給付金の支払日が契約日、終身保障倍率が0倍（「終身保障不担保特則」を適用）、生存給付金支払回数が10回の場合】



- 基本給付金額とは、死亡保険金および生存給付金を支払う場合に基準となる金額のことで、契約日に定めます。
- 終身保障倍率とは、基本給付金額に対する契約日における終身保障の金額の倍率のことです。
- 基本終身保険金額とは、終身保障の基準となる金額として契約日に定められる金額をいい、基本給付金額に終身保障倍率を乗じた金額となります。積立利率保証期間の更新の際、適用する積立利率が更新後最低保証積立利率を上回っているときは、基本終身保険金額を当社の定める方法により計算（増額）します。なお、積立利率保証期間更新日における被保険者の性別・年齢によっては、基本終身保険金額が増額されないことがあります。【詳細はP15をご参照ください】

1 毎年生存給付金をお支払いする生存給付金付終身保険です

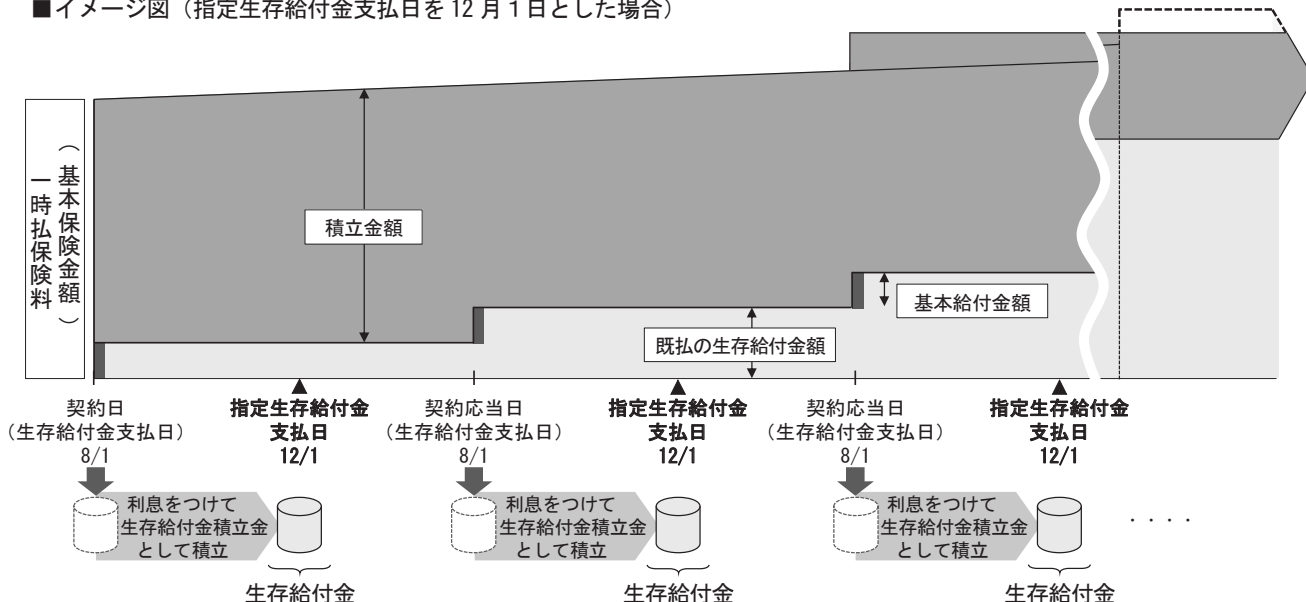
- * 生存給付金の型は「即時開始型」をご指定いただけます。（ご契約後、生存給付金の型の変更はできません。）
また、「生存給付金の支払日指定特則」を適用し、生存給付金の支払日をご指定いただけます。ご指定いただいた生存給付金の支払日を「指定生存給付金支払日」といい、第1回は契約日から翌年の年単位の契約応当日までのご指定いただいた日、第2回以後は、その毎年の年単位の応当日とします。（ご契約後、指定生存給付金支払日の変更はできません。また、この特則のみの解約は取り扱いません。）
- 被保険者が死亡したときは死亡保険金を、指定生存給付金支払日に被保険者が生存しているときは生存給付金をお支払いします。【詳細はP29をご参照ください】
* 「生存給付金の支払日指定特則」を適用し、第1回の指定生存給付金支払日について契約日以外をご指定いただいた場合の詳細は、本ページ下部をご参照ください。
- ご契約のお申込みの際に、当社の定める範囲で、終身保障倍率（※1）、生存給付金支払回数をご指定いただけます。（※2）
※1 「終身保障不担保特則」を適用することにより、終身保障倍率を0倍とすることができます。この場合、最終回の指定生存給付金支払日が到来したときにご契約は消滅し、以後の保障はなくなります。
※2 ご契約後、終身保障倍率および生存給付金支払回数の変更はできません。また、募集代理店や金利情勢などによっては、取り扱わない終身保障倍率および生存給付金支払回数があります。
- 通貨の種類は、米ドル、豪ドル、円で、ご契約のお申込みの際に、1つご指定いただけます。（※3）
※3 金利情勢などによっては、取り扱わない通貨の種類があります。
- この保険の保険料のお払込みや死亡保険金および生存給付金のお支払いなど、ご契約にかかわる金銭の授受はすべて指定された通貨（以下「指定通貨」といいます。）で行います。（※4）
※4 指定通貨が外貨の場合、「保険料円貨入金特約」、「保険料外貨入金特約」、「円貨支払特約」、「生存給付金等の円貨支払特約」または「生存給付金の円換算額上限設定特約」を付加することにより、指定通貨と異なる通貨で金銭の授受を行うことができます。【詳細はP20～P23をご参照ください】
また、死亡保険金および生存給付金などを外貨でお受取りになる場合には、外貨で受領できる口座をお客さまにご用意いただく必要があります。なお、外貨でのお受取りは円貨でのお受取りに比べてお客さまの口座に着金するまでに時間がかかることがあります。



・指定通貨建の「死亡保険金とお支払いした生存給付金の合計額」は指定通貨建の一時払保険料相当額を下回ることはありません。ただし、指定通貨が外貨の場合、為替相場の変動による影響があることから、お支払時の為替レートで円貨に換算したこれらの合計額は、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。

【第1回の指定生存給付金支払日について契約日以外をご指定いただいた場合】

- 被保険者が死亡したときは、被保険者が死亡した日における生存給付金積立金（積み立てられている場合）を含んだ金額を死亡保険金としてお支払いします。指定生存給付金支払日に被保険者が生存しているときは、基本給付金額を直前の生存給付金支払日（※5）から生存給付金積立金として当社所定の利率による利息をつけて積み立てた金額を生存給付金としてお支払いします。【詳細はP29をご参照ください】
※5 「生存給付金支払日」とは、契約日および契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日のことをいいます。ただし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。
- イメージ図（指定生存給付金支払日を12月1日とした場合）



2 積立金と積立利率について

- 積立金とは、積立利率保証期間において、将来の死亡保険金および生存給付金のお支払いに充てるために積み立てたお金のことをいい、積立金額は、積立利率を適用し経過年数に応じて当社の定める方法により計算します。
- 積立利率は、通貨の種類、終身保障倍率、積立利率保証期間および生存給付金支払回数などに応じて、毎月2回（1日と16日）設定します。【詳細はP14をご参照ください】
- 契約日における積立利率はご契約時の積立利率保証期間の満了日まで適用されます。また、積立利率保証期間を更新した場合、積立利率保証期間更新日における積立利率がその期間の満了日まで適用されます。



・お申込みから契約日までの間に積立利率が変更された場合、契約日における積立利率が適用され、基本給付金額および基本終身保険金額が変更されますので、ご注意ください。

3 積立利率保証期間について

- 積立利率保証期間とは、同一の積立利率を適用する期間のことをいい、指定通貨が外貨の場合は20年、円貨の場合は契約年齢に応じて20年または30年となります。なお、積立利率保証期間の変更はできません。
 - * 「終身保障不担保特則」を適用した場合の積立利率保証期間は、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数となります。
- 積立利率保証期間は、積立利率保証期間の満了日の翌日に更新前の積立利率保証期間と同一の期間で更新し、その日を積立利率保証期間更新日とします。
 - * 「終身保障不担保特則」を適用した場合、最終回の生存給付金支払日が到来したときに積立利率保証期間は満了し、積立利率保証期間は更新しません。



- ・積立利率保証期間更新日における被保険者の年齢が当社所定の年齢（積立利率保証期間が20年の場合は91歳、30年の場合は81歳）以上となる場合は、この更新を最終の更新とし、その日以後、積立利率保証期間は終身とします。
- ・この場合、積立利率は最終の積立利率保証期間更新日における当社所定の利率とします。
- ・契約年齢によっては、積立利率保証期間の更新が1回となる場合があります。

4 解約返還金額などが一時払保険料相当額を下回ることがあります



- ・市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額などに反映させるための市場価格調整を行うこと、解約する際に解約控除がかかることなどの理由により、「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」などが一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
 - ・指定通貨が外貨の場合、為替リスクがあり、為替相場の変動により、お支払時の為替レートで円貨に換算した「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」や「死亡保険金とお支払いした生存給付金の合計額」などが、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
- * 市場価格調整、為替リスク、解約控除についてはそれぞれP16、19、43をご参照ください。

5 生存給付金の円換算額上限設定特約について

- 「生存給付金の円換算額上限設定特約」を付加することにより、生存給付金について、円貨で設定した上限額をこえた場合にはそのこえた金額を繰越準備金として円貨で積み立てておき、次回以降の生存給付金が上限額を下回った場合に生存給付金として上乗せしてお支払いすることができます。【詳細はP22をご参照ください】

6 その他

- この保険は無配当保険ですので、契約者配当金はありません。
- この保険には、契約者貸付制度はありません。

積立利率

- 積立利率は、通貨の種類、終身保障倍率、積立利率保証期間および生存給付金支払回数などに応じて設定するものとし、当社が積立利率を設定する日の3営業日前の日（＝積立利率計算日）に加重平均指標金利を用いて定めつつの率から、ご契約の締結・維持などに必要な費用および死亡保険金を支払うための費用の率（＝保険契約関係費率）を差し引いた利率となります。

米ドル	積立利率計算日の前日における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の加重平均指標金利の平均値に最大1.0%（※）を加えた率を上限とし、最大1.5%（※）を減じた率を下限とする範囲内で定めた率
豪ドル	積立利率計算日における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の加重平均指標金利の平均値に最大1.5%（※）を加えた率を上限とし、最大1.0%（※）を減じた率を下限とする範囲内で定めた率
円	積立利率計算日における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の加重平均指標金利の平均値に最大1.0%（※）を増減させた範囲内で定めた率

※ 加重平均指標金利と実際の運用資産との金利差および積立利率計算日から実際の運用開始までの金利リスクなどを考慮して、上限および下限を定めています。

- 加重平均指標金利とは、積立利率の設定の際に基準となる指標金利のことをいい、つぎの（1）および（2）に定める指標金利の利回りを終身保障倍率および生存給付金支払回数により加重平均した利回りとします。

（1）通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利

通貨の種類	積立利率保証期間	指標金利
米ドル	20年	加重平均インデックス利回り（対象年限10年）および加重平均インデックス利回り（対象年限20年）を単純平均したもの
豪ドル	20年	豪ドル10年金利スワップレートおよび豪ドル20年金利スワップレートを単純平均したもの
円	20年、30年	残存期間20年の日本国債の流通利回り

（2）通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利

通貨の種類	生存給付金支払回数	指標金利
米ドル	3回、5回、7回	加重平均インデックス利回り（対象年限3年）
	10回	加重平均インデックス利回り（対象年限5年）
	15回	加重平均インデックス利回り（対象年限5年）および加重平均インデックス利回り（対象年限10年）を単純平均したもの
	20回、25回、30回	加重平均インデックス利回り（対象年限10年）
豪ドル	3回、5回、7回	豪ドル3年金利スワップレート
	10回	豪ドル5年金利スワップレート
	15回	豪ドル5年金利スワップレートおよび豪ドル10年金利スワップレートを単純平均したもの
	20回、25回	豪ドル10年金利スワップレート
	30回	豪ドル10年金利スワップレートおよび豪ドル15年金利スワップレートを単純平均したもの
円	10回	残存期間5年の日本国債の流通利回り
	11回～15回	残存期間5年の日本国債の流通利回りおよび残存期間10年の日本国債の流通利回りを単純平均したもの
	16回～20回	残存期間10年の日本国債の流通利回り
	30回	残存期間10年の日本国債の流通利回りおよび残存期間15年の日本国債の流通利回りを単純平均したもの

* 加重平均インデックス利回りについては、普通保険約款の備考（別表3）「加重平均インデックス利回り」（P67）をご参照ください。

* 豪ドル金利スワップレートは「豪ドル金利スワップレート（固定受け、変動払い（BBSW）」です。使用する金利スワップレートは、将来変更となることがあります。

* 積立利率保証期間更新日以後の積立利率の設定において用いる加重平均指標金利は（1）通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利の利回りとします。

◆高額優遇制度

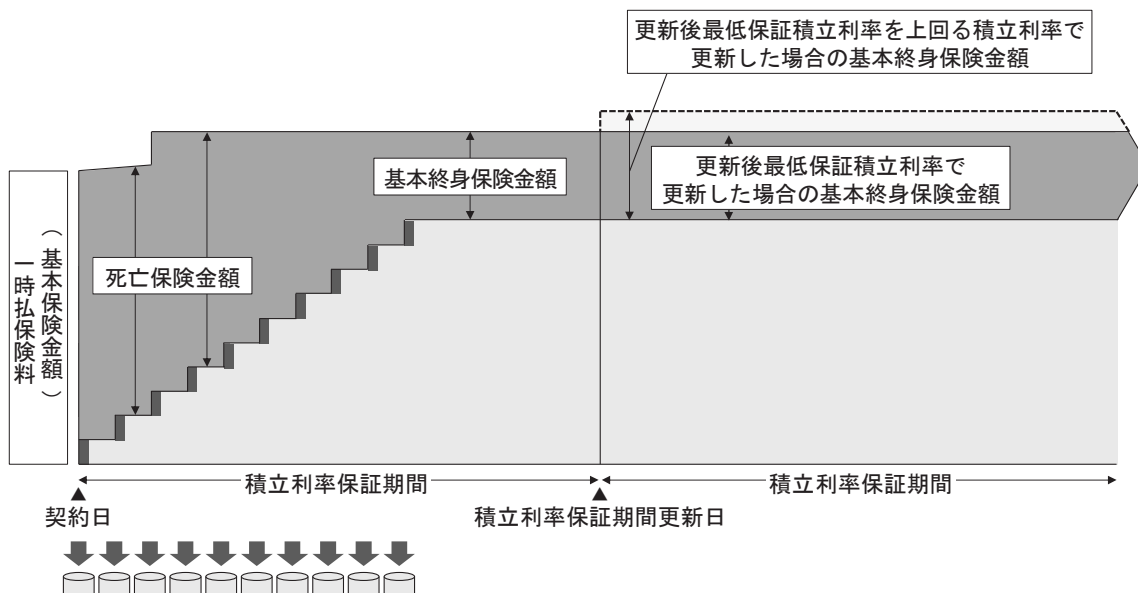
- 払込金額が200,000米ドル、300,000豪ドル、3,000万円以上の場合、当社所定の利率を上乗せした積立利率を適用します。
- * ご契約時の金利情勢などによっては、上乗せが適用されない通貨の種類、終身保障倍率、積立利率保証期間および生存給付金支払回数があります。
- * 積立利率保証期間の更新後は、積立利率の上乗せは行いません。

- 積立利率は、当社ホームページ（<https://www.d-frontier-life.co.jp/>）の閲覧またはお客さまサービスセンターへの照会により、ご確認ください。
- 当社は、P14（1）および（2）に定める指標金利の利回りが算出されなくなったときや長期間にわたってこの保険の運用対象と明らかに連動しなくなったときなど、将来の運用情勢の変化によって同利回りを指標金利として用いることが適切でない特別な事情が生じた場合には、主務官庁の認可を得て、指標金利を変更することがあります。この場合、当社は、指標金利を変更する日の2か月前までにその旨を保険契約者に通知します。
- 最終の積立利率保証期間の更新の際、適用する積立利率は最終の積立利率保証期間更新日における当社所定の利率とします。
- 更新後の積立利率は更新後最低保証積立利率（0.01%）を下回りません。

積立利率保証期間の更新

- 積立利率保証期間は、積立利率保証期間の満了日の翌日に更新前の積立利率保証期間と同一の期間で更新し、その日を積立利率保証期間更新日とします。
 - * 「終身保障不担保特則」を適用した場合、最終回の生存給付金支払日が到来したときに積立利率保証期間は満了し、積立利率保証期間は更新しません。
- 積立利率保証期間更新日における積立利率を更新日からその期間の満了日まで適用します。
- 積立利率保証期間更新日における積立利率が更新後最低保証積立利率を上回っているときは、積立利率保証期間更新日以後の基本終身保険金額は、積立利率保証期間更新日における積立利率に基づき当社の定める方法により計算（増額）します。
 - * 積立利率保証期間更新日における被保険者の性別・年齢によっては、基本終身保険金額が増額されないことがあります。

■ 積立利率保証期間の更新のイメージ図



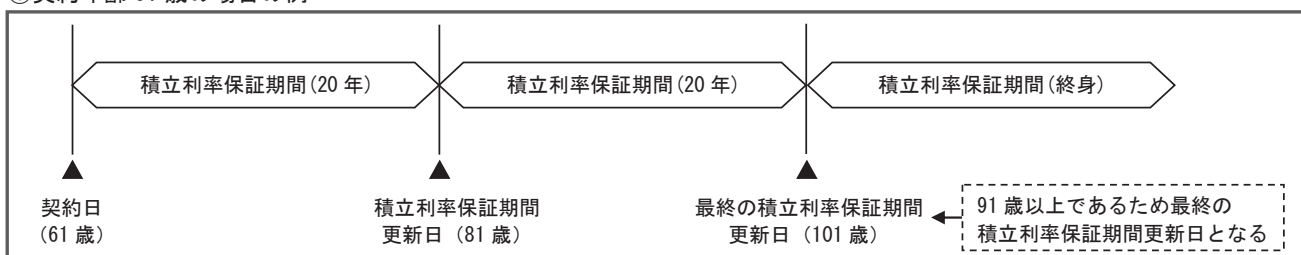
【最終の積立利率保証期間更新日以後の取扱い】



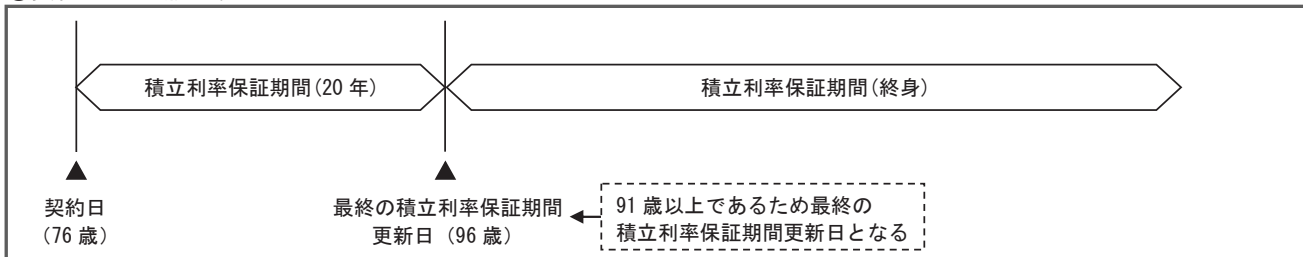
- ・ 積立利率保証期間更新日における被保険者の年齢が当社所定の年齢（積立利率保証期間が20年の場合は91歳、30年の場合は81歳）以上となる場合は、この更新を最終の更新とし、その日以後、積立利率保証期間は終身とします。
- ・ この場合、積立利率は最終の積立利率保証期間更新日における当社所定の利率とします。また、解約返還金額は解約返還金計算日の積立金額となります。（市場価格調整は行いません。また、解約控除はかかりません。）

■ 最終の更新のイメージ図（積立利率保証期間20年の場合の例）

① 契約年齢61歳の場合の例



②契約年齢 76 歳の場合の例



市場価格調整

この保険では、解約する場合、「年金支払移行特約」を付加して年金支払に移行する場合などに、市場価格調整を行います。

- 市場価格調整とは、市場金利の変動に応じた運用資産の価値の変動を解約返還金額などに反映させるための手法のことをいいます。解約返還金額などの計算に際して、その時の市場金利に応じて計算される運用資産の時価と、適用されている積立利率に基づき計算された積立金額とのかい離を調整することで、運用資産の価値の変動を解約返還金額などに反映させます。
- 市場価格調整率は、つぎの算式により計算されます。【詳細は普通保険約款の別表2「解約返還金額」(P63)をご参照ください】

$$\text{市場価格調整率} = \frac{\text{終身保障倍率} \times \text{市場価格調整率①} + \text{未到来の生存給付金支払日の回数} \times \text{市場価格調整率②}}{\text{終身保障倍率} + \text{未到来の生存給付金支払日の回数}}$$

市場価格調整率①はつぎのとおりとします。

$$1 - \left[\frac{1 + \text{適用されている積立利率の算出時の市場価格調整利用率①} (\ast 1)}{1 + \text{解約返還金計算日の市場価格調整利用率①} (\ast 2) + \text{当社の定める率} (\ast 3)} \right]^{\text{調整年数①} (\ast 6)}$$

市場価格調整率②はつぎのとおりとします。

$$1 - \left[\frac{1 + \text{適用されている積立利率の算出時の市場価格調整利用率②} (\ast 4)}{1 + \text{解約返還金計算日の市場価格調整利用率②} (\ast 5) + \text{当社の定める率} (\ast 3)} \right]^{\text{調整年数②} (\ast 7)}$$

※1 適用されている積立利率の算出に用いた「通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利」の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。

※2 解約返還金計算日を契約日（積立利率保証期間の更新後は、直前の積立利率保証期間更新日）とみなした場合に、この保険と同一の通貨の種類および積立利率保証期間に適用される積立利率の算出において用いる「通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利」の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。

※3 当社の定める率は、0.10%とします。

※4 適用されている積立利率の算出に用いた「通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利」の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。

※5 解約返還金計算日を契約日とみなした場合に、この保険と同一の通貨の種類および生存給付金支払回数のときに適用される積立利率の算出において用いる「通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利」の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（当社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。

※6 「積立利率保証期間および積立利率保証期間の満了日までの残存年数（※8）」に応じてつぎのとおりとします。

積立利率保証期間	積立利率保証期間の満了日までの残存年数	調整年数①
20年	10年以下	積立利率保証期間の満了日までの残存年数 × 0.65
	10年超	積立利率保証期間の満了日までの残存年数 × 0.5 + 1.5
30年	15年以下	積立利率保証期間の満了日までの残存年数 × 0.39
	15年超	積立利率保証期間の満了日までの残存年数 × 0.55 - 2.4

※7 「生存給付金支払回数および最終回の生存給付金支払日の前日までの残存年数(※9)」に応じてつぎのとおりとします。

生存給付金支払回数	調整年数②
14回以下	最終回の生存給付金支払日の前日までの残存年数×0.43
15回以上	最終回の生存給付金支払日の前日までの残存年数×0.32

※8 解約返還金計算日から積立利率保証期間の満了日までの月数(※10)÷12

※9 解約返還金計算日から最終回の生存給付金支払日の前日までの月数(※10)÷12

※10 1か月未満の端数があるときは、これを切り捨てます。

■調整年数①および調整年数②の計算例(積立利率保証期間が20年、生存給付金支払回数が10回で、契約日から1年を経過した年単位の契約応当日の前日に解約返還金額を計算する場合)

・積立利率保証期間の満了日までの残存年数	19年
・最終回の生存給付金支払日の前日までの残存年数	8年
調整年数① = 19×0.5+1.5	調整年数② = 8×0.43
= 11年	= 3.44年

* 市場価格調整用利率は、当社ホームページ(<https://www.d-frontier-life.co.jp/>)の閲覧またはお客さまサービスセンターへの照会により、ご確認ください。

* 解約返還金額の計算に用いる利率を設定する時期(毎月1日と16日)と解約返還金計算日の間に生じる金利変動や、運用資産の売却に係る取引費用等に備えるため、市場価格調整率において所定の係数(0.10%)を設定しています。

このため、契約日(積立利率保証期間の更新後は、直前の積立利率保証期間更新日)の市場金利と解約返還金計算日の市場金利が同一であっても、解約返還金計算日の積立金額に対して残存期間および未到来の生存給付金支払日の回数に応じて一定率が控除されます。

■積立金額に対して控除される率の例

契約日(積立利率保証期間の更新後は、直前の積立利率保証期間更新日)と解約返還金計算日に適用される市場価格調整用利率①および市場価格調整用利率②が1.00%の場合、積立金額に対して控除される率はつぎの算式で計算されます。

$$\text{積立金額に対して控除される率} = \frac{\text{終身保障倍率} \times \text{表①} + \text{未到来の生存給付金支払日の回数} \times \text{表②}}{\text{終身保障倍率} + \text{未到来の生存給付金支払日の回数}}$$

表①

残存年数(※11)	30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年	
積立利率	20年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
保証期間	30年	1.39%	1.33%	1.28%	1.23%	1.17%	1.12%	1.06%	1.01%	0.96%	0.90%
残存年数	20年	19年	18年	17年	16年	15年	14年	13年	12年	11年	
積立利率	20年	1.13%	1.08%	1.03%	0.99%	0.94%	0.89%	0.84%	0.79%	0.74%	0.69%
保証期間	30年	0.85%	0.79%	0.74%	0.69%	0.63%	0.58%	0.54%	0.50%	0.46%	0.43%
残存年数	10年	9年	8年	7年	6年	5年	4年	3年	2年	1年	
積立利率	20年	0.64%	0.58%	0.51%	0.45%	0.38%	0.32%	0.26%	0.19%	0.13%	0.06%
保証期間	30年	0.39%	0.35%	0.31%	0.27%	0.23%	0.19%	0.16%	0.12%	0.08%	0.04%

※11 積立利率保証期間の満了日までの残存年数とします。

表②

未到来の生存給付金 支払日の回数 (※12)	30回	29回	28回	27回	26回	25回	24回	23回	22回	21回
生存給付金 支払回数	14回以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15回以上	—	0.92%	0.89%	0.85%	0.82%	0.79%	0.76%	0.73%	0.70%
未到来の生存給付金 支払日の回数	20回	19回	18回	17回	16回	15回	14回	13回	12回	11回
生存給付金 支払回数	14回以下	—	—	—	—	—	—	0.55%	0.51%	0.47%
	15回以上	0.63%	0.60%	0.57%	0.54%	0.51%	0.48%	0.44%	0.41%	0.38%
未到来の生存給付金 支払日の回数	10回	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回
生存給付金 支払回数	14回以下	0.43%	0.38%	0.34%	0.30%	0.26%	0.21%	0.17%	0.13%	0.09%
	15回以上	0.32%	0.29%	0.26%	0.22%	0.19%	0.16%	0.13%	0.10%	0.07%

※12 生存給付金支払日の翌日の率とします。

- 計算例（終身保障倍率が5倍、積立利率保証期間が20年、生存給付金支払回数が10回の場合で、契約日から5年を経過した年単位の契約応当日の翌日（未到来の生存給付金支払日の回数は4回）に解約した場合）

$$\text{積立金額に対して控除される率} = \frac{5 \times \text{表①} (0.89\%) + 4 \times \text{表②} (0.17\%)}{5 + 4} = 0.57\%$$



- ・ 市場価格調整の手法により、解約などをする際に、契約日（積立利率保証期間の更新後は、直前の積立利率保証期間更新日）と比して市場金利が上昇した場合は解約返還金額などが減少し、逆に市場金利が低下した場合は解約返還金額などが増加する傾向にあります。
- ・ 積立利率保証期間更新日から一定期間は、市場金利に変動がない場合でも、解約返還金額などが直前の積立利率保証期間満了時の解約返還金額などを下回る傾向にあります。

- この保険の解約返還金額は、つぎの算式により計算されます。【解約返還金額の計算方法の詳細はP33をご参照ください】

$$\text{解約返還金額} = \text{解約返還金計算日の積立金額} \times (1 - \text{市場価格調整率}) - \text{解約控除の額} (\text{※13})$$

※13 契約日の10年後の契約応当日以降は、解約控除はかかりません。

- * 最終の積立利率保証期間更新日以後は、解約返還金額は解約返還金計算日の積立金額となります。（市場価格調整は行いません。また、解約控除はかかりません。）
- * 第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外とした場合で、生存給付金積立金が積み立てられているときは、上記の算式により計算した解約返還金額に、解約返還金計算日における生存給付金積立金を加えた金額を解約返還金としてお支払いします。

為替リスク

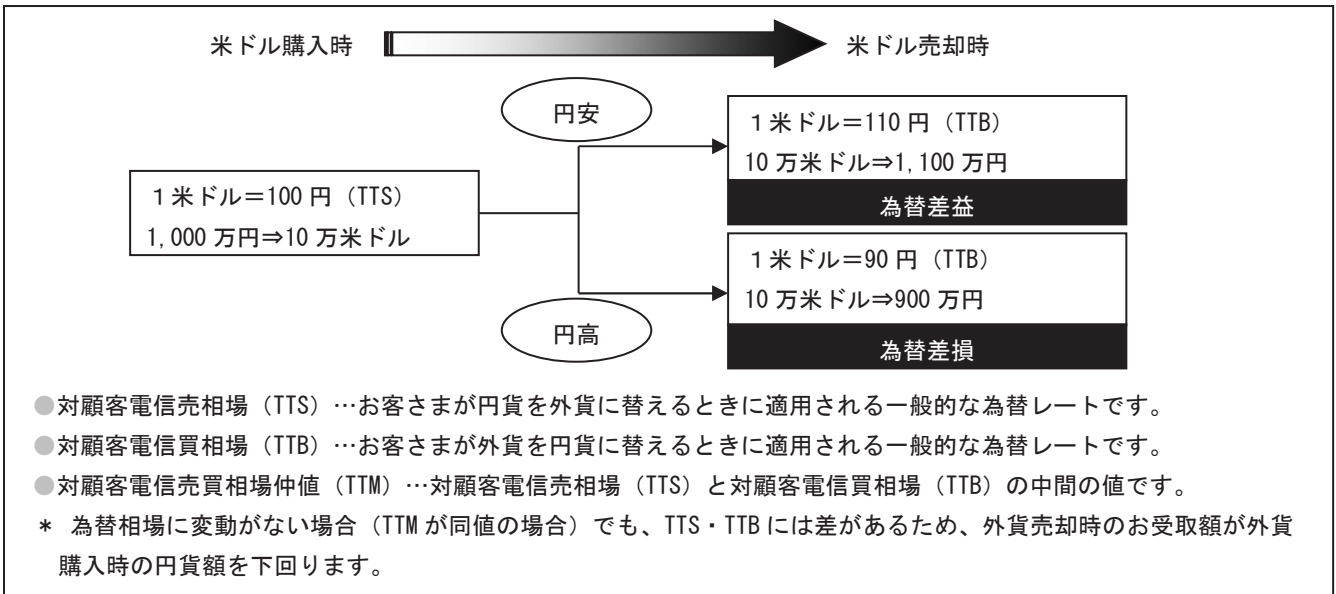
- ◆ 指定通貨が外貨の場合に生じるリスクです。
- 為替相場の変動による価格変動リスクを為替リスクといいます。
- この保険は、指定通貨が外貨の場合、為替相場の変動による影響を受けます。



・ 為替相場の変動により、お支払時の為替レートで円貨に換算した「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」、「死亡保険金とお支払いした生存給付金の合計額」などが、ご契約時の為替レートで円貨に換算した「解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額」、「死亡保険金とお支払いした生存給付金の合計額」などを下回る場合や、ご契約時の為替レートで円貨に換算した一時払保険料相当額を下回り損失が生じる場合があります。

- この保険にかかる為替リスクは、保険契約者、死亡保険金受取人または生存給付金受取人に帰属します。

■ 為替リスクの例（米ドルの場合）



保険料円貨入金特約

◆指定通貨が外貨の場合に付加することができる特約です。

この特約を付加することにより、円貨で金銭をお払い込みいただき、その金額を指定通貨建の一時払保険料に充当することができます。

●円貨でお払い込みいただく金額（以下「円貨払込金額」といいます。）の指定通貨建の一時払保険料への換算に適用する為替レートは、円貨払込金額を当社が受領する日（※1）における当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）（※2）を上限とする当社所定の為替レート（※3）となります。

※1 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※2 1日のうちに公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※3 「TTM+50 銭」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

●この特約を付加した場合、ご契約時の主契約の基本保険金額は、指定通貨建の一時払保険料と同額となります。

保険料外貨入金特約

◆指定通貨が外貨の場合に付加することができる特約です。

この特約を付加することにより、指定通貨と異なる外貨で金銭をお払い込みいただき、その金額を指定通貨建の一時払保険料に充当することができます。

●お払い込みいただける通貨の種類は、指定通貨が米ドルの場合は豪ドル、指定通貨が豪ドルの場合は米ドルとなります。

●指定通貨と異なる外貨でお払い込みいただく金額（以下「外貨払込金額」といいます。）の指定通貨建の一時払保険料への換算に適用する為替レートは、外貨払込金額を当社が受領する日（※1）における当社が指標として指定する金融機関が公示するお払い込みいただく外貨の対顧客電信買相場（TTB）（※2）を指定通貨の対顧客電信売相場（TTS）（※2）で除すことによって得られるレートを下限とする当社所定の為替レート（※3）となります。

※1 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※2 1日のうちに公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※3 「(払込通貨の TTM-25 銭) ÷ (指定通貨の TTM+25 銭)」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

●この特約を付加した場合、ご契約時の主契約の基本保険金額は、指定通貨建の一時払保険料と同額となります。

円貨支払特約

◆指定通貨が外貨の場合に付加することができる特約です。

この特約を付加することにより、主契約の死亡保険金などを円貨により受け取ることができます。

- この特約は、死亡保険金などのご請求の際に、死亡保険金受取人などからのお申出により付加できます。
- 外貨建の死亡保険金などの円貨への換算に適用する為替レートは、下表の円貨に換算する日における当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（※1）を下限とする当社所定の為替レート（※2）となります。

※1 1日のうちに公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※2 「TTM-50 銭」とします。（2026 年 4 月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

■お申出いただく方および円貨に換算する日は、項目ごとにつきのとおりとなります。

項目	お申出いただく方	円貨に換算する日
①死亡保険金	死亡保険金受取人	請求に必要な書類がお客さまサービスセンターに到着した日（※3）
②解約返還金	保険契約者	
③「死亡給付金等の年金払特約」による特約年金（※4）（※5）	特約年金受取人	
④「年金支払移行特約」による特約年金（※4）（※5）（※6）	特約年金受取人	特約年金支払開始日（※3）
⑤その他の返還金	保険契約者	返還金を当社が支払う日

※3 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※4 「円貨支払特約」の付加は第1回の特約年金の請求の際に限ります。また、「円貨支払特約」を付加した場合、以後、外貨で受け取ることはできません。

※5 「円貨に換算する日」の当社所定の為替レートで、死亡保険金額（③の場合）または特約年金原資額（④の場合）を円貨に換算し、その金額をもとに特約年金額を計算します。

※6 円貨に換算した特約年金額が当社所定の金額に満たない場合および年金支払期間中に支払われるべき円貨に換算した特約年金の合計額が円貨に換算した特約年金原資額に満たない場合は、「円貨支払特約」の付加は取り扱いません。

生存給付金等の円貨支払特約

◆指定通貨が外貨の場合に付加することができる特約です。

この特約を付加することにより、主契約の生存給付金を円貨により受け取ることができます。

- この特約は、保険契約者からのお申出により付加できます。
- 外貨建の生存給付金の円貨への換算に適用する為替レートは、下表の円貨に換算する日における当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（※1）を下限とする当社所定の為替レート（※2）となります。

※1 1日のうちに公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※2 「TTM」とします。（2026 年 4 月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

■お申出いただく方および円貨に換算する日は、つぎのとおりとなります。

項目	お申出いただく方	円貨に換算する日
生存給付金	保険契約者	指定生存給付金支払日（※3）

※3 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

- この特約を解約した場合、指定通貨によるお受取りとなります。



・生存給付金を毎年の指定生存給付金支払日における当社所定の為替レートで円貨に換算します。したがって、為替相場の変動による影響があることから、毎年の円貨でのお受取額は変動します。

生存給付金の円換算額上限設定特約

この特約を付加することにより、生存給付金について、円貨で設定した上限額をこえた場合にはそのこえた金額を繰越準備金として円貨で積み立てておき、次回以降の生存給付金が上限額を下回った場合に生存給付金として上乗せしてお支払いすることができます。

- この特約は、保険契約者からのお申出により付加できます。
- 特約の型は、通貨の種類に応じてA型またはD型をご指定いただけます。

通貨の種類	特約の型	生存給付金を支払う通貨	繰越準備金を積み立てる通貨
外貨	A型	円貨	円貨
円貨	D型		

- 生存給付金の円貨建の上限額は、この特約の締結の際に、10万円以上（1万円きざみ）で保険契約者に設定いただけます。また、上限額の変更を取り扱います。
- 生存給付金の支払額はつぎのとおりとし、円貨でお支払いします。

A型	主契約の生存給付金を指定生存給付金支払日（※1）における当社所定の為替レート（※2）を用いて円貨に換算した金額に繰越準備金を加えた金額（以下「対象額円換算額」といいます。）が上限額以上となる場合	上限額
	対象額円換算額が上限額未満となる場合	対象額円換算額
D型	主契約の生存給付金に繰越準備金を加えた金額（以下「対象額」といいます。）が上限額以上となる場合	上限額
	対象額が上限額未満となる場合	対象額

※1 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※2 当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）を下限とする当社所定の為替レート（※3）とします。1日のうちに対顧客電信買相場（TTB）の公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※3 「TTM」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

- つぎの場合には、下記の金額を繰越準備金として指定生存給付金支払日から当社所定の利率（金利水準などにより変更することがあります。）による利息をつけて積み立てます。

A型	対象額円換算額が上限額以上となる場合	対象額円換算額から上限額を差し引いた金額
D型	対象額が上限額以上となる場合	対象額から上限額を差し引いた金額

* 最終回の生存給付金支払時に繰越準備金がある場合は保険契約者にお支払いします。

- 死亡保険金または解約返還金をお支払いする場合で、繰越準備金が積み立てられているときは、つぎの金額を死亡保険金または解約返還金としてお支払いします。

A型	死亡保険金をお支払いする場合	主契約の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金をその日（※4）における当社所定の為替レート（※5）を用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額
	解約返還金をお支払いする場合	主契約の解約返還金に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金をその日（※4）における当社所定の為替レート（※5）を用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額
D型	死亡保険金をお支払いする場合	主契約の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額
	解約返還金をお支払いする場合	主契約の解約返還金に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金を加えた金額

※4 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※5 当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）を上限とする当社所定の為替レート（※6）とします。1日のうちに対顧客電信売相場（TTS）の公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※6 「TTM」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

- 通貨の種類が外貨の場合で、この特約を解約したときは、その後の生存給付金は指定通貨によるお受取りとなります。

- この特約を解約した場合で、繰越準備金が積み立てられているときは、保険契約者にお支払いします。
- 特約の型がA型で、死亡保険金または解約返還金を「円貨支払特約」を付加してお支払いする場合に繰越準備金が積み立てられているときは、つぎの金額を死亡保険金または解約返還金としてお支払いします。

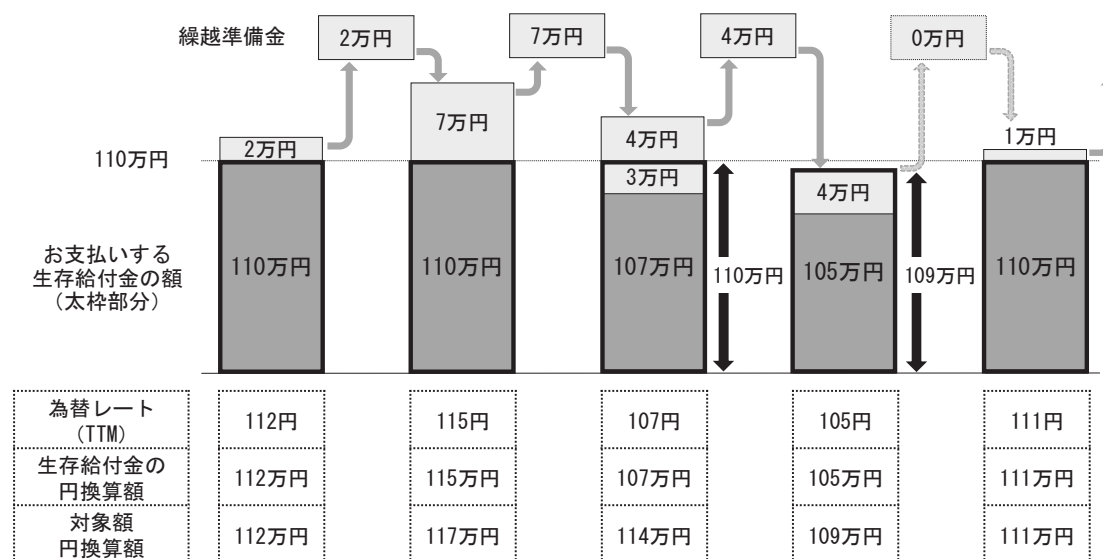
A型	死亡保険金をお支払いする場合	主契約の死亡保険金を円貨に換算した金額に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額
	解約返還金をお支払いする場合	主契約の解約返還金を円貨に換算した金額に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金を加えた金額

* 「円貨支払特約」はP21をご参照ください。

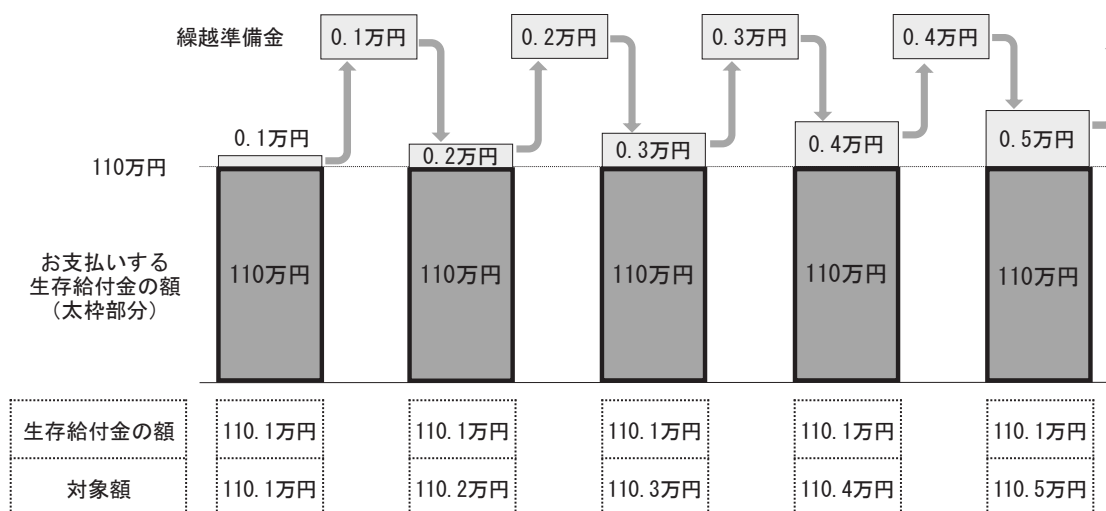
- 「年金支払移行特約」を付加した場合は、この特約は消滅したものとみなします。

■イメージ図（繰越準備金の利息は省略しています）

【特約の型がA型、主契約の生存給付金が1万米ドル、上限額が110万円の場合】




【特約の型がD型、主契約の生存給付金が110.1万円、上限額が110万円の場合】



年金支払移行特約

この特約を付加することにより、将来の死亡保険金および生存給付金のお支払いにかえて、年金支払に移行することができます。

- この特約は、主契約の契約日から起算して1年以上経過しているときで被保険者の年齢が90歳以下の場合に限り、保険契約者からのお申出により付加できます。
- 特約年金の種類は確定年金とし、この特約のお申込時に、年金支払期間および特約年金受取人を保険契約者にご指定いただきます。
- 第1回の特約年金の支払日（以下「特約年金支払開始日」といいます。）は、当社がこの特約の付加のお申込みをお客さまサービスセンターで受け付けた日（特約付加の申込書類に不備がある場合は、完備した日とします。）の翌日となります。第2回以後の特約年金支払日は特約年金支払開始日の年単位の応当日となります。



・特約年金額は、特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金相当額を特約年金原資額として、特約年金支払開始日における基礎率など（予定利率など）に基づいて計算します。

- 特約年金額が当社所定の金額に満たない場合および年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金相当額に満たない場合は、この特約の付加は取り扱いません。
- 特約年金支払開始日以後、特約年金のお支払いにかえて、特約年金の一括払を請求することもできます。この場合のお支払額は残余年金支払期間の未払特約年金の現価となります。
- この特約を付加した場合、主契約の解約およびこの特約のみの解約は取り扱いません。
- 「生存給付金の円換算額上限設定特約」が付加されている主契約にこの特約を付加した場合で、繰越準備金が積み立てられているときは、つぎのとおり取り扱います。
 - (1) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が(2)の特約年金原資額に満たない場合、この特約の付加は取り扱いません。
 - (2) 特約年金原資額はつぎの金額とします。

生存給付金の円換算額上限設定特約（A型）の場合	特約年金を指定通貨でお支払いする場合	特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金に、特約年金支払開始日の前日における繰越準備金をその日（※1）における当社所定の為替レート（※2）を用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額
	特約年金を「円貨支払特約」を付加して円貨でお支払いする場合	特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金を円貨に換算した金額に、特約年金支払開始日の前日における繰越準備金を加えた金額
生存給付金の円換算額上限設定特約（D型）の場合	特約年金を指定通貨でお支払いする場合	特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金に、特約年金支払開始日の前日における繰越準備金を加えた金額

※1 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※2 当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）を上限とする当社所定の為替レート（※3）とします。1日のうち対顧客電信売相場（TTS）の公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※3 「TTM」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

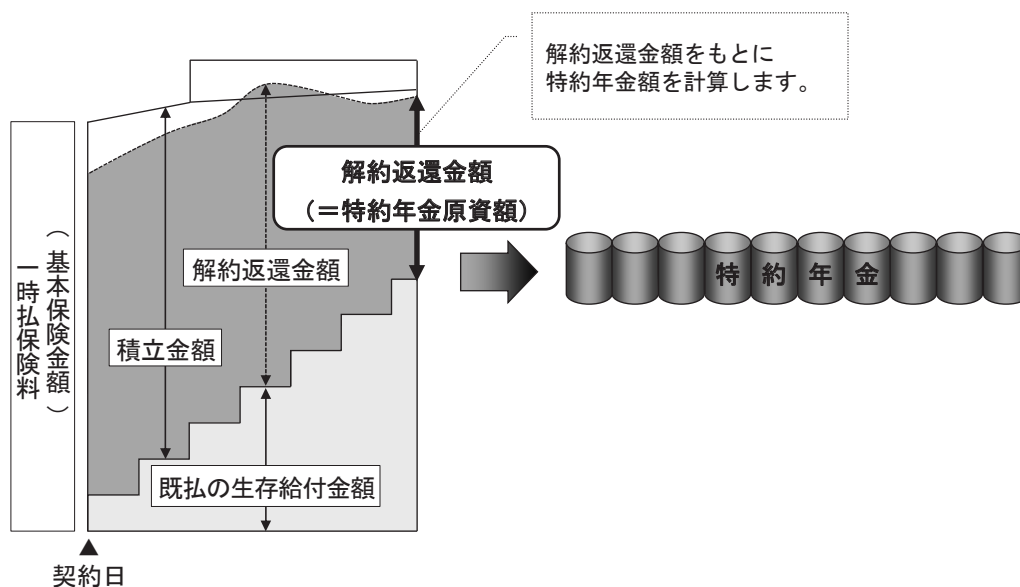
* 「円貨支払特約」はP21をご参照ください。

【特約年金のお支払い】

	お支払事由	お支払額	受取人
確定年金	被保険者が年金支払期間（※4）中の毎年の特約年金支払日に生存しているとき	特約年金額	特約年金受取人
	被保険者が特約年金支払開始日から年金支払期間中の最後の特約年金支払日の前日までに死亡したとき	残余年金支払期間の未払特約年金の現価	特約年金受取人

※4 3年、5年および10年の中から年金支払期間を選択いただけます。

■イメージ図



死亡給付金等の年金払特約

この特約を付加することにより、死亡保険金を一時金にかえて年金で受け取ることができます。

- この特約は、死亡保険金の支払事由の発生前に限り、保険契約者からのお申出により付加できます。
- 特約年金の支払回数は、この特約のお申込時に当社所定の回数（5回、10回、15回、20回、25回、30回、35回、40回）から選択いただけます。また、死亡保険金の支払事由の発生前で当社所定の基準を満たす場合に限り、支払回数の変更を取り扱います。（※1）
- ※1 死亡保険金の支払事由の発生後であっても、特約年金額が当社所定の金額に満たない特約年金受取人がいる場合で、変更後の回数により新たに計算した特約年金額が当社所定の金額以上となる場合は、その特約年金受取人にお支払いする特約年金の支払回数の変更を取り扱います。
- 第1回の特約年金の支払日（以下「特約年金支払開始日」といいます。）は死亡保険金の支払事由が生じた日となります。第2回以後の特約年金の支払日は特約年金支払開始日の年単位の応当日となります。



・特約年金額は、この特約の付加時点で定まるものではありません。特約年金額は、死亡保険金額を年金原資額として、死亡保険金の支払事由が生じた日における基礎率など（予定利率など）に基づいて計算します。（特約年金受取人が複数の場合は、各特約年金受取人についてそれぞれ計算します。）

- 特約年金額が当社所定の金額に満たないときは、その特約年金受取人について、特約年金のお支払いにかえて、死亡保険金を一時金にてお支払いします。なお、特約年金受取人が複数の場合は、各特約年金受取人についてそれぞれ当社所定の金額とします。
- 特約年金受取人は、年金支払期間中、将来の特約年金のお支払いにかえて特約年金の未支払分の現価の一時支払を請求することができます。（特約年金受取人が複数の場合は、特約年金受取人ごとに請求することができます。）
- この特約の解約は、死亡保険金の支払事由の発生前に限り取り扱います。

- この特約が付加されている主契約に「生存給付金の円換算額上限設定特約」があわせて付加されており、繰越準備金が積み立てられているときは、つぎの金額を死亡保険金額として特約年金額を計算します。

生存給付金の円換算額上限設定特約（A型）の場合	特約年金を指定通貨でお支払いする場合	主契約の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金をその日（※2）における当社所定の為替レート（※3）を用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額
	特約年金を「円貨支払特約」を付加して円貨でお支払いする場合	主契約の死亡保険金を円貨に換算した金額に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額
生存給付金の円換算額上限設定特約（D型）の場合	特約年金を指定通貨でお支払いする場合	主契約の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額

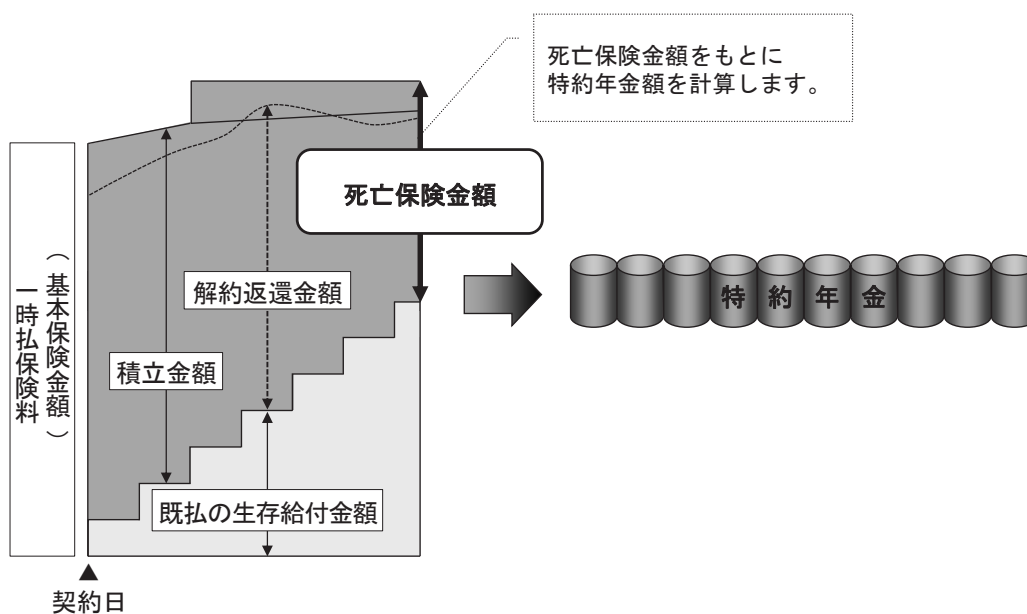
※2 その日が、当社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。

※3 当社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）を上限とする当社所定の為替レート（※4）とします。1日のうちに対顧客電信売相場（TTS）の公示の変更があった場合は、その日の最初の公示値とします。

※4 「TTM」とします。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

* 「円貨支払特約」はP21をご参照ください。

■イメージ図



「円貨支払特約」、「生存給付金等の円貨支払特約」、「生存給付金の円換算額上限設定特約」、「年金支払移行特約」および「死亡給付金等の年金払特約」については、2026年4月現在のお取扱いをご説明しており、将来変更することがあります。ご契約後に特約の付加を検討される場合は、お客さまサービスセンターにご連絡ください。

保険契約者代理特約

この特約を付加することにより、保険契約者（年金支払に移行後は、年金の受取人とします。以下同じ。）が被保険者の同意（被保険者の死亡後はこれを要しません。以下同じ。）および当社の承諾を得てあらかじめ指定した保険契約者代理人が、保険契約者のご契約に関する手続きを行うことができない特別な事情があるときに、保険契約者に代わって手続きを行うことができます。

1 代理手続きができる場合

- 保険契約者がつぎのいずれかに該当する場合には、あらかじめ指定した保険契約者代理人が、保険契約者に代わってご契約に関する手続きを行うことができます。

- (1) 認知症などにより手続きを行う意思表示が困難であると当社が認めた場合
- (2) (1)に準じる状態であると当社が認めた場合

2 代理手続きの対象となる手続き

- 保険契約者代理人は、保険契約の解約等、保険契約者が行うことができる手続きを代理することができます。（※1）ただし、つぎの手続きは代理手続きの対象外です。
 - ・ 保険契約者の変更
 - ・ 保険金等の受取人の変更（※2）
 - ・ 保険契約者代理人の変更
- ※1 保険契約者と保険金等の受取人が同一人の場合、保険金等の受取人が行うことができる請求手続きも代理することができます。
- ※2 生存給付金受取人については、保険契約者のみに変更する場合に限り、変更の手続きを代理することができます。

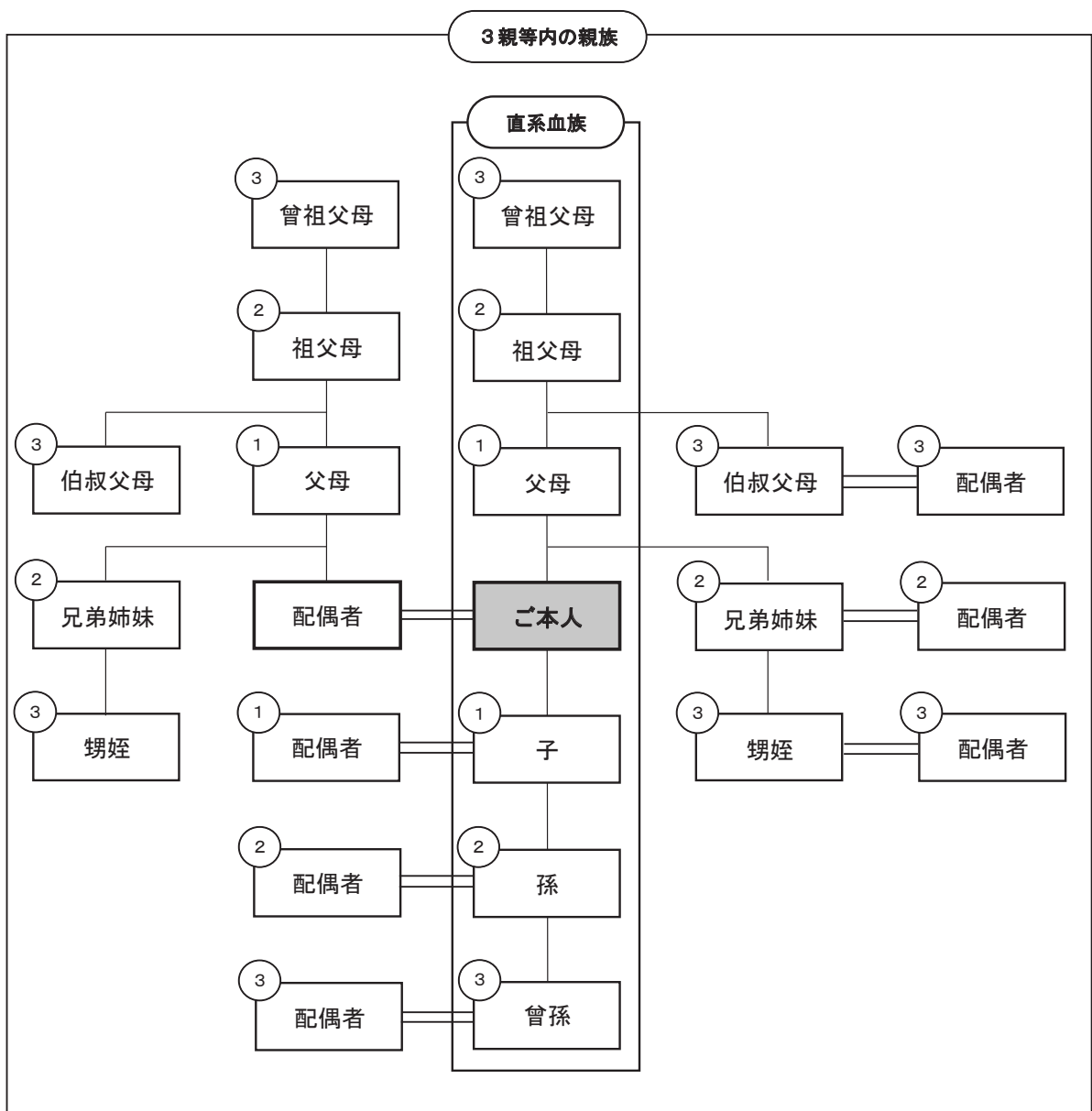
3 保険契約者代理人について

- 保険契約者代理人は、保険契約者が被保険者の同意および当社の承諾を得て、あらかじめご指定いただいた方となります。ただし、手続時において、つぎのいずれかに該当することが必要です。

- (1) 保険契約者の戸籍上の配偶者
 - (2) 保険契約者の直系血族
 - (3) 保険契約者の3親等内の親族
 - (4) 保険契約者と同居または生計を一にしている方
 - (5) 保険契約者の財産管理を行っている方
 - (6) 被保険者
 - (7) 保険金等の受取人
 - (8) その他(4)～(7)と同等の関係がある方
- * (4)～(8)は当社が認めた方に限ります。

- 保険契約者は、被保険者の同意および当社の承諾を得て、保険契約者代理人を変更することができます。この場合も、手続時において、上記の範囲内に該当することが必要です。

■ 戸籍上の配偶者、直系血族および3親等内の親族



● 故意に保険金等の支払事由を生じさせた者または故意に保険契約者をご契約に関する手続きができない状態に該当させた者は、代理手続きを行うことはできません。



- ・ 保険契約者が法人である場合は、この特約の付加はできません。
- ・ 保険契約者代理人からの申出に基づいて代理手続きを行った場合、当社から保険契約者にその旨のご連絡はいたしません。したがって、代理手続きの内容について保険契約者代理人しか知らない状況で、以後の契約内容が変わることや、ご契約が消滅することがあります。
- ・ 代理手続きにより保険金などの諸支払金をお支払いした場合には、その後同一の諸支払金の請求を受けても、重複してお支払いはしません。

◆ **お願い**

もしものときに保険契約者代理人が保険契約者の意向に沿った手続きができるように、保険契約者代理人を指定されるときや変更されるときには、保険契約者代理人になられる方へ、事前にご契約内容および保険契約者代理人が代理できる手続きの内容等についてお伝えください。

死亡保険金および生存給付金のお支払い

死亡保険金のお支払い

1 死亡保険金のお支払い

この保険における死亡保険金のお支払事由、お支払額および受取人はつぎのとおりです。

	お支払事由	お支払額	受取人
死亡 保険金	被保険者が契約日の2年後における年単位の契約応当日の前日までに死亡したとき	被保険者が死亡した時のつぎのいずれか大きい金額 ①積立金額 ②解約返還金額	死亡保険金受取人
	被保険者が契約日の2年後における年単位の契約応当日以後最初の積立利率保証期間の満了日までに死亡したとき	被保険者が死亡した時のつぎのいずれか大きい金額 ①基本終身保険金額および生存給付金支払日（※）が未到来の基本給付金額の総額の和 ②解約返還金額	
	被保険者が最初の積立利率保証期間の満了日の翌日以後に死亡したとき	被保険者が死亡した時のつぎのいずれか大きい金額 ①基本終身保険金額 ②解約返還金額	

※ 「生存給付金支払日」とは、契約日および契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日のことをいいます。ただし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。

* 第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外とした場合で、生存給付金積立金が積み立てられているときは、上表の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における生存給付金積立金を加えた金額を死亡保険金としてお支払いします。（上表のお支払額における解約返還金額に、生存給付金積立金は含みません。）

2 死亡給付金等の年金払特約について

● 「死亡給付金等の年金払特約」【詳細はP25をご参照ください】を付加することにより、死亡保険金について一時金にかえて、年金（特約年金）でお受取りいただくことができます。

生存給付金のお支払い

この保険における生存給付金のお支払事由、お支払額および受取人はつぎのとおりです。

	お支払事由	お支払額	受取人
生存 給付金	被保険者が指定生存給付金支払日が到来した時に生存しているとき	基本給付金額	生存給付金受取人

* 基本給付金額は、基本保険金額および契約日における積立利率などに基づき、契約日に定めます。

* 第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外とした場合、基本給付金額を直前の生存給付金支払日（※）から生存給付金積立金として当社所定の利率による利息をつけて積み立てた金額を生存給付金としてお支払いします。

※ 「生存給付金支払日」とは、契約日および契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日のことをいいます。ただし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。

生存給付金のお支払い後に、指定生存給付金支払日前の被保険者死亡が判明した場合は、お支払いした生存給付金を当社にご返金いただきます。

死亡保険金および生存給付金をお支払いできない場合



・つぎの①～⑦のいずれかに該当する場合、死亡保険金および生存給付金をお支払いできません。また、死亡保険金および生存給付金のお支払いのご請求に際して、事実の確認をさせていただくことがあります。

	免責・消滅事由	左記の場合の返還金の取扱い	
		金額	返還先
(死亡保険金) 免責となる場合	①ご契約の責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したとき（※1）	被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額	保険契約者
	②保険契約者の故意により被保険者が死亡したとき（①の場合を除きます。）	被保険者が死亡した時の解約返還金と同額	保険契約者
	③死亡保険金受取人の故意により被保険者が死亡したとき（①および②の場合を除きます。）	被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額（※2）	保険契約者
	④戦争その他の変乱により被保険者が死亡したとき	被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額（※3）	保険契約者
ご契約が消滅する場合	⑤重大事由によりご契約が解除されたとき	解除の通知を発信した日の解約返還金と同額。ただし、被保険者死亡のときは死亡した日の解約返還金と同額。	保険契約者
	⑥ご契約の締結に際し詐欺があったため、当社がご契約を取り消したとき	なし（保険料の払戻しはありません。）	なし
	⑦死亡保険金の不法取得目的をもって締結されたものとして、ご契約が無効になったとき	なし（保険料の払戻しはありません。）	なし

※1 自殺に際して心神喪失またはこれと同程度の著しい精神障害があり、自己の生命を絶つ認識がなかったと認められるときは、死亡保険金をお支払いすることがあります。

※2 死亡保険金の一部の受取人の故意によるときは、死亡保険金のうち、その受取人に支払われるべき金額を差し引いた残額を他の死亡保険金受取人にお支払いします。この場合、ご契約のうち支払われない部分については、その部分の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額を保険契約者にお支払いします。

※3 該当する被保険者の数の増加がこの保険の計算基礎に及ぼす影響が少ない場合には、その程度に応じ、死亡保険金の全額もしくは一部をお支払いすることがあります。（この場合の支払額は、被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額を下回ることはありません。）

* 免責・消滅事由①～⑤に該当した場合で、第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外としたときかつ生存給付金積立金が積み立てられているときは、上表の返還金に、被保険者が死亡した日（⑤の場合（被保険者死亡の場合を除く）は解除の通知を発信した日とします。）における生存給付金積立金を加えた金額を返還金としてお支払いします。（上表の返還金の取扱いにおける解約返還金額に、生存給付金積立金は含みません。）

■重大事由とはつぎの場合をいいます。(免責・消滅事由⑤の内容)

- (1) 保険契約者または死亡保険金受取人がご契約の死亡保険金を詐取する目的または第三者に詐取させる目的で事故招致(未遂を含みます。)をした場合
- (2) このご契約の死亡保険金の請求に関し、死亡保険金受取人に詐欺行為(未遂を含みます。)があった場合
- (3) 保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人が反社会的勢力(※4)に該当すると認められるとき、またはこれらの反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係(※5)を有していると認められるとき

※4 暴力団、暴力団員(脱退後5年を経過しない者を含みます。)、暴力団準構成員または暴力団関係企業その他の反社会的勢力をいいます。

※5 反社会的勢力に対する資金などの提供もしくは便宜の供与、反社会的勢力の不当な利用を行うことなどをいいます。また、保険契約者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人が法人の場合は、反社会的勢力による企業経営の支配または実質的な関与があることもいいます。

- (4) (1)～(3)のほか、当社の保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人に対する信頼を損ない、このご契約の存続を困難とする上記と同等の重大な事由がある場合

* 上記に定める事由が生じた後に、死亡保険金または生存給付金のお支払事由が生じていたときは、当社は死亡保険金または生存給付金をお支払いしません。(3)の事由にのみ該当した場合で、該当した者が複数の受取人のうち一部のみであったときに限り、死亡保険金または生存給付金のうち、(3)に該当した一部の受取人にお支払いすることとなっていた死亡保険金または生存給付金を除いた額を、他の受取人にお支払いします。この場合、ご契約のうち支払われない部分については、その部分の解約返還金と同額の返還金を保険契約者にお支払いします。また、すでに死亡保険金または生存給付金をお支払いしていたときは、その返還を請求します。

ご契約に際して

告知

この保険のご契約に際しては、保険契約者および被保険者に対し、告知を求めません。

ご契約内容などの確認

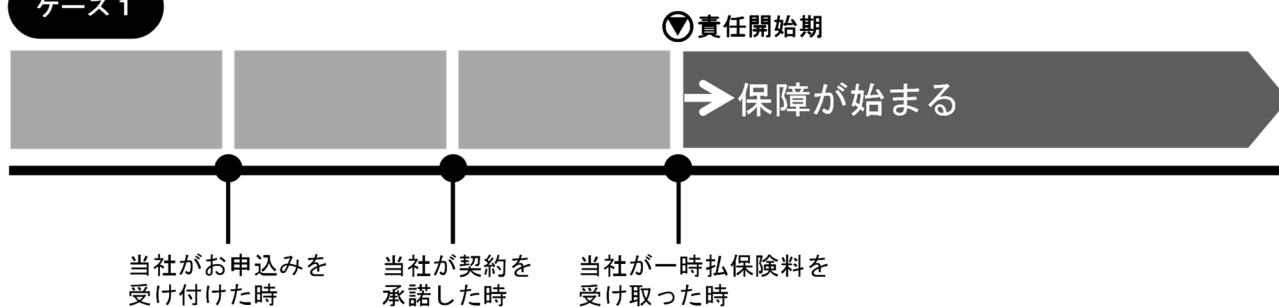
ご契約のお申込み後または死亡保険金などのご請求があったときに、当社社員または当社が委託した者が、お申込みの事実やご契約内容またはご請求内容などについて確認させていただくことがあります。

ご契約の成立と保障の責任開始期

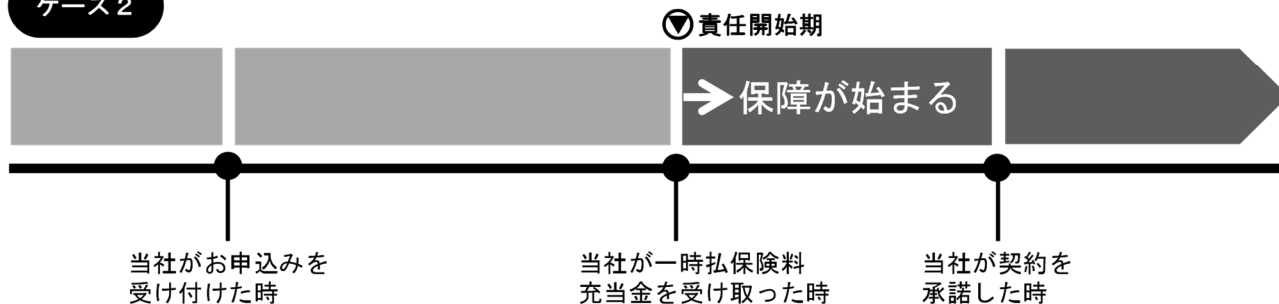
ご契約は、お客さまのお申込みと当社の承諾によって成立します。当社がお客さまのお申込みを承諾した場合には、保険証券の交付を行い承諾の通知といたします。この場合、一時払保険料（充当金）を当社が受け取った時から保険契約上の保障が開始されます。

責任開始期を図示すると、つぎのとおりとなります。

ケース 1



ケース 2



■ 契約日について

- この保険の契約日は、当社の責任が開始される日となります。

ご契約後について

解約と解約返還金

1 解約

- いつでも将来に向って、ご契約を解約することができます。
- ご契約を解約する場合は、当社所定の請求書類をご提出ください。(※1) 請求書類が当社に到着した日(書類に不備がある場合は、完備した日とします。)に解約の効力が生じます。
- ご契約を解約した場合、その保険の持つ効力はすべて失われます。
- 請求書類がお客さまサービスセンターに到着した日(書類に不備がある場合は、完備した日とします。)を解約返還金計算日とし、その日の積立金額を基準として解約返還金額を計算します。

※1 第一フロンティア生命マイページにて解約手続きを行うこともできます。この場合、解約の効力が生じる日(=解約日)および解約返還金計算日については、フロンティアWEBお手続きサービス利用規約をご確認ください。

2 解約返還金

- ご契約を解約した場合には、解約返還金が支払われます。
 - 解約返還金額は、つぎの(1)の額から、(2)の額を差し引いて計算されます。
 - (1) 解約返還金計算日の積立金額 × (1 - 市場価格調整率)
 - (2) 解約控除の額(この保険の基本保険金額に解約控除率(※2)を乗じた額)
- ※2 解約控除率は経過年数に応じた率となります。なお、契約日の10年後の契約応当日以降は、解約控除はかかりません。【詳細はP43をご参照ください】
- * 最終の積立利率保証期間更新日以後は、解約返還金額は解約返還金計算日の積立金額となります。(市場価格調整は行いません。また、解約控除はかかりません。)
 - * 第1回の指定生存給付金支払日を契約日以外とした場合で、生存給付金積立金が積み立てられているときは、上記の算式により計算した解約返還金額に、解約返還金計算日における生存給付金積立金を加えた金額を解約返還金としてお支払いします。

■ (1)の額の計算例(指定通貨が米ドル、第1回の指定生存給付金支払日が契約日、終身保障倍率が1倍、積立利率保証期間が20年、生存給付金支払回数が10回で、契約日から1年を経過した年単位の契約応当日の前日に解約返還金額を計算する場合)

●例1	●例2
・解約返還金計算日の積立金額(a) 100,000米ドル	・解約返還金計算日の積立金額(a) 100,000米ドル
・終身保障倍率(b) 1倍	・終身保障倍率(b) 1倍
・未到来の生存給付金支払日の回数(c) 9回	・未到来の生存給付金支払日の回数(c) 9回
〈市場価格調整率①〉	〈市場価格調整率①〉
・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①(d) 1.5%	・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①(d) 1.5%
・解約返還金計算日の市場価格調整用利率①(e) 2.0%	・解約返還金計算日の市場価格調整用利率①(e) 1.0%
・調整年数①(f) 11年	・調整年数①(f) 11年
〈市場価格調整率②〉	〈市場価格調整率②〉
・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②(g) 1.0%	・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②(g) 1.0%
・解約返還金計算日の市場価格調整用利率②(h) 1.5%	・解約返還金計算日の市場価格調整用利率②(h) 0.5%
・調整年数②(i) 3.44年	・調整年数②(i) 3.44年

市場価格調整率

$$= \frac{b \times \text{市場価格調整率①} + c \times \text{市場価格調整率②}}{b + c}$$

$$= \frac{1 \times 0.0628 + 9 \times 0.0202}{1 + 9}$$

$$= 0.0245$$

$$\text{市場価格調整率①} = 1 - \left(\frac{1 + d}{1 + e + 0.10\%} \right)^f$$

$$= 1 - \left(\frac{1 + 0.015}{1 + 0.02 + 0.001} \right)^{11}$$

$$= 0.0628$$

$$\text{市場価格調整率②} = 1 - \left(\frac{1 + g}{1 + h + 0.10\%} \right)^i$$

$$= 1 - \left(\frac{1 + 0.01}{1 + 0.015 + 0.001} \right)^{3.44}$$

$$= 0.0202$$

$$\begin{aligned} \text{(1) の額} &= a \times (1 - \text{市場価格調整率}) \\ &= 100,000 \text{ 米ドル} \times (1 - 0.0245) \\ &= 97,550 \text{ 米ドル} \end{aligned}$$

市場価格調整率

$$= \frac{b \times \text{市場価格調整率①} + c \times \text{市場価格調整率②}}{b + c}$$

$$= \frac{1 \times (-0.0444) + 9 \times (-0.0137)}{1 + 9}$$

$$= -0.0168$$

$$\text{市場価格調整率①} = 1 - \left(\frac{1 + d}{1 + e + 0.10\%} \right)^f$$

$$= 1 - \left(\frac{1 + 0.015}{1 + 0.01 + 0.001} \right)^{11}$$

$$= -0.0444$$

$$\text{市場価格調整率②} = 1 - \left(\frac{1 + g}{1 + h + 0.10\%} \right)^i$$

$$= 1 - \left(\frac{1 + 0.01}{1 + 0.005 + 0.001} \right)^{3.44}$$

$$= -0.0137$$

$$\begin{aligned} \text{(1) の額} &= a \times (1 - \text{市場価格調整率}) \\ &= 100,000 \text{ 米ドル} \times (1 - (-0.0168)) \\ &= 101,680 \text{ 米ドル} \end{aligned}$$

* 端数処理などは実際の取扱いと異なります。

* 市場価格調整率および調整年数の詳細はP16～P17をご参照ください。

■解約返還金額例（女性 70 歳、指定通貨が米ドル、第 1 回の指定生存給付金支払日が契約日、終身保障倍率が 1 倍、積立利率保証期間が 20 年、生存給付金支払回数が 10 回、一時払保険料が 100,000 米ドル、適用されている積立利率が 2.0%、適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①が 3.5%、適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②が 3.5%の場合）

経過期間	積立金額 (米ドル)	解約返還金額 (米ドル)					お支払いした 生存給付金の総額 (米ドル) [回数]
		市場価格調整用利率の変動幅					
		3.0%上昇	1.0%上昇	同水準	1.0%低下	3.0%低下	
<参考> 1日	90,040	—	—	84,941	—	—	10,109 [1回]
1年	91,688	76,480	83,034	86,617	90,429	98,827	10,109 [1回]
2年	83,210	70,229	75,692	78,672	81,838	88,800	20,219 [2回]
3年	74,497	63,579	68,049	70,486	73,073	78,757	30,328 [3回]
4年	65,616	56,577	60,167	62,124	64,203	68,775	40,438 [4回]
5年	56,563	49,211	52,038	53,584	55,228	58,853	50,548 [5回]
7年	37,929	33,342	35,023	35,953	36,950	39,174	70,767 [7回]
9年	18,560	15,888	16,958	17,557	18,205	19,662	90,986 [9回]
10年	8,585	6,616	7,545	8,061	8,616	9,857	101,096 [10回]
15年	9,279	8,430	8,965	9,249	9,546	10,176	101,096 [10回]
20年	10,103	10,103	10,103	10,103	10,103	10,103	101,096 [10回]

* 「市場価格調整用利率の変動幅」とは、「解約返還金計算日の市場価格調整用利率①」と「適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①」との差および「解約返還金計算日の市場価格調整用利率②」と「適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②」との差のことをいいます。【詳細はP16をご参照ください】

* 上表は市場価格調整用利率①および市場価格調整用利率②の変動幅を同じとした場合の例です。また、市場価格調整用利率の変動幅は上限および下限を示すものではありません。したがって、実際の解約返還金額が例示の金額を下回る場合があります。

* 積立金額および解約返還金額は、経過期間が 1 日の場合は契約日の金額（第 1 回の生存給付金をお支払いした後の金額）を、1 年から 20 年の場合は年単位の契約応当日の前日の金額を例示しています。また、解約返還金額は、解約控除（この保険の基本保険金額×経過年数に応じた解約控除率）を差し引いて計算しています。なお、契約日の 10 年後の契約応当日以降は、解約控除はかかりません。【詳細はP43をご参照ください】

* 上表に記載の金額は、1 米ドル未満切捨てにより表示しています。

* 経過期間が 1 日の場合の金額を例示していますが、ご契約の申込日または一時払保険料充当金を当社が受け取った日のいずれか遅い日から起算して 8 日以内（土日、祝日、年末・年始などの休日を含みます。）であれば、クーリング・オフ制度を利用することができます。【詳細はP9をご参照ください】



・ご契約後短期間で解約した場合、解約返還金とお支払いした生存給付金の合計額が一時払保険料相当額を大きく下回ることがあります。

被保険者による保険契約者への解約の請求

保険契約者と被保険者が異なるご契約の場合、つぎに掲げる事由に該当するときは、被保険者は保険契約者に対し、ご契約の解約を請求することができます。この場合、被保険者から解約の請求を受けた保険契約者は、ご契約の解約を行う必要があります。

- ① 保険契約者または死亡保険金受取人が当社に保険給付を行わせることを目的として死亡保険金のお支払事由を発生させた場合、または発生させようとした場合
- ② 死亡保険金受取人がこのご契約の死亡保険金の請求について詐欺を行った場合、または行おうとした場合
- ③ 上記①および②のほか、被保険者の保険契約者または死亡保険金受取人に対する信頼を損ない、ご契約の存続を困難とする重大な事由がある場合
- ④ 保険契約者と被保険者との間の親族関係の終了その他の事情により、被保険者がご契約のお申込みの同意をするにあたって基礎とした事情が著しく変化した場合

死亡保険金受取人によるご契約の存続

保険契約者の差押債権者、破産管財人など（以下「債権者など」といいます。）によるご契約の解約は、解約の通知が当社に到着した時から1か月を経過した日に効力を生じます。

債権者などが解約の通知を行った場合でも、解約が当社に通知された時において、つぎのすべてを満たす死亡保険金受取人はご契約を存続させることができます。

- ① 保険契約者の親族、被保険者の親族または被保険者本人であること
- ② 保険契約者でないこと

死亡保険金受取人がご契約を存続させるためには、解約の通知が当社に到着した時から1か月を経過する日までの間に、つぎのすべての手続きを行う必要があります。

- ① 保険契約者の同意を得ること
- ② 解約の通知が当社に到着した日に解約の効力が生じたとすれば当社が債権者などに支払うべき金額を、債権者などに対して支払うこと
- ③ 上記②について、債権者などに支払った旨を当社に対して通知すること（当社への通知についても期間内に行うこと）

保険契約者、死亡保険金受取人および生存給付金受取人の変更

(1) 保険契約者の変更

- 保険契約者は、被保険者および当社の同意を得て、保険契約者を変更することができます。
- 保険契約者を変更しますと、保険契約上の権利義務（受取人を変更する権利など）はすべて新たな保険契約者に引き継がれます。

(2) 死亡保険金受取人の変更

- 保険契約者は、死亡保険金の支払事由の発生前に限り、被保険者の同意を得て、死亡保険金受取人を変更することができます。この場合、当社へご通知ください。
- 死亡保険金受取人は、原則として、被保険者の配偶者または被保険者の3親等内の姻族もしくは6親等内の血族である方のうちからご指定願います。
- 死亡保険金受取人が死亡したときは、すみやかにお客さまサービスセンターにご通知ください。
 - 新しい死亡保険金受取人に変更する手続きをしていただきます。

- 死亡保険金受取人の死亡時以後、死亡保険金受取人の変更手続きが行われていない間は、死亡保険金受取人の死亡時の法定相続人が死亡保険金受取人となります。

* 死亡保険金受取人となった人が2人以上いる場合は、死亡保険金の受取割合は均等となります。

A (夫) B (妻)

C (子) D (子)

(例) 保険契約者および被保険者：Aさん 死亡保険金受取人：Bさん

- Bさんが死亡し、死亡保険金受取人の変更手続きが行われていない間は、Bさんの死亡時の法定相続人であるAさん、CさんおよびDさんが死亡保険金受取人となります。
- その後、Aさんが死亡した場合は、CさんおよびDさんが死亡保険金受取人となります。この場合、CさんおよびDさんの死亡保険金の受取割合は均等（それぞれ50%ずつ）となります。

* 死亡保険金受取人の範囲などは、ご契約の形態、ご親族の構成、死亡した順序などにより決まります。詳しくは、お客さまサービスセンターにお問い合わせください。

(3) 生存給付金受取人の変更

- 保険契約者は、被保険者の同意を得て、生存給付金受取人を変更することができます。この場合、当社へご通知ください。
- 生存給付金受取人は、原則として、保険契約者、被保険者、被保険者の配偶者または被保険者の3親等内の姻族もしくは6親等内の血族である方のうちからご指定願います。（ただし、保険契約者と被保険者が別人の場合は、保険契約者または被保険者のみご指定できます。）
- 遺言による生存給付金受取人の変更はできません。
- 生存給付金受取人が死亡したときは、すみやかにお客さまサービスセンターにご通知ください。
 - 生存給付金受取人の死亡時以後、生存給付金受取人の変更手続きが行われていない間は、保険契約者が生存給付金受取人となります。

(4) 遺言による死亡保険金受取人の変更

- 死亡保険金受取人の変更については、法律上有効な遺言により行うことができます。この場合、保険契約者が死亡した後、保険契約者の相続人（遺言執行者が指定されているときは遺言執行者を含みます。）から当社へご通知ください。
- 遺言による死亡保険金受取人の変更は、被保険者の同意がなければ、その効力を生じません。



・当社が死亡保険金または生存給付金の受取人の変更の通知を受ける前に、変更前の死亡保険金または生存給付金の受取人に死亡保険金または生存給付金をお支払いしたときは、そのお支払い後に変更後の死亡保険金または生存給付金の受取人から死亡保険金または生存給付金の請求を受けても、当社は死亡保険金または生存給付金をお支払いしません。

◆死亡保険金などの税法上の取扱い

- 死亡保険金などをお受取りの際は、保険契約者・被保険者・受取人の関係によって税法上の取扱いが異なります。
- 保険契約者または受取人の変更の際は、税法上の取扱いを十分ご確認のうえご請求願います。

住所などの変更・保険証券の再発行のお手続き

1 住所などの変更

(1) 住所・電話番号を変更するとき

すみやかにお客さまサービスセンターに、つぎの事項をご連絡ください。

- ・保険証券番号（同時に変更すべき他のご契約もお知らせください。）
- ・保険契約者名 ・新住所と電話番号 ・旧住所

(2) 保険契約者、被保険者、受取人、保険契約者代理人が改姓または改名したとき

すみやかにお客さまサービスセンターにご連絡ください。お手続きに必要な書類などについてご案内いたします。



・住所・電話番号の変更などについて当社へご連絡がない場合、当社から大切なお知らせなどの通知をお届けできなくなるため、必ずご連絡ください。

2 保険証券の再発行

- 保険証券を紛失または盗難にあわれた場合、すみやかにお客さまサービスセンターにご連絡ください。お手続きに必要な書類などについてご案内いたします。

死亡保険金または生存給付金のご請求方法

死亡保険金または生存給付金の支払事由が生じた場合には、すみやかにお客さまサービスセンターにご連絡ください。請求書類など、ご請求にあたっての詳しいご案内をさせていただきます。

- 諸手続きをする場合には、ご本人であることを確認させていただいておりますので、ご了承願います。また、代理人の方が手続きをする場合には、委任状および代理人の方の本人確認のできる書類が必要です。
- 団体（個人事業主を含みます。）を保険契約者および死亡保険金受取人とし、その従業員を被保険者とする契約形態の場合において、団体が受け取った保険金を死亡退職金または弔慰金など（以下「死亡退職金など」といいます。）として死亡退職金などの受給者に支払うときは、死亡保険金の請求の際に、当社所定の請求書類に加えて、死亡退職金などの受給者が保険金の請求内容を了知していることがわかる書類もご提出いただく必要があります。この場合、死亡退職金などの受給者については、当該受給者であることの証明書を必要とします。

お客さまからのご請求に応じて、死亡保険金などのお支払いを行う必要がありますので、死亡保険金などのお支払事由が生じた場合のほか、ご不明な点が生じた場合などについても、すみやかにお客さまサービスセンターにご連絡ください。

死亡保険金または生存給付金のお支払期限

死亡保険金または生存給付金のご請求があった場合、当社は請求書類が当社に到着した日（書類に不備がある場合は、完備した日とします。また、請求書類が当社に到着した日が営業日でない場合は、その日の翌営業日となります。以下同じ。）の翌日から起算して5営業日（※）以内にお支払いします。

ただし、死亡保険金または生存給付金をお支払いするための確認・照会・調査が必要な場合は、つぎのとおりとします。

	死亡保険金または生存給付金をお支払いするための確認などが必要な場合	お支払期限
①	<ul style="list-style-type: none"> ● お支払事由発生の有無の確認が必要な場合 ● 免責事由に該当する可能性がある場合 ● 不法取得目的、詐欺または重大事由に該当する可能性がある場合 	請求書類が当社に到着した日の翌日から起算して 45 日以内にお支払いします。
②	<ul style="list-style-type: none"> ①の確認を行うために特別な照会や確認が必要なつぎの場合 ● 弁護士法に基づく照会その他の法令に基づく照会が必要な場合 ● 研究機関などの専門機関による医学または工学などの科学技術的な特別の調査、分析または鑑定が必要な場合 ● 保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人を被疑者として、捜査、起訴その他の刑事手続が開始されたことが報道などから明らかである場合における、送致、起訴、判決などの刑事手続の結果についての警察、検察などの捜査機関または裁判所に対する照会が必要な場合 ● 日本国外における調査が必要な場合 	請求書類が当社に到着した日の翌日から起算して 180 日以内にお支払いします。

※ 営業日とは、以下の日を除く日をいいます。

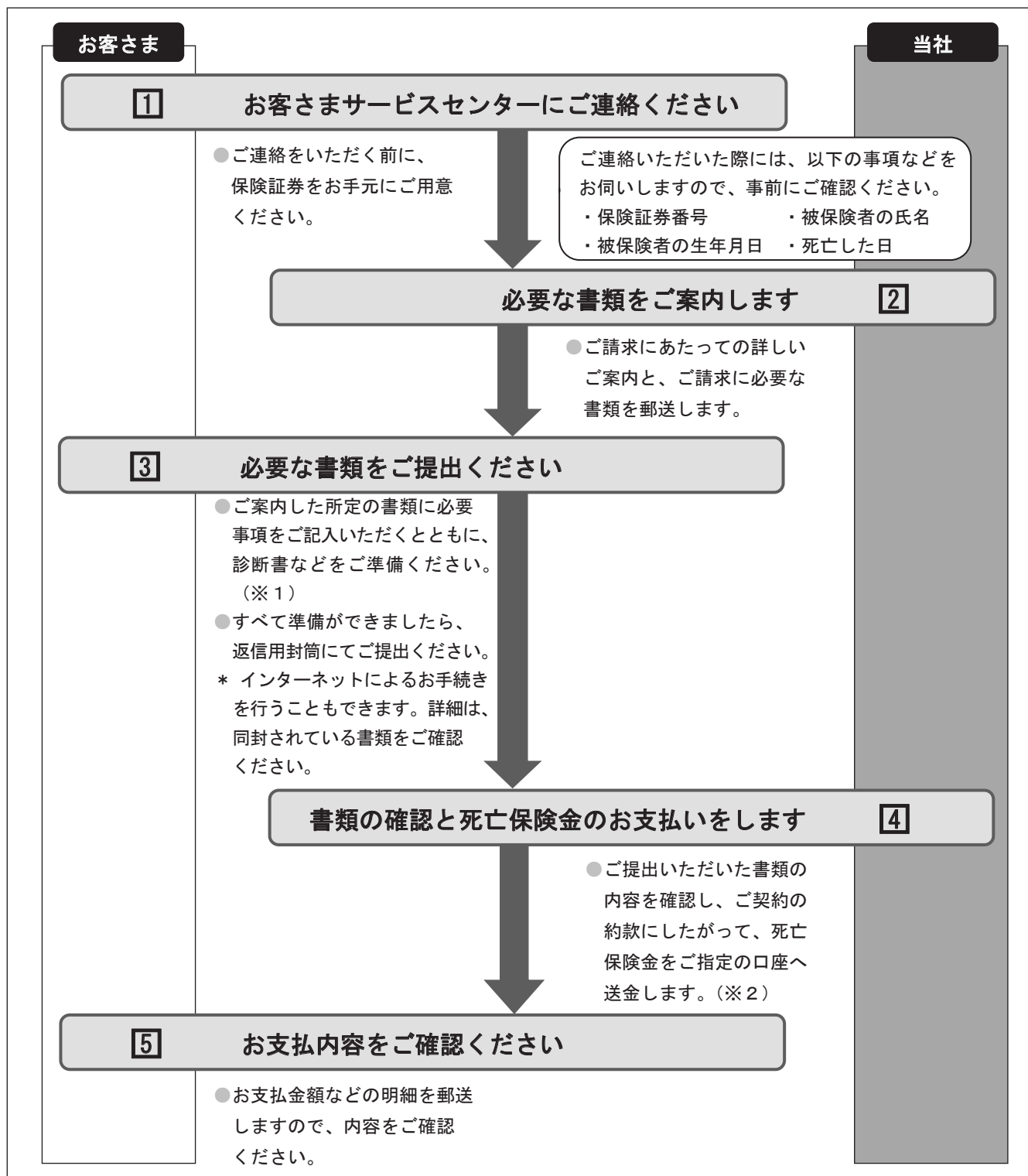
- ・ 土曜日、日曜日
- ・ 「国民の祝日に関する法律」に規定する休日
- ・ 12月31日から翌年1月3日まで



- ・ 死亡保険金または生存給付金をお支払いするための上記の確認などに際し、保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人などが正当な理由なくその確認などを妨げ、または確認などに応じなかったときは、当社はこれにより確認などが遅延した期間の遅滞の責任を負わず、その間は死亡保険金または生存給付金をお支払いしません。

死亡保険金のご請求手続きの流れ

●死亡保険金のご請求は、つぎの流れに沿って、死亡保険金受取人から行ってください。



※1 ご請求の内容によって診断書、戸籍謄(抄)本、住民票などをご提出いただけます。また、これらの書類の発行にかかる費用はお客さまのご負担となりますので、あらかじめご了承ください。

※2 ご提出いただいた書類を確認した結果、死亡保険金をお支払いできない場合【詳細はP30をご参照ください】があります。また、加入時の状況または事故の原因などについて、詳細な事実を確認(医療機関などへの確認を含みます。)させていただくため、死亡保険金のお支払いまでに日数を要する場合【詳細はP38をご参照ください】があります。

第一フロンティア生命 お客さまサービスセンター
フリーダイヤル 0120-876-126
営業時間 9:00~17:00(土日、祝日、年末年始などの休日を除く)

死亡保険金または生存給付金の請求訴訟

死亡保険金または生存給付金の請求に関する訴訟については、当社の本社所在地または受取人の住所地を管轄する高等裁判所（支部を除きます。）の所在地を管轄する地方裁判所を、合意による管轄裁判所とします。

生命保険と税金

この保険にかかわる主な税務は以下のとおりです。

外貨建の保険契約であっても、日本において契約される保険契約であることから、税務の取扱いについては、他の円貨建の生命保険と同様になります。

- * 保険契約者が法人である場合には、法人税、事業税および住民税などに関する取扱いになりますのでご注意ください。
- * 所得税に対しては、復興特別所得税が別途課税されます。また、新たな付加税が導入された場合、そちらもあわせて課税されますのでご注意ください。
- * 最新の税務上の取扱い、復興特別所得税・生命保険料控除などの情報は国税庁のホームページなどをご参照ください。

1 外貨建の保険契約の取扱い（指定通貨が外貨の場合の取扱い）

外貨建の保険料、死亡保険金などは、つぎの基準により円貨に換算したうえで取り扱われます。

項目		円換算日	換算日の為替レート
保険料		当社が保険料を受領する日	円換算日最終の 対顧客電信売買相場仲値（TTM）
死亡保険金	所得税（一時所得）の 対象となるもの	支払事由発生日	円換算日最終の 対顧客電信売買相場仲値（TTM）
	相続税・贈与税の 対象となるもの		円換算日最終の 対顧客電信買相場（TTB）
生存給付金	所得税（雑所得）の 対象となるもの	指定生存給付金支払日	円換算日最終の 対顧客電信売買相場仲値（TTM）
	贈与税の 対象となるもの		円換算日最終の 対顧客電信買相場（TTB）
解約返還金	所得税（一時所得）の 対象となるもの	解約返還金計算日	円換算日最終の 対顧客電信売買相場仲値（TTM）
	源泉分離課税の 対象となるもの		円換算日最終の 対顧客電信買相場（TTB）

- * 「保険料円貨入金特約」を付加した場合は、上表の保険料については円貨払込金額となります。
- * 「保険料外貨入金特約」を付加した場合は、上表の保険料については外貨払込金額を円換算した金額となります。
- * 「円貨支払特約」、「生存給付金等の円貨支払特約」または「生存給付金の円換算額上限設定特約」を付加した場合で、当社が、死亡保険金、生存給付金などを円貨でお支払いしたときは、そのお支払いした金額が課税対象となります。

・外貨でお受取りになる場合であっても、お受取額を円貨に換算した金額が課税対象となります。そのため、外貨建のお受取額から外貨に換算した税額を控除した金額が、外貨建の一時払保険料相当額を下回ることがあります。

2 死亡保険金および生存給付金などの税法上の取扱い

(1) 死亡保険金の取扱い

保険契約者（保険料負担者）・被保険者・死亡保険金受取人の関係に応じてつぎのとおり取り扱われます。

契約形態	契約例			税の種類
	保険契約者	被保険者	死亡保険金受取人	
保険契約者と被保険者が同一人	A	A	B	相続税
保険契約者と死亡保険金受取人が同一人	A	B	A	所得税（一時所得）（※1）＋住民税
保険契約者、被保険者、死亡保険金受取人がそれぞれ別人	A	B	C	贈与税

(2) 生存給付金の取扱い

保険契約者（保険料負担者）・生存給付金受取人の関係に応じてつぎのとおり取り扱われます。

契約形態	税の種類
保険契約者と生存給付金受取人が同一人	所得税（雑所得）＋住民税
保険契約者と生存給付金受取人が別人	贈与税

* 最終回の生存給付金支払時に保険契約者にお支払いする繰越準備金は、保険契約者と生存給付金受取人が同一人のときは「所得税（雑所得）＋住民税」、保険契約者と生存給付金受取人が別人のときは「所得税（一時所得）（※1）＋住民税」の対象（終身保障倍率が0倍で、生存給付金支払回数が5回の場合は、20%源泉分離課税（※2）の対象）となります。

(3) 解約の際の取扱い

解約の際に差益があるときは、その差益について、つぎのとおり取り扱われます。

終身保障倍率	税の種類	
	契約日から5年以内の解約の場合	契約日から5年超の解約の場合
0倍	20%源泉分離課税（※2）	
1倍・3倍・5倍	所得税（一時所得）（※1）＋住民税	

※1 他の一時所得と合算して年間50万円限度の特別控除があります。特別控除をこえる部分はその1/2の金額が他の所得と合算して総合課税されます。

※2 復興特別所得税が別途課税されます。また、新たな付加税が導入された場合、そちらもあわせて課税されます。



・ここに記載の税務上の取扱いは2025年12月現在のものです。法令改正などにより税務の取扱いが変更となった場合には、変更後の内容が適用されますのでご注意ください。また、個別の取扱いなどについては、税理士などの専門家または所轄の税務署にご確認ください。

お客さまにご負担いただく諸費用

お客さまにご負担いただく諸費用

この保険にかかる費用は、以下の①積立利率保証期間中の費用です。そのほか、特定のお客さまには、②通貨の換算にかかる費用、③特約年金支払開始日以後の費用、④ご契約の解約などの際の費用をご負担いただきますので、費用の合計額は、①のほか、②から④までのうち必要な費用を合算した額となります。

① 積立利率保証期間中の費用

積立利率保証期間中、積立金から死亡保険金を支払うための費用を控除します。

* 上記の費用は、契約年齢、性別、経過期間などによって異なるため、具体的な数値や計算方法は表示しておりません。

また、積立利率の計算にあたって、ご契約の締結・維持などに必要な費用および死亡保険金を支払うための費用の率（＝保険契約関係費率）をあらかじめ差し引いております。

② 通貨の換算にかかる費用

指定通貨が外貨の場合、以下の特約により、保険料、死亡保険金額、解約返還金額などを円貨から指定通貨、指定通貨から円貨などにそれぞれ換算する為替レートには為替手数料が反映されており、当該手数料はお客さまのご負担となります。

■具体的な為替手数料は、以下のとおりとなります。（2026年4月現在の数値であり、将来変更することがあります。）

特約	為替手数料（1通貨単位あたり）
「保険料円貨入金特約」	50 銭
「保険料外貨入金特約」	払込通貨から円貨に換算するときに 25 銭、 円貨から指定通貨に換算するときに 25 銭
「円貨支払特約」	50 銭
「生存給付金等の円貨支払特約」	0 銭
「生存給付金の円換算額上限設定特約」 における生存給付金の円貨への換算	0 銭

③ 特約年金支払開始日以後の費用

「年金支払移行特約」および「死亡給付金等の年金払特約」を付加した場合、年金支払期間中の毎年の特約年金支払日に、つぎの費用をご負担いただきます。

項目	目的	費用	時期
保険契約関係費 (年金管理費) (※1)	年金支払管理に必要な費用 です。	支払われる特約年金額に 対して 1.0% (円貨の場合は 最大 0.35%)	特約年金支払開始日以後、 特約年金支払日に控除 します。

※1 特約年金額は、特約年金支払開始日以後、特約年金の支払いとともに上記の費用を控除する前提で算出されますので、費用が特約年金額から差し引かれるものではありません。

また、保険契約関係費（年金管理費）は 2026 年 4 月現在の数値であり、将来変更されることがあります。ただし、特約年金支払開始日以後は、特約年金支払開始時点の数値が年金支払期間を通じて適用されます。

4 ご契約の解約などの際の費用

ご契約を解約する場合などに、つぎの費用をご負担いただきます。

項目	目的	費用	時期
解約控除	ご契約の解約などの際に必要な費用です。	この保険の基本保険金額に経過年数に応じた解約控除率（※2）を乗じた金額	ご契約の解約などの際に控除します。

※2 解約控除率は経過年数に応じたつぎの率となります。なお、契約日の10年後の契約応当日以降は、解約控除はかかりません。

■指定通貨が米ドルまたは豪ドルの場合

終身保障 倍率	生存 給付金 支払回数	1年 未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満
		0倍	5回	2.00%	1.13%	0.50%	0.13%	—	—	—	—
	7回	3.00%	2.08%	1.33%	0.75%	0.33%	0.08%	—	—	—	—
	10回	4.70%	3.71%	2.84%	2.09%	1.45%	0.93%	0.52%	0.23%	0.06%	—
	15回 20回 25回 30回	4.70%	4.23%	3.76%	3.29%	2.82%	2.35%	1.88%	1.41%	0.94%	0.47%
1倍 3倍	3回 5回 7回 10回	4.70%	4.23%	3.76%	3.29%	2.82%	2.35%	1.88%	1.41%	0.94%	0.47%

■指定通貨が円の場合

終身保障 倍率	生存 給付金 支払回数	1年 未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満
		0倍	10回	1.82%	1.44%	1.10%	0.81%	0.56%	0.36%	0.20%	0.09%
	11回 ～14回	2.05%	1.66%	1.31%	1.00%	0.74%	0.51%	0.33%	0.18%	0.08%	0.02%
	15回 ～20回	2.40%	2.16%	1.92%	1.68%	1.44%	1.20%	0.96%	0.72%	0.48%	0.24%
5倍	10回 20回 30回	2.40%	2.16%	1.92%	1.68%	1.44%	1.20%	0.96%	0.72%	0.48%	0.24%



・保険料を外貨でお支払いになる際には、銀行への振込手数料などの手数料を保険契約者にご負担いただく場合があります。また、死亡保険金額、生存給付金額、解約返還金額などを外貨でお受取りになる際には、取扱金融機関により諸手数料などの実費をご負担いただく場合があります。当該手数料はお客さまのご負担となります。

* 上記の諸手数料は取扱金融機関によって異なります。

会社・制度のご案内

当社の組織形態

保険会社の組織形態には「相互会社」と「株式会社」があり、当社は株式会社です。
株式会社は株主の出資により運営されるものであり、株式会社の保険契約者は、相互会社の保険契約者のように「社員」（構成員）として会社の運営に参加することはできません。

個人情報の取扱い

当社では、お客さまの個人情報を以下に記載する利用目的の達成に必要な範囲にのみ利用し、それ以外の目的には利用しません。

- (1) 各種保険契約のお引き受け・ご継続・維持管理、年金・保険金・給付金等のお支払い
- (2) 当社のグループ会社・関連会社・提携会社を含む各種商品・サービスのご案内・提供（※）、ご契約の維持管理
- (3) 当社業務に関する情報提供・運営管理、商品・サービスの充実
- (4) その他保険に関連・付随する業務（※）

※ お客さまの取引履歴やウェブサイトの閲覧履歴、グループ会社等から取得した情報等を分析して、お客さまのニーズにあった各種商品・サービスに関する広告等の配信等を行うことを含みます。

個人情報の取扱いに関するお問い合わせおよびお申し出については、適切に対応させていただきますので、個人情報の開示・訂正を含め、お客さまサービスセンターまでお問い合わせください。

* 個人情報保護方針については、当社ホームページ（<https://www.d-frontier-life.co.jp/>）をご覧ください。

本人特定事項などの確認

当社では、犯罪収益移転防止法に基づき、保険契約締結などの際、お客さまの本人特定事項（氏名、住所、生年月日など）、取引を行う目的、職業または事業の内容などの確認を行っております。これは、お客さまの取引に関する記録の保存を行うことで、金融機関などがテロリズムに対する資金供与に利用されたり、マネー・ローンダリングに利用されたりすることを防ぐことを目的としたものです。なお、本人特定事項などを変更されたときは、お客さまサービスセンターまでご連絡ください。

米国法「FATCA」に関する確認

当社では、米国法「FATCA（外国口座税務コンプライアンス法）」実施に関する日米関係官庁間の声明に基づき、保険契約締結などの際、お客さまが所定の米国納税義務者であるかを確認し、該当する場合には米国内国歳入庁あてに契約情報などの報告を行っております。なお、渡米などの環境の変化などによって、所定の米国納税義務者に該当することとなった場合は、お客さまサービスセンターまでご連絡ください。

* 「FATCA」とは、米国納税義務者による米国外の金融口座などを利用した租税回避を防ぐ目的で、米国外の金融機関に対し、顧客が米国納税義務者であるかを確認することなどを求める法律です。詳細については、当社ホームページ（<https://www.d-frontier-life.co.jp/>）をご確認ください。

税法上の居住地国などの届出

租税条約等実施特例法（租税条約等の実施に伴う所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律）に基づき、保険契約締結などの際、お客さまには税法上の居住地国などを届け出いただく義務があります。

当社は、その届出の内容に基づき、国税庁（所轄の税務署長）あてに一定の契約情報などの報告を行うことがあります。報告した契約情報などは、租税条約などの情報交換規定に基づき、各国の税務当局と自動的に交換されることとなります。なお、海外渡航などの環境の変化などによって届出対象に該当することとなった場合は、お客さまサービスセンターまでご連絡ください。

* 詳細については、当社ホームページ（<https://www.d-frontier-life.co.jp/>）をご確認ください。

支払査定時照会制度

保険金、年金または給付金（以下「保険金等」といいます。）のご請求に際し、お客さまのご契約内容等を照会させていただきます。

当社は、一般社団法人生命保険協会、一般社団法人生命保険協会加盟の各生命保険会社、全国共済農業協同組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会および日本コープ共済生活協同組合連合会（以下「各生命保険会社等」といいます。）とともに、お支払いの判断または保険契約もしくは共済契約等（以下「保険契約等」といいます。）の解除、取消しもしくは無効の判断（以下「お支払等の判断」といいます。）の参考とすることを目的として、「支払査定時照会制度」に基づき、当社を含む各生命保険会社等の保有する保険契約等に関する下記の相互照会事項記載の情報を共同して利用しております。

保険金等のご請求があった場合や、これらに係る保険事故が発生したと判断される場合に、「支払査定時照会制度」に基づき、相互照会事項の全部または一部について、一般社団法人生命保険協会を通じて他の各生命保険会社等に照会し、他の各生命保険会社等から情報の提供を受け、また他の各生命保険会社等からの照会に対し、情報を提供すること（以下「相互照会」といいます。）があります。相互照会される情報は下記の相互照会事項に限定され、ご請求に係る傷病名その他の情報が相互照会されることはありません。また、相互照会に基づき各生命保険会社等に提供された情報は、相互照会を行った各生命保険会社等によるお支払等の判断の参考とするため利用されることがありますが、その他の目的のために利用されることはありません。照会を受けた各生命保険会社等において、相互照会事項記載の情報が存在しなかったときは、照会を受けた事実は消去されます。

各生命保険会社等は「支払査定時照会制度」により知り得た情報を他に公開いたしません。

当社が保有する相互照会事項記載の情報については、当社が管理責任を負います。保険契約者、被保険者または保険金等受取人は、当社の定める手続きにしたがい、相互照会事項記載の情報の開示を求め、その内容が事実と相違している場合には、訂正を申し出ることができます。また、つぎのア)～オ)に記載の事由を理由とする場合、当社の定める手続きにしたがい、当該情報の利用停止または消去を求めることができます。上記各手続きの詳細については、お客さまサービスセンターにお問い合わせください。

- ア) 当社があらかじめ本人の同意を得ず利用目的の達成に必要な範囲をこえて個人情報を取り扱っている場合
- イ) 当社が不適正な個人情報の利用・取得をしている場合
- ウ) 本人が識別される保有個人データを当社が利用する必要がなくなった場合
- エ) 当社が取り扱う個人データの漏えい・滅失・毀損その他の個人データの安全の確保に係る事態であって個人の権利利益を害するおそれが大きい場合
- オ) 本人が識別される保有個人データの取扱いにより、本人の権利または正当な利益が害されるおそれがある場合

相互照会事項

つぎの事項が相互照会されます。ただし、契約消滅後5年を経過した保険契約等に係るものは除きます。

- ①被保険者の氏名、生年月日、性別、住所（市・区・郡までとします。）
- ②保険事故発生日、死亡日、入院日・退院日、対象となる保険事故（左記の事項は、照会を受けた日から5年以内のものとする。）
- ③保険種類、契約日、復活日、消滅日、保険契約者の氏名および被保険者との続柄、死亡保険金等受取人の氏名および被保険者との続柄、死亡保険金額、給付金日額、各特約内容、保険料および払込方法

上記相互照会事項において、被保険者、保険事故、保険種類、保険契約者、死亡保険金、給付金日額、保険料とあるのは、共済契約においてはそれぞれ、被共済者、共済事故、共済種類、共済契約者、死亡共済金、共済金額、共済掛金と読み替えます。

* 「支払査定時照会制度」に参加している各生命保険会社名につきましては、一般社団法人生命保険協会ホームページ (<https://www.seiho.or.jp/>) の「会員会社一覧」をご参照ください。

* 「支払査定時照会制度」の最新の内容につきましては、当社ホームページ (<https://www.d-frontier-life.co.jp/association/index.html>) をご参照ください。

保険金額などの削減

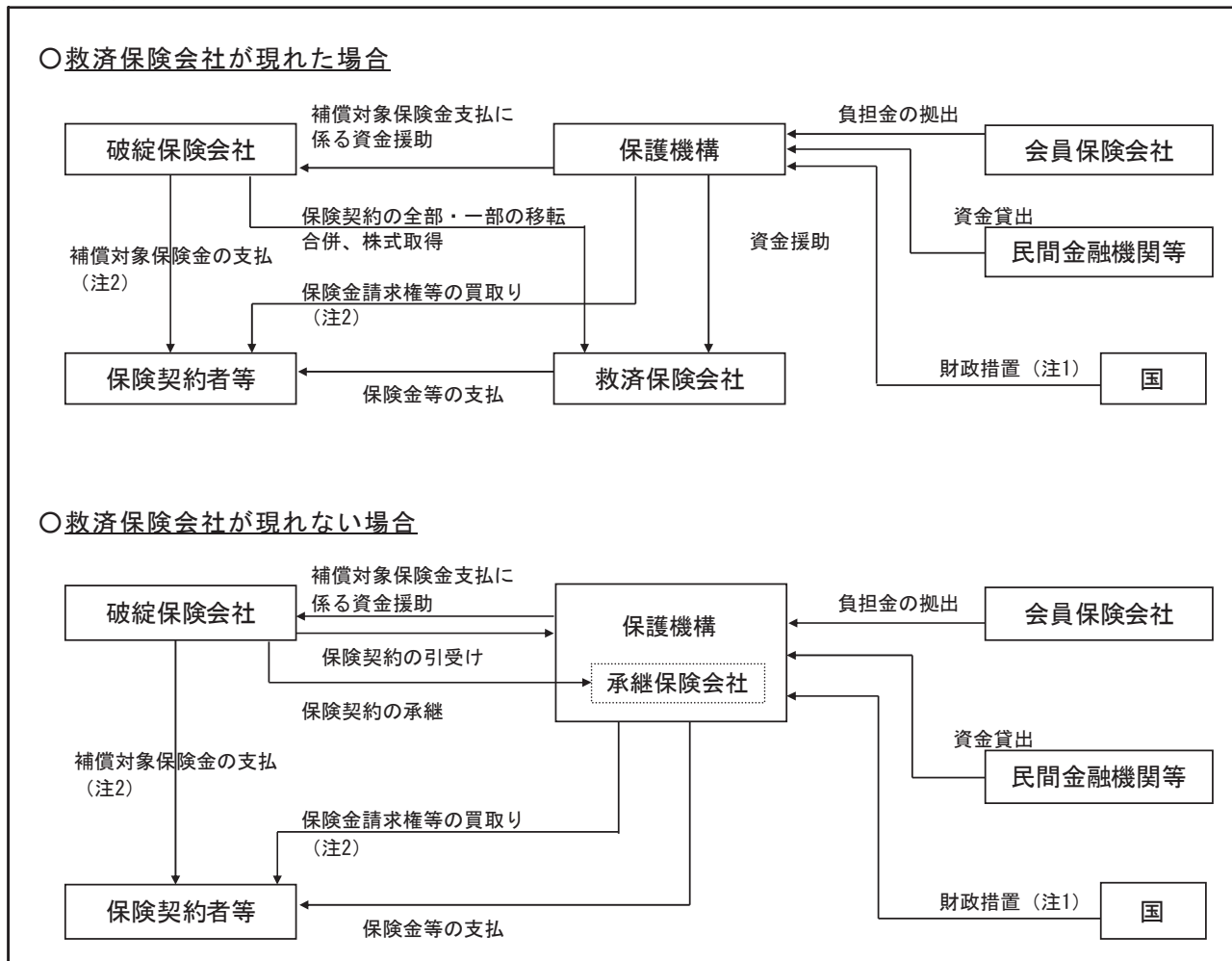
生命保険会社の業務または財産の状況の変化により、保険金額、年金額、給付金額などが削減されることがあります。保険業法に基づき設立された「生命保険契約者保護機構」に当社は会員として加入しています。会員である生命保険会社が万一経営破綻に陥った場合、「生命保険契約者保護機構」により保険契約者などの保護の措置が図られることとなります。ただし、この措置が図られたとしても、ご契約時にお約束した保険金額、年金額、給付金額の削減など、契約条件が変更されることがあります。詳細については、「生命保険契約者保護機構」までお問い合わせください。

生命保険契約者保護機構

「生命保険契約者保護機構」（以下「保護機構」といいます。）の概要は、以下のとおりです。

- 保護機構は、保険業法に基づき設立された法人であり、保護機構の会員である生命保険会社が破綻に陥った場合、生命保険に係る保険契約者等のための相互援助制度として、当該破綻保険会社に係る保険契約の移転等における資金援助、承継保険会社の経営管理、保険契約の引受け、補償対象保険金の支払に係る資金援助及び保険金請求権等の買取りを行う等により、保険契約者等の保護を図り、もって生命保険業に対する信頼性を維持することを目的としています。
 - 保険契約上、年齢や健康状態によっては契約していた破綻保険会社と同様の条件で新たに加入することが困難になることもあるため、保険会社が破綻した場合には、保護機構が保険契約の移転等に際して資金援助等の支援を行い、加入している保険契約の継続を図ることにしています。
 - 保険契約の移転等における補償対象契約は、運用実績連動型保険契約の特定特別勘定（※1）に係る部分を除いた国内における元受保険契約で、その補償限度は、高予定利率契約（※2）を除き、責任準備金等（※3）の90%とすることが、保険業法等で定められています。（保険金・年金等の90%が補償されるものではありません。（※4））
 - なお、保険契約の移転等の際には、責任準備金等の削減に加え、保険契約を引き続き適正・安全に維持するために、契約条件の算定基礎となる基礎率（予定利率、予定死亡率、予定事業費率等）の変更が行われる可能性があり、これに伴い、保険金額・年金額等が減少することがあります。あわせて、早期解約控除制度（保険集団を維持し、保険契約の継続を図るために、通常の解約控除とは別に、一定期間特別な解約控除を行う制度）が設けられる可能性もあります。
- ※1 特別勘定を設置しなければならない保険契約のうち最低保証（最低死亡保険金保証、最低年金原資保証等）のない保険契約に係る特別勘定を指します。更生手続においては、当該部分についての責任準備金を削減しない更生計画を作成することが可能です。（実際に削減しないか否かは、個別の更生手続の中で確定することとなります。）
- ※2 破綻時に過去5年間で常に予定利率が基準利率（注1）を超えていた契約を指します（注2）。当該契約については、責任準備金等の補償限度が以下のとおりとなります。ただし、破綻会社に対して資金援助がなかった場合の弁済率が下限となります。
- 高予定利率契約の補償率＝90%－{(過去5年間に於ける各年の予定利率－基準利率)の総和÷2}
- (注1) 基準利率は、生保各社の過去5年間の平均運用利回りを基準に、金融庁長官及び財務大臣が定めることとなっております。現在の基準利率については、当社又は保護機構のホームページで確認できます。
- (注2) 一つの保険契約において、主契約・特約の予定利率が異なる場合、主契約・特約を予定利率が異なるごとに独立した保険契約とみなして、高予定利率契約に該当するか否かを判断することとなります。また、企業保険等において被保険者が保険料を拠出している場合で被保険者毎に予定利率が異なる場合には、被保険者毎に独立の保険契約が締結されているものとみなして高予定利率契約に該当するか否かの判断をすることとなります。ただし、確定拠出年金保険契約については、被保険者が保険料を拠出しているか否かにかかわらず、被保険者毎に高予定利率契約に該当するか否かを判断することとなります。
- ※3 責任準備金等とは、将来の保険金・年金・給付金の支払に備え、保険料や運用収益などを財源として積立している準備金等をいいます。
- ※4 個人変額年金保険に付されている年金原資保証額等についても、その90%が補償されるものではありません。

■しくみの概略図



(注1) 上記の「財政措置」は、2027年3月末までに生命保険会社が破綻した場合に対応する措置で、会員保険会社の抛出による負担金だけで資金援助等の対応ができない場合に、国会審議を経て補助金が認められた際に行われるものです。

(注2) 破綻処理中の保険事故に基づく補償対象契約の保険金等の支払、保護機構が補償対象契約に係る保険金請求権等を買取ることを指します。この場合における支払率および買取率については、責任準備金等の補償限度と同率となります。(高予定利率契約については、※2に記載の率となります。)

◇補償対象契約の範囲・補償対象契約の補償限度等を含め、本掲載内容は全て2026年2月現在の法令に基づいたものであり、今後、法令の改正により変更される可能性があります。

●生命保険会社が破綻した場合の保険契約の取扱いに関するお問い合わせ先

生命保険契約者保護機構 電話 03-3286-2820

受付時間 月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 午前9時～正午、午後1時～午後5時

ホームページアドレス <https://www.seihohogo.jp/>

金融商品取引法に規定する「特定投資家」の方へ

保険業法第300条の2において準用される金融商品取引法の規定により、「特定投資家」のお客さまは、当社に対して、お客さまを「特定投資家以外のお客さま(「一般投資家」といいます。)」としてお取り扱いするようにお申し出いただくことができます。

お手続き方法や特定投資家制度の詳細については、当社ホームページ(<https://www.d-frontier-life.co.jp/>)の閲覧またはお客さまサービスセンターへの照会により、ご確認ください。

生存給付金付終身保険（通貨指定型）普通保険約款 目次

この保険の概要

1. 通貨の種類

第1条 通貨の種類

2. 終身保障倍率

第2条 終身保障倍率

3. 生存給付金の型

第3条 生存給付金の型

4. 積立利率および積立利率保証期間

第4条 積立利率

第5条 積立利率保証期間

5. 積立金および積立金額

第6条 積立金および積立金額

6. 基本保険金額

第7条 基本保険金額

7. 基本給付金額

第8条 基本給付金額

8. 基本終身保険金額

第9条 基本終身保険金額

9. 生存給付金支払回数および生存給付金支払日

第10条 生存給付金支払回数

第11条 生存給付金支払日

10. 死亡保険金および生存給付金の支払

第12条 死亡保険金および生存給付金の支払および免責

第13条 死亡保険金および生存給付金の支払および免責に関する補則

第14条 死亡保険金および生存給付金の請求、支払時期および支払場所

11. 会社の責任開始期および契約日

第15条 会社の責任開始期および契約日

12. 保険契約の無効および取消

第16条 死亡保険金不法取得目的による無効

第17条 詐欺による取消

13. 告知

第18条 告知

14. 保険契約の解除

第19条 重大事由による解除

15. 解約および解約返還金

第20条 解約

第21条 解約返還金

16. 死亡保険金受取人による保険契約の存続

第22条 死亡保険金受取人による保険契約の存続

17. 死亡保険金および生存給付金の受取人

第23条 死亡保険金受取人の変更

第24条 遺言による死亡保険金受取人の変更

第25条 生存給付金受取人の変更

第26条 遺言による生存給付金受取人の変更

18. 保険契約者

第27条 保険契約者の変更

第28条 保険契約者の住所の変更

19. 保険契約者および死亡保険金または生存給付金の受取人の代表者

第29条 保険契約者および死亡保険金または生存給付金の受取人の代表者

20. 年齢の計算ならびに契約年齢および性別の誤りの処理

第30条 年齢の計算

第31条 契約年齢および性別の誤りの処理

21. 契約者配当金

第32条 契約者配当金

22. 時効

第33条 時効

23. 被保険者の業務、転居および旅行

第34条 被保険者の業務、転居および旅行

24. 管轄裁判所

第35条 管轄裁判所

25. 最終の積立利率保証期間更新日以後の取扱

第36条 最終の積立利率保証期間更新日以後の取扱

26. 死亡保険金受取人を団体とする保険契約に関する特則

第37条 死亡保険金受取人を団体とする保険契約の請求書類に関する特則

27. 死亡給付金等の年金払特約を付加した場合の特則

第38条 死亡給付金等の年金払特約を付加した場合の特則

28. 年金支払移行特約を付加した場合の特則

第39条 年金支払移行特約を付加した場合の特則

29. 介護年金支払移行特約を付加した場合の特則

第40条 介護年金支払移行特約を付加した場合の特則

30. 終身保障不担保特則

第41条 終身保障不担保特則

31. 生存給付金の支払日指定特則

第42条 生存給付金の支払日指定特則

生存給付金付終身保険（通貨指定型）普通保険約款

（この保険の概要）

この保険は、つぎの給付を行なうことを主な内容とするものです。

（1）死亡保険金

被保険者が死亡したときに支払います。

（2）生存給付金

被保険者が毎年の生存給付金支払日が到来した時に生存しているときに、そのつど生存給付金を支払います。

1. 通貨の種類

（通貨の種類）

第1条 この保険契約の通貨の種類は、つぎの各号のうち会社の定める範囲のものとし、保険契約者は、保険契約の締結の際、通貨を1つ指定するものとします。

- （1）アメリカ合衆国通貨（以下「米ドル」といいます。）
- （2）欧州単一通貨（以下「ユーロ」といいます。）
- （3）オーストラリア連邦通貨（以下「豪ドル」といいます。）
- （4）日本国通貨（以下「円」といいます。）

2. 保険料の払込または死亡保険金の支払等、この保険契約にかかわる金銭の授受は、全て前項の規定により指定された通貨（以下「指定通貨」といいます。）をもって行ないます。

2. 終身保障倍率

（終身保障倍率）

第2条 終身保障倍率とは、第8条（基本給付金額）に定める基本給付金額に対する契約日における終身保障の金額の倍率のことをいい、会社の定める範囲で設定します。

2. 保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、終身保障倍率を1つ指定するものとします。
3. 前項により指定された終身保障倍率の変更は取り扱いません。

3. 生存給付金の型

（生存給付金の型）

第3条 この保険契約における生存給付金の型はつぎのとおりとし、保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、生存給付金の型を1つ指定するものとします。

- （1）即時開始型
 - （2）一年後開始型
2. 前項により指定された生存給付金の型の変更は取り扱いません。

4. 積立利率および積立利率保証期間

（積立利率）

第4条 積立利率とは、通貨の種類、終身保障倍率、生存給付金の型、次条に定める積立利率保証期間および第10条（生存給付金支払回数）に定める生存給付金支払回数ごとに設定するもので、次項に定める加重平均指標金利を用いて、会社が積立利率を設定する日の3営業日前（以下「積立利率計算日」といいます。）において、つぎの各号のとおり定めた率から、保険契約の締結に必要な費用、保険契約の維持等に必要費用および死亡保険金を支払うための費用の率を差し引いた利率のことをいいます。

- (1) 通貨の種類が米ドルの場合
積立利率計算日の前日における直前3日（会社が指標金利を取得する3日に限ります。以下本条において同じ。）の加重平均指標金利の平均値に最大1.0%を加えた率を上限とし、最大1.5%を減じた率を下限とする範囲内で定めた率
 - (2) 通貨の種類がユーロの場合
積立利率計算日における直前3日の加重平均指標金利の平均値に最大1.5%を加えた率を上限とし、最大1.0%を減じた率を下限とする範囲内で定めた率
 - (3) 通貨の種類が豪ドルの場合
積立利率計算日における直前3日の加重平均指標金利の平均値に最大1.5%を加えた率を上限とし、最大1.0%を減じた率を下限とする範囲内で定めた率
 - (4) 通貨の種類が円の場合
積立利率計算日における直前3日の加重平均指標金利の平均値に最大1.0%を増減させた範囲内で定めた率
2. 加重平均指標金利とは、積立利率の設定の際に基準となる指標金利のことをいい、本項第1号に定める指標金利（別表3）の利回りおよび本項第2号に定める指標金利（別表3）の利回りを終身保障倍率および生存給付金支払回数により加重平均した利回りとします。
- (1) 通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利
 - (2) 通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利
3. 前2項の規定にかかわらず、前項の利回りが算出されなくなったときまたは長期間にわたりこの保険の運用対象と明らかに運動しなくなったときなど、将来の運用情勢の変化により前項の利回りを指標金利として用いることが適切でない特別な事情が生じた場合には、会社は、主務官庁の認可を得て、指標金利を変更することがあります。この場合、会社は、指標金利を変更する日の2か月前までにその旨を保険契約者に書面によって通知します。

(積立利率保証期間)

- 第5条 積立利率保証期間とは、同一の積立利率を適用する期間のことをいい、会社の定める範囲で設定します。
2. 保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、積立利率保証期間を指定するものとします。
 3. 積立利率保証期間は積立利率保証期間の満了日の翌日に更新し、この日を積立利率保証期間更新日とします。
 4. 前項の規定により積立利率保証期間を更新した場合、つぎの各号のとおり取り扱います。
 - (1) 更新後の積立利率の設定において用いる加重平均指標金利は前条第2項第1号の利回りとします。
 - (2) 更新後の積立利率は、契約日における更新後最低保証積立利率を下回ることはありません。
 - (3) 更新後の積立利率保証期間は、更新前の積立利率保証期間と同一とします。
 - (4) 会社は、更新後の積立利率保証期間において適用する積立利率を保険契約者に書面によって通知します。

5. 積立金および積立金額

(積立金および積立金額)

- 第6条 積立金とは、将来の死亡保険金および生存給付金を支払うために一時払保険料の中から積み立てた部分をいい、積立金額は、積立利率を適用し、経過に応じて会社の定める方法により計算します。
2. 前項の規定による積立金額の計算にあたっては、契約日における積立利率を積立利率保証期間の満了日まで適用し、積立利率保証期間を更新した場合には、積立利率保証期間更新日における積立利率を更新日からその期間の満了日まで適用します。

6. 基本保険金額

(基本保険金額)

- 第7条 基本保険金額とは、つぎの各号に定める金額をいい、これと同額の金額をこの保険契約の一時払保険料とします。
- (1) 保険料建の場合

次条に定める基本給付金額の計算にあたり基準となる金額として、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、保険契約者の申出によって定めた金額

(2) 基本給付金額建の場合

次条に定める基本給付金額および契約日における積立利率に基づき、保険契約の締結の際に会社の定める方法により計算される金額

7. 基本給付金額

(基本給付金額)

第8条 基本給付金額とは、死亡保険金および生存給付金を支払う場合に基準となる金額で、つぎの各号に定める金額をいいます。

(1) 保険料建の場合

前条に定める基本保険金額および契約日における積立利率に基づき、保険契約の締結の際に会社の定める方法により計算される金額

(2) 基本給付金額建の場合

保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、保険契約者の申出によって定めた金額

8. 基本終身保険金額

(基本終身保険金額)

第9条 基本終身保険金額とは、終身保障の基準となる金額として、保険契約の締結の際に定められる金額をいい、基本給付金額に終身保障倍率を乗じた金額とします。

2. 前項の規定にかかわらず、積立利率保証期間を更新する際、積立利率保証期間更新日における積立利率が契約日における更新後最低保証積立利率を上回っているときは、その積立利率保証期間更新日以後の基本終身保険金額を、積立利率保証期間更新日における積立利率に基づき会社の定める方法により計算します。

3. 前項の場合、会社は、積立利率保証期間更新日における基本終身保険金額を保険契約者に書面によって通知します。

9. 生存給付金支払回数および生存給付金支払日

(生存給付金支払回数)

第10条 生存給付金支払回数とは、被保険者の生存により生存給付金を支払う回数のことをいい、会社の定める範囲で設定します。

2. 保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、生存給付金支払回数を1つ指定するものとします。

3. 前項により指定された生存給付金支払回数の変更は取り扱いません。

(生存給付金支払日)

第11条 生存給付金支払日とは、生存給付金の支払事由が生じる日をいい、生存給付金の型に応じてつぎの各号のとおりとします。

(1) 生存給付金の型が即時開始型の場合

第1回の生存給付金支払日は契約日と、第2回以後の生存給付金支払日は契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日とし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。

(2) 生存給付金の型が一年後開始型の場合

生存給付金支払日は契約日から起算して1年経過以後の毎年の年単位の契約応当日とし、生存給付金支払回数と同じ年数後の年単位の契約応当日を最終回とします。

10. 死亡保険金および生存給付金の支払

(死亡保険金および生存給付金の支払および免責)

第12条 この保険契約の死亡保険金および生存給付金は、つぎのとおりです。

	支 払 額	受 取 人	死亡保険金・生存給付金を支払う場合（以下「支払事由」といいます。）	支払事由に該当しても死亡保険金・生存給付金を支払わない場合（以下「免責事由」といいます。）
死亡保険金	被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額	死亡保険金受取人	被保険者が契約日の2年後における年単位の契約応当日の前日までに死亡したとき	つぎのいずれかにより左記の支払事由が生じたとき (1) 責任開始期の属する日から起算して3年以内の自殺 (2) 保険契約者または死亡保険金受取人の故意 (3) 戦争その他の変乱
	被保険者が死亡した時の基本終身保険金額および生存給付金支払日が未到来の生存給付金の支払額の総額の和または解約返還金額のいずれか大きい額		被保険者が契約日の2年後における年単位の契約応当日以後最初の積立利率保証期間の満了日までに死亡したとき	
	被保険者が死亡した時の基本終身保険金額または解約返還金額のいずれか大きい額		被保険者が最初の積立利率保証期間の満了日の翌日以後に死亡したとき	
生存給付金	基本給付金額	生存給付金受取人	被保険者が生存給付金支払日が到来した時に生存しているとき	—

(死亡保険金および生存給付金の支払および免責に関する補則)

第13条 被保険者の生死が不明の場合でも、会社が死亡したものと認めたときは、被保険者が死亡したときに準じて取り扱います。

2. つぎのいずれかの免責事由に該当したことによって、死亡保険金が支払われないときは、会社は、第1号、第3号または第4号の場合は被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額を、第2号の場合は被保険者が死亡した時の解約返還金と同額の返還金を保険契約者に支払います。
 - (1) 責任開始期の属する日から起算して3年以内に被保険者が自殺したとき。
 - (2) 保険契約者が故意に被保険者を死亡させたとき（前号の場合を除きます。）。
 - (3) 死亡保険金受取人が故意に被保険者を死亡させたとき（前2号の場合を除きます。）。
 - (4) 戦争その他の変乱によって被保険者が死亡したとき。
3. 死亡保険金受取人が故意に被保険者を死亡させた場合（死亡保険金受取人と被保険者が同一の場合で被保険者が自殺したときおよび保険契約者と死亡保険金受取人が同一の場合で保険契約者が故意に被保険者を死亡させたときを除きます。）で、その受取人が死亡保険金の一部の受取人であるときは、死亡保険金のうち、その受取人に支払われるべき金額を差し引いた残額を他の死亡保険金受取人に支払います。この場合、保険契約のうち支払われない部分については前項の規定を適用し、その部分の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額を保険契約者に支払います。
4. 被保険者が戦争その他の変乱によって死亡した場合でも、その原因によって死亡した被保険者の数の増加が、この保険の計算の基礎に及ぼす影響が少ないと認めたときは、会社は、その程度に応じ、死亡保険金の全額を支払い、またはその金額を削減して支払うことがあります。ただし、この場合の支払額は、被保険者が死亡した時の積立金額または解約返還金額のいずれか大きい額を下回りません。

(死亡保険金および生存給付金の請求、支払時期および支払場所)

第14条 死亡保険金または生存給付金の支払事由が生じたときは、保険契約者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人は、すみやかに会社に通知してください。

2. 支払事由の生じた死亡保険金または生存給付金の受取人は、会社に、請求に必要な書類（別表1）を提出して、死亡保険金または生存給付金を請求してください。
3. 死亡保険金または生存給付金は、その請求に必要な書類が会社に到着した日（会社に到着した日が営業日でない場合は翌営業日。以下本条において同じ。）の翌日から起算して5営業日以内に、会社の本社で支払います。この場合、会社が認めたときは、死亡保険金または生存給付金の受取人の口座（会社の指定した金融機関等の口座に限ります。）に払い込む方法により支払います。
4. 死亡保険金または生存給付金を支払うために確認が必要なつぎの各号に掲げる場合で、保険契約の締結時から死亡保険金または生存給付金の請求時まで会社に提出された書類だけでは確認ができないときは、それぞれ当該各号に定める事項の確認（会社の指定した医師による診断を含みます。）を行いません。この場合、前項の規定にかかわらず、死亡保険金または生存給付金を支払うべき期限は、その請求に必要な書類が会社に到着した日の翌日から起算して45日を経過する日とします。
 - (1) 支払事由発生の有無の確認が必要な場合
支払事由に該当する事実の有無
 - (2) 免責事由に該当する可能性がある場合
支払事由が発生した原因
 - (3) 第16条（死亡保険金不法取得目的による無効）、第17条（詐欺による取消）または第19条（重大事由による解除）に該当する可能性がある場合
前号に定める事項、第19条第1項第3号(ア)から(オ)までに該当する事実の有無または保険契約者、被保険者もしくは死亡保険金等の受取人の保険契約締結の目的もしくは死亡保険金等の請求の意図に関する保険契約の締結時から死亡保険金等の請求時までにおける事実
5. 前項の確認をするため、つぎの各号に掲げる事項についての特別な照会や調査が不可欠な場合は、前2項の規定にかかわらず、死亡保険金または生存給付金を支払うべき期限は、その請求に必要な書類が会社に到着した日の翌日から起算してつぎの各号に定める日数（各号のうち複数に該当する場合であっても、180日）を経過する日とします。
 - (1) 前項各号に定める事項についての弁護士法（昭和24年法律第205号）にもとづく照会その他の法令にもとづく照会 180日
 - (2) 前項各号に定める事項についての研究機関等の専門機関による医学または工学等の科学技術的な特別の調査、分析または鑑定 180日
 - (3) 前項各号に定める事項に関し、保険契約者、被保険者または死亡保険金等の受取人を被疑者として、捜査、起訴その他の刑事手続が開始されたことが報道等から明らかである場合における、前項各号に定める事項に関する、送致、起訴、判決等の刑事手続の結果についての警察、検察等の捜査機関または裁判所に対する照会 180日
 - (4) 前項各号に定める事項についての日本国外における調査 180日
6. 前2項の規定を適用したときは、会社は、その旨を死亡保険金または生存給付金を請求した者に通知します。
7. 第4項および第5項に掲げる必要な事項の確認に際し、保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人が正当な理由なく当該確認を妨げ、またはこれに応じなかったとき（会社の指定した医師による必要な診断に応じなかったときを含みます。）は、会社は、これにより当該事項の確認が遅延した期間の遅滞の責任を負わず、その間は死亡保険金または生存給付金を支払いません。

11. 会社の責任開始期および契約日

（会社の責任開始期および契約日）

第15条 会社は、つぎの時から保険契約上の責任を負います。

- (1) 保険契約の申込を承諾した後に一時払保険料を受け取った場合
……一時払保険料を受け取った時
 - (2) 一時払保険料充当金を受け取った後に保険契約の申込を承諾した場合
……一時払保険料充当金を受け取った時
2. 前項の規定により、会社の責任が開始される日（以下「責任開始日」といいます。）を契約日とし、契約年齢ならびに保険期間および積立利率保証期間は、この日を基準として計算します。
 3. 会社が保険契約の申込を承諾した場合には、保険証券を交付し、これをもって承諾の通知とします。
 4. 前項の保険証券には、つぎの各号の事項を記載します。

- (1) 会社名
 - (2) 保険契約者および被保険者の氏名または名称
 - (3) 死亡保険金および生存給付金の受取人の氏名または名称その他の受取人を特定するために必要な事項
 - (4) 保険契約の種類
 - (5) 保険期間
 - (6) 責任開始日
 - (7) 契約日
 - (8) 死亡保険金および生存給付金の支払額、基本保険金額ならびに一時払保険料
 - (9) 保険証券の作成年月日
5. 前2項に定める保険証券の交付は、保険契約の締結の際に限り行ないます。

12. 保険契約の無効および取消

(死亡保険金不法取得目的による無効)

第16条 保険契約者が死亡保険金を不法に取得する目的または他人に死亡保険金を不法に取得させる目的をもって保険契約の締結をしたときは、保険契約を無効とし、すでに払い込んだ保険料は払い戻しません。

(詐欺による取消)

第17条 保険契約の締結に際して、保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人に詐欺の行為があったときは、会社は、保険契約を取り消すことができます。この場合、すでに払い込んだ保険料は払い戻しません。

13. 告知

(告知)

第18条 会社は、保険契約の締結の際、保険契約者および被保険者に対して、この保険契約に関する書面による告知ならびに会社の指定する医師への口頭による告知を求めません。

14. 保険契約の解除

(重大事由による解除)

第19条 会社は、つぎの各号のいずれかに定める事由が生じた場合には、将来に向って保険契約を解除することができます。

- (1) 保険契約者または死亡保険金受取人が死亡保険金（他の保険契約の死亡保険金を含み、保険種類および死亡保険金の名称の如何を問いません。以下本号において同じ。）を詐取する目的または他人に死亡保険金を詐取させる目的で事故招致（未遂を含みます。）をした場合
- (2) この保険契約の死亡保険金の請求に関し、死亡保険金受取人に詐欺行為（未遂を含みます。）があった場合
- (3) 保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人が、つぎの(ア)から(オ)までのいずれかに該当する場合
 - (ア) 暴力団、暴力団員（暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者を含みます。）、暴力団準構成員、暴力団関係企業その他の反社会的勢力（以下「反社会的勢力」といいます。）に該当すると認められること
 - (イ) 反社会的勢力に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められること
 - (ウ) 反社会的勢力を不当に利用していると認められること
 - (エ) 保険契約者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人が法人の場合、反社会的勢力がその法人の経営を支配し、またはその法人の経営に実質的に関与していると認められること
 - (オ) その他反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有していると認められること
- (4) 会社の保険契約者、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人に対する信頼を損ない、

- この保険契約の存続を困難とする前3号に掲げる事由と同等の重大な事由がある場合
2. 会社は、死亡保険金または生存給付金の支払事由が生じた後でも、保険契約を解除することができます。この場合には、前項各号に定める事由の発生時以後に生じた支払事由による死亡保険金または生存給付金（前項第3号のみに該当した場合で、前項第3号(ア)から(ウ)までに該当したのが死亡保険金または生存給付金の受取人のみであり、その死亡保険金または生存給付金の受取人が死亡保険金または生存給付金の一部の受取人であるときは、死亡保険金または生存給付金のうち、その受取人に支払われるべき死亡保険金または生存給付金をいいます。以下本項において同じ。）を支払いません。また、すでに死亡保険金または生存給付金を支払っていたときは、死亡保険金または生存給付金の返還を請求します。
 3. 本条の規定によって保険契約を解除するときは、会社は、その旨を保険契約者に通知します。ただし、保険契約者またはその住所もしくは居所が不明であるか、その他正当な理由によって保険契約者に通知できない場合には、被保険者または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人に通知します。
 4. 本条の規定によって保険契約を解除したときは、会社は、被保険者が死亡した場合はその日の、それ以外の場合は解除の通知を発信した日の解約返還金と同額の返還金を保険契約者に支払います。
 5. 前項の規定にかかわらず、第1項第3号の規定によって保険契約を解除した場合で、死亡保険金または生存給付金の一部の受取人に対して第2項の規定を適用し死亡保険金または生存給付金を支払わないときは、保険契約のうち支払われない死亡保険金または生存給付金に対応する部分については前項の規定を適用し、その部分の解約返還金と同額の返還金を保険契約者に支払います。

15. 解約および解約返還金

(解約)

第20条 保険契約者は、いつでも将来に向けて、保険契約を解約し、解約返還金を請求することができます。

(解約返還金)

第21条 解約返還金額は、請求に必要な書類（別表1）が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（以下「解約返還金計算日」といいます。）の積立金額に基づき、別表2に定める算式により計算した金額とします。

2. 保険契約者は、解約返還金を請求するときは、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
3. 解約返還金の支払時期および支払場所については、第14条（死亡保険金および生存給付金の請求、支払時期および支払場所）の規定を準用します。

16. 死亡保険金受取人による保険契約の存続

(死亡保険金受取人による保険契約の存続)

第22条 差押債権者、破産管財人その他の保険契約者以外の者で保険契約の解約をすることができる者（以下「債権者等」といいます。）により保険契約が解約されるときは、解約の通知が会社に到着した時から1か月を経過した日にその効力を生じます。

2. 前項の解約の通知があった場合でも、通知の時においてつぎの各号のすべてを満たす死亡保険金受取人が、保険契約者の同意を得て、前項の解約の効力を生じるまでの間に、前項の解約の通知が会社に到着した日の解約返還金と同額の金額（以下「債権者等への支払金額」といいます。）を債権者等に支払い、かつ、会社にその旨を通知したときは、前項の解約はその効力を生じません。

(1) 保険契約者もしくは被保険者の親族または被保険者本人であること

(2) 保険契約者でないこと

3. 前項の通知をするときは、死亡保険金受取人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
4. 第1項の解約の通知が会社に到着した時から、その解約の効力が生じるまでまたは第2項の規定により解約の効力が生じなくなるまでに、死亡保険金または生存給付金の支払事由が生じた場合で、会社が死亡保険金または生存給付金を支払うべきときは、その支払うべき金額を限度として、債権者等への支払金額を債権者等に支払います。この場合、その支払うべき金額から債権者等への支払金額を差し引いた残額があるときは、その金額を死亡保険金または生存給付金の受取人に支払います。

17. 死亡保険金および生存給付金の受取人

(死亡保険金受取人の変更)

第23条 保険契約者は、死亡保険金の支払事由が発生する前に限り、被保険者の同意を得て、会社に対する通知により、会社の定める取扱範囲で死亡保険金受取人を変更することができます。

2. 前項の通知をするときは、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
3. 第1項の通知が会社に到着したときは、死亡保険金受取人の変更の効力は、その通知を発した時にさかのぼって生じるものとします。
4. 前項の規定にかかわらず、第1項の通知が会社に到達する前に、変更前の死亡保険金受取人に死亡保険金を支払ったときは、その支払後に変更後の死亡保険金受取人からその請求を受けても、会社は、死亡保険金を支払いません。
5. 死亡保険金受取人が死亡保険金の支払事由の発生以前に死亡したときは、その法定相続人を死亡保険金受取人とします。
6. 前項の規定により死亡保険金受取人となった者が死亡した場合に、この者に法定相続人がいないときは、前項の規定により死亡保険金受取人となった者のうち生存している他の死亡保険金受取人を死亡保険金受取人とします。
7. 前2項の規定により死亡保険金受取人となった者が2人以上いる場合、その受取割合は均等とします。

(遺言による死亡保険金受取人の変更)

第24条 前条の規定によるほか、保険契約者は、死亡保険金の支払事由が発生する前に限り、法律上有効な遺言により、死亡保険金受取人を変更することができます。

2. 前項の死亡保険金受取人の変更は、被保険者の同意がなければ、その効力を生じません。
3. 前2項の規定による死亡保険金受取人の変更は、保険契約者が死亡した後、保険契約者の相続人（遺言執行者が指定されているときは遺言執行者を含みます。以下本条において同じ。）が、その旨を会社に通知しなければ、会社に対抗することができません。
4. 前項の通知をするときは、保険契約者の相続人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

(生存給付金受取人の変更)

第25条 保険契約者は、被保険者の同意を得て、会社に対する通知により、会社の定める取扱範囲で生存給付金受取人を変更することができます。

2. 前項の通知をするときは、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
3. 第1項の通知が会社に到着したときは、生存給付金受取人の変更の効力は、その通知を発した時にさかのぼって生じるものとします。
4. 前項の規定にかかわらず、第1項の通知が会社に到達する前に、変更前の生存給付金受取人に生存給付金を支払ったときは、その支払後に変更後の生存給付金受取人からその請求を受けても、会社は、生存給付金を支払いません。
5. 生存給付金受取人が生存給付金の支払事由の発生以前に死亡したときは、保険契約者を生存給付金受取人とします。

(遺言による生存給付金受取人の変更)

第26条 遺言により、生存給付金受取人を変更することはできません。

18. 保険契約者

(保険契約者の変更)

第27条 保険契約者は、被保険者および会社の同意を得て、保険契約上の一切の権利義務を第三者に承継させることができます。

2. 前項の承継をするときは、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

(保険契約者の住所の変更)

第28条 保険契約者が住所（通信先を含みます。以下本条において同じ。）を変更したときは、すみやかに会社の本社または会社の指定した場所に通知してください。

2. 保険契約者が前項の通知をしなかったときは、会社の知った最終の住所に発した通知は、通常到達するために要する期間を経過した時に、保険契約者に到達したものとみなします。

19. 保険契約者および死亡保険金または生存給付金の受取人の代表者

(保険契約者および死亡保険金または生存給付金の受取人の代表者)

第29条 保険契約者が2人以上の場合には、代表者1人を定めてください。この場合、その代表者は他の保険契約者を代理するものとします。

2. 前項の代表者が定まらないか、またはその所在が不明のときは、会社が保険契約者の1人に対してした行為は、他の保険契約者に対しても効力を生じます。
3. 保険契約者が2人以上の場合には、その責任は連帯とします。
4. 死亡保険金または生存給付金の受取人が2人以上の場合には、第1項および第2項に準じて取り扱います。

20. 年齢の計算ならびに契約年齢および性別の誤りの処理

(年齢の計算)

第30条 被保険者の契約年齢は、契約日現在の満年で計算し、1年未満の端数については切り捨てます。

2. 保険契約締結後の被保険者の年齢は、前項の契約年齢に、年単位の契約応当日ごとに1歳を加えて計算します。

(契約年齢および性別の誤りの処理)

第31条 保険契約申込書(電磁的方法(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法)による場合を含みます。以下本条において同じ。)に記載された被保険者の契約年齢に誤りがあった場合は、つぎの方法により取り扱います。

- (1) 契約日における実際の年齢が、会社の定める契約年齢の範囲内であったときは、つぎの(ア)から(エ)までのとおり取り扱います。
 - (ア) 実際の年齢に基づいて基本保険金額または基本給付金額を改め、保険料に不足分があればその額を保険契約者から追徴し、超過分があればその額を支払います。
 - (イ) 前(ア)の規定により基本保険金額または基本給付金額を改めることにより、基本保険金額または基本終身保険金額が会社の定める金額をこえることとなる場合には、基本保険金額または基本終身保険金額を会社の定める金額とし、そのこえる部分に対応する保険料を保険契約者に払い戻します。
 - (ウ) 死亡保険金または生存給付金の支払事由該当後は、前(ア)および前(イ)の規定により実際の年齢等に基づいて基本保険金額、基本給付金額または基本終身保険金額を改め、すでに支払われた死亡保険金または生存給付金に不足分があればその額を死亡保険金または生存給付金の受取人に支払い、超過分があればその額の返還を請求します。
 - (エ) 前(ア)の規定により改めた基本保険金額が会社の定める金額に満たない場合には、会社は、保険契約を取り消すことができます。
 - (2) 契約日における実際の年齢が、会社の定める契約年齢の範囲外であったときは、会社は、保険契約を取り消すことができます。
2. 保険契約申込書に記載された被保険者の性別に誤りがあった場合には、前項に準じて取り扱います。

21. 契約者配当金

(契約者配当金)

第32条 この保険契約には契約者配当金はありません。

22. 時効

(時効)

第33条 死亡保険金または生存給付金その他この保険契約に基づく諸支払金の支払を請求する権利は、これらを行行使うことができる時から3年間行使しない場合には消滅します。

23. 被保険者の業務、転居および旅行

(被保険者の業務、転居および旅行)

第34条 保険契約の継続中に、被保険者がどのような業務に従事し、またはどのような場所に転居し、もしくは旅行しても、会社は、保険契約の解除も保険料の変更もしないで、保険契約上の責任を負います。

24. 管轄裁判所

(管轄裁判所)

第35条 この保険契約における死亡保険金または生存給付金の請求に関する訴訟については、会社の本社または死亡保険金もしくは生存給付金の受取人(死亡保険金または生存給付金の受取人が2人以上いるときは、その代表者として)の住所地を管轄する高等裁判所(支部を除きます。)の所在地を管轄する地方裁判所をもって、合意による管轄裁判所とします。

25. 最終の積立利率保証期間更新日以後の取扱

(最終の積立利率保証期間更新日以後の取扱)

第36条 積立利率保証期間を更新する際、積立利率保証期間更新日における被保険者の年齢が会社所定の年齢以上となる場合は、第5条(積立利率保証期間)の規定にかかわらず、この更新を最終の更新とし、以後、積立利率保証期間は更新しません。

2. 最終の積立利率保証期間更新日以後は、第4条(積立利率)、第5条、第6条(積立金および積立金額)および第21条(解約返還金)の規定にかかわらず、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 最終の積立利率保証期間は終身とし、その期間に適用する積立利率は最終の積立利率保証期間更新日における会社所定の利率とします。ただし、積立利率は契約日における更新後最低保証積立利率を下回らないものとします。
- (2) 解約返還金額は、積立金額と同額であり、経過に応じて計算します。

26. 死亡保険金受取人を団体とする保険契約に関する特則

(死亡保険金受取人を団体とする保険契約の請求書類に関する特則)

第37条 官公署、会社、組合、工場その他の団体(個人事業主を含み、以下「団体」といいます。)を保険契約者および死亡保険金受取人とし、その団体から給与の支払を受ける従業員を被保険者とする保険契約の場合、保険契約者である団体が当該保険契約の保険金の全部またはその相当部分を遺族補償規程等に基づく死亡退職金または弔慰金等(以下「死亡退職金等」といいます。)として死亡退職金等の受給者に支払うときは、死亡保険金の請求の際、請求に必要な書類(別表1)に加え、死亡退職金等の受給者が保険金の請求内容を了知していることがわかる書類も必要とします。この場合、保険契約者である団体が当該受給者本人であることを確認した書類を必要とします。なお、死亡退職金等の受給者が2人以上であるときは、そのうち1人からの請求内容を了知していることがわかる書類の提出で足りるものとします。

27. 死亡給付金等の年金払特約を付加した場合の特則

(死亡給付金等の年金払特約を付加した場合の特則)

第38条 この保険契約に死亡給付金等の年金払特約を付加した場合には、第1回の特約年金の支払日以後、第19条(重大事由による解除)の規定をつぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第1項第3号および第4号、第2項ならびに第5項の規定中、「死亡保険金もしくは生存給付金の受取人」とあるのは「特約年金受取人」と、「死亡保険金または生存給付金」とあるのは「特約年金」と読み替えます。
- (2) 第2項の規定中、「保険契約」とあるのは「保険契約（前項第3号のみに該当した場合で、前項第3号(ア)から(オ)までに該当したのが特約年金受取人のみであり、その特約年金受取人が特約年金の一部の受取人であるときは、保険契約のうちその受取人に支払われるべき特約年金に対応する部分とします。）」と読み替えます。
- (3) 第3項から第5項までの規定中、「保険契約者」とあるのは「特約年金受取人」と読み替えます。
- (4) 第4項および第5項の規定中、「解約返還金」とあるのは「特約年金の未支払分の現価」と読み替えます。

28. 年金支払移行特約を付加した場合の特則

(年金支払移行特約を付加した場合の特則)

第39条 この保険契約に年金支払移行特約を付加した場合には、第19条（重大事由による解除）の規定をつぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第1項第3号および第4号、第2項ならびに第5項の規定中、「死亡保険金もしくは生存給付金の受取人」とあるのは「特約年金受取人」と、「死亡保険金または生存給付金」とあるのは「特約年金」と読み替えます。
- (2) 第2項の規定中、「保険契約」とあるのは「保険契約（前項第3号のみに該当した場合で、前項第3号(ア)から(オ)までに該当したのが特約年金受取人のみであり、その特約年金受取人が特約年金の一部の受取人であるときは、保険契約のうちその受取人に支払われるべき特約年金に対応する部分とします。）」と読み替えます。
- (3) 第3項から第5項までの規定中、「保険契約者」とあるのは「特約年金受取人」と読み替えます。
- (4) 第4項および第5項の規定中、「解約返還金」とあるのは「残余年金支払期間の未払特約年金の現価」と読み替えます。

29. 介護年金支払移行特約を付加した場合の特則

(介護年金支払移行特約を付加した場合の特則)

第40条 この保険契約に介護年金支払移行特約を付加した場合には、特約介護年金に移行した部分について、第19条（重大事由による解除）の規定をつぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第1項第3号および第4号、第2項ならびに第5項の規定中、「死亡保険金もしくは生存給付金の受取人」とあるのは「特約介護年金受取人」と、「死亡保険金または生存給付金」とあるのは「特約介護年金」と読み替えます。
- (2) 第2項の規定中、「保険契約」とあるのは「保険契約（前項第3号のみに該当した場合で、前項第3号(ア)から(オ)までに該当したのが特約介護年金受取人のみであり、その特約介護年金受取人が特約介護年金の一部の受取人であるときは、保険契約のうちその受取人に支払われるべき特約介護年金に対応する部分とします。）」と読み替えます。
- (3) 第3項から第5項までの規定中、「保険契約者」とあるのは「特約介護年金受取人」と読み替えます。
- (4) 第4項および第5項の規定中、「解約返還金」とあるのは「特約介護年金の一括払に準じた支払額」と読み替えます。なお、特約介護年金の種類が終身介護年金のときは、会社が支払う返還金はありません。

30. 終身保障不担保特則

(終身保障不担保特則)

第41条 保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、会社の承諾を得て、この特則を適用することで、第2条（終身保障倍率）に定める終身保障倍率を0倍とすることができます。

2. この特則を適用した場合、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 積立利率保証期間は、生存給付金の型が即時開始型の場合は生存給付金支払回数から1を差し引いた

年数と、生存給付金の型が一年後開始型の場合は生存給付金支払回数と同じ年数とします。

- (2) 最終回の生存給付金支払日が到来したときに保険契約は消滅します。
- (3) この特則のみの解約は取り扱いません。

31. 生存給付金の支払日指定特則

(生存給付金の支払日指定特則)

第42条 生存給付金の型として即時開始型を指定した場合、保険契約者は、保険契約の締結の際、会社の定める範囲で、会社の承諾を得て、この特則を適用することで、第11条（生存給付金支払日）の規定にかかわらず、次項第2号に定める指定生存給付金支払日を生存給付金の支払事由が生じる日とすることができます。

2. この特則を適用した場合、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第12条（死亡保険金および生存給付金の支払および免責）の規定にかかわらず、会社は、基本給付金額を、生存給付金支払日から生存給付金積立金として会社所定の利率による利息をつけて積み立て、被保険者が直後の指定生存給付金支払日が到来した時に生存しているときに生存給付金として支払います。
- (2) 指定生存給付金支払日は、第1回は、保険契約者が、保険契約の締結の際に、会社の定める範囲で、契約日から翌年の年単位の契約応当日までの間で指定した日と、第2回以後は第1回の指定生存給付金支払日の毎年の年単位の応当日とし、生存給付金支払回数から1を差し引いた年数後の第1回の指定生存給付金支払日の年単位の応当日を最終回とします。
- (3) 生存給付金積立金が積み立てられている場合、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 死亡保険金を支払う場合

第12条に定める死亡保険金に、被保険者が死亡した日における生存給付金積立金を加えた金額を死亡保険金として支払います。

(イ) 被保険者が死亡した場合で、免責事由により死亡保険金が支払われないとき

第13条（死亡保険金および生存給付金の支払および免責に関する補則）に定める返還金に、被保険者が死亡した日における生存給付金積立金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(ウ) 保険契約の解約により解約返還金を支払う場合

第21条（解約返還金）に定める解約返還金に、解約返還金計算日における生存給付金積立金を加えた金額を解約返還金として保険契約者に支払います。

(エ) 重大事由により保険契約が解除された場合

第19条（重大事由による解除）に定める返還金に、被保険者が死亡した場合はその日、それ以外の場合は解除の通知を発信した日における生存給付金積立金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(4) 第41条（終身保障不担保特則）第2項第2号の規定は、「生存給付金支払日」を「指定生存給付金支払日」と読み替えて適用します。

(5) 保険契約者は、最終回の指定生存給付金支払日前に限り、会社の定める範囲で、会社の承諾を得て、将来に向けて指定生存給付金支払日を変更することができます。この場合、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

(6) 前号の規定により変更された指定生存給付金支払日については、第2号の規定を準用します。

(7) 会社は、保険証券に指定生存給付金支払日を記載します。

3. この特則のみの解約は取り扱いません。

4. つぎの各号の場合には、この特則は消滅したものとみなします。

- (1) この保険契約が解約その他の事由によって消滅したとき。
- (2) 最終回の指定生存給付金支払日が到来したとき。
- (3) この保険契約に年金支払移行特約が付加されたとき。
- (4) 介護年金支払移行特約によりこの保険契約の全部が特約介護年金に移行したとき。

別表1 請求書類

(1) 死亡保険金、生存給付金の請求書類

	項 目	必 要 書 類
1	死亡保険金	(1) 会社所定の請求書 (2) 医師の死亡診断書または死体検案書（ただし、会社が必要と認めた場合は会社所定の様式による医師の死亡証明書） (3) 被保険者の死亡事実が記載された住民票（ただし、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (4) 死亡保険金受取人の戸籍抄本 (5) 死亡保険金受取人の印鑑証明書 (6) 保険証券
2	生存給付金	(1) 会社所定の請求書 (2) 被保険者の住民票（ただし、生存給付金受取人と同一の場合は不要。また、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 生存給付金受取人の戸籍抄本 (4) 生存給付金受取人の印鑑証明書 (5) 保険証券
(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。 2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。		

(2) その他の請求書類

	項 目	必 要 書 類
1	解約返還金	(1) 会社所定の解約返還金請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
2	死亡保険金受取人による保険契約の存続	(1) 会社所定の保険契約存続通知書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険契約の存続を申し出る死亡保険金受取人が保険契約者または被保険者の親族であることを証する書類（ただし、保険契約の存続を申し出る者が被保険者本人である場合は不要） (4) 保険契約の存続を申し出る死亡保険金受取人の印鑑証明書（ただし、保険契約の存続を申し出る者が被保険者本人である場合は被保険者の印鑑証明書） (5) 債権者等に所定の金額を支払ったことを証する書類
3	死亡保険金または生存給付金の受取人の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
4	遺言による死亡保険金受取人の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 保険契約者の死亡事実が記載された住民票（ただし、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 遺言書の写しおよびその有効性を証する書類 (4) 保険契約者の相続人であることを証する書類と印鑑証明書（ただし、遺言執行者からの通知のときは遺言執行者であることを証する書類と印鑑証明書） (5) 保険証券
5	保険契約者の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 変更前の保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
6	指定生存給付金支払日の変更	(1) 会社所定の指定生存給付金支払日の変更請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
<p>(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。</p> <p>2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。</p>		

別表2 解約返還金額

解約返還金額はつぎの算式によって計算される金額とします。

1. 最初の積立利率保証期間満了日まで

$$\begin{aligned} & \text{積立金額} \times (1 - \text{市場価格調整率}) - \text{基本保険金額} \times \text{会社の定める解約控除率} \\ & \quad \text{※市場価格調整率} = (\text{終身保障倍率} \times \text{市場価格調整率①} \\ & \quad \quad \quad + \text{未到来の生存給付金支払日の回数} \times \text{市場価格調整率②}) \\ & \quad \quad \quad \div (\text{終身保障倍率} + \text{未到来の生存給付金支払日の回数}) \end{aligned}$$

2. 最初の積立利率保証期間満了日の翌日以後

$$\text{積立金額} \times (1 - \text{市場価格調整率①})$$

(注) 市場価格調整率①とは、つぎの算式により計算した率とします。

$$1 - \left[\frac{1 + \text{適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①}}{1 + \text{解約返還金計算日の市場価格調整用利率①} + \text{会社の定める率}} \right]^{\text{調整年数①}}$$

市場価格調整率②とは、つぎの算式により計算した率とします。

$$1 - \left[\frac{1 + \text{適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②}}{1 + \text{解約返還金計算日の市場価格調整用利率②} + \text{会社の定める率}} \right]^{\text{調整年数②}}$$

- ・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率①とは、解約返還金計算日にこの保険契約に適用されている積立利率の算出において用いた第4条（積立利率）第2項第1号に定める通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（会社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。
- ・適用されている積立利率の算出時の市場価格調整用利率②とは、解約返還金計算日にこの保険契約に適用されている積立利率の算出において用いた第4条第2項第2号に定める通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（会社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。
- ・解約返還金計算日の市場価格調整用利率①とは、解約返還金計算日を契約日（積立利率保証期間の更新が行なわれている場合は、直前の積立利率保証期間更新日）とみなした場合に、会社の定める方法により計算される、この保険契約と同一の通貨の種類で、この保険契約に適用されている積立利率保証期間と同一の期間に適用される積立利率（最終の積立利率保証期間更新日前に適用されるもので、この保険契約の契約日に応じた積立利率とします。）の算出において用いる第4条第2項第1号に定める通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（会社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。
- ・解約返還金計算日の市場価格調整用利率②とは、解約返還金計算日を契約日とみなした場合に、会社の定める方法により計算される、この保険契約と同一の通貨の種類および生存給付金支払回数に適用される積立利率の算出において用いる第4条第2項第2号に定める通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利の積立利率計算日（通貨の種類が米ドルの場合は積立利率計算日の前日）における直前3日（会社が指標金利を取得する3日に限ります。）の平均値とします。
- ・会社の定める率とは、解約返還金額の計算に用いる調整率で、市場環境等に応じて0.00%以上0.10%以下の範囲内で定める率とします。
- ・調整年数①とは、積立利率保証期間および積立利率保証期間の満了日までの年数に応じて会社の定める方法により計算した値とします。
- ・調整年数②とは、生存給付金支払回数および最終回の生存給付金支払日の前日までの残存年数に応じて会社の定める方法により計算した値とします。

別表3 指標金利

1. 通貨の種類および積立利率保証期間に応じた指標金利

(1) 通貨の種類が米ドルの場合

積立利率保証期間	指標金利
10年	加重平均インデックス利回り（対象年限5年）および加重平均インデックス利回り（対象年限10年）を単純平均したもの
15年	
20年	加重平均インデックス利回り（対象年限10年）および加重平均インデックス利回り（対象年限20年）を単純平均したもの
30年	

(2) 通貨の種類がユーロの場合

積立利率保証期間	指標金利
10年	ユーロ10年金利スワップレート（固定受け）
15年	
20年	ユーロ10年金利スワップレート（固定受け）およびユーロ20年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの
30年	

(3) 通貨の種類が豪ドルの場合

積立利率保証期間	指標金利
10年	豪ドル10年金利スワップレート（固定受け）
15年	
20年	豪ドル10年金利スワップレート（固定受け）および豪ドル20年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの
30年	

(4) 通貨の種類が円の場合

積立利率保証期間	指標金利
10年	10年の日本国債の流通利回り
15年	
20年	20年の日本国債の流通利回り
30年	

2. 通貨の種類および生存給付金支払回数に応じた指標金利

(1) 通貨の種類が米ドルの場合

生存給付金支払回数	指標金利
3回	加重平均インデックス利回り（対象年限3年）
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	加重平均インデックス利回り（対象年限5年）
9回	
10回	
11回	加重平均インデックス利回り（対象年限5年）および加重平均インデックス利回り（対象年限10年）を単純平均したもの
12回	
13回	
14回	
15回	加重平均インデックス利回り（対象年限10年）
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
25回	
30回	

(2) 通貨の種類がユーロの場合

生存給付金支払回数	指標金利
3回	ユーロ3年金利スワップレート（固定受け）
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	ユーロ5年金利スワップレート（固定受け）
9回	
10回	
11回	ユーロ5年金利スワップレート（固定受け）およびユーロ10年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの
12回	
13回	
14回	
15回	ユーロ10年金利スワップレート（固定受け）
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
25回	
30回	ユーロ10年金利スワップレート（固定受け）およびユーロ15年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの

(3) 通貨の種類が豪ドルの場合

生存給付金支払回数	指標金利
3回	豪ドル3年金利スワップレート（固定受け）
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	豪ドル5年金利スワップレート（固定受け）
9回	
10回	
11回	豪ドル5年金利スワップレート（固定受け）および豪ドル10年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	豪ドル10年金利スワップレート（固定受け）
17回	
18回	
19回	
20回	
25回	
30回	豪ドル10年金利スワップレート（固定受け）および豪ドル15年金利スワップレート（固定受け）を単純平均したもの

(4) 通貨の種類が円の場合

生存給付金支払回数	指標金利
3回	3年の日本国債の流通利回り
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	5年の日本国債の流通利回り
9回	
10回	
11回	5年の日本国債の流通利回りおよび10年の日本国債の流通利回りを単純平均したもの
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	10年の日本国債の流通利回り
17回	
18回	
19回	
20回	
25回	
30回	10年の日本国債の流通利回りおよび15年の日本国債の流通利回りを単純平均したもの

備考（別表3） 加重平均インデックス利回り

「加重平均インデックス利回り」とは、つぎの(1)を30%、(2)を70%の割合で加重平均して算出した利回りをいいます。

(1) Bloomberg USD Treasury/Agency/Supranational/Sovereign Fixed income bond Index A-/A3 or betterの構成銘柄のうち残存年数が対象年限の前後1年以内となる銘柄を抽出し、銘柄ごとの時価総額で加重平均して算出した利回り

(2) Bloomberg USD Senior Industrial/Utility Fixed income bond Index A-/A3 or betterの構成銘柄のうち残存年数が対象年限の前後1年以内となる銘柄を抽出し、銘柄ごとの時価総額で加重平均して算出した利回り

(注)・(1)および(2)の利回りの算出において、該当する銘柄が無い場合は、線形補間等により算出します。

・(1)および(2)のインデックス名称に変更があった場合、変更後の名称とします。

保険料円貨入金特約条項 目次

この特約の概要	第3条 積立利率変動型終身保険（米ドル建）等に付加する場合の特則
第1条 特約の締結	
第2条 特約の適用	

保険料円貨入金特約条項

（この特約の概要）

この特約は、円貨により金銭を払い込み、その金額を主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）における外貨建の一時払保険料に充当する場合の取扱について定めたものです。

（特約の締結）

第1条 保険契約者は、主契約の締結の際、会社の定める取扱範囲で、この特約を主契約に付加して締結することができます。

（特約の適用）

第2条 この特約を主契約に付加した場合には、主契約の普通保険約款の規定にかかわらず、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 会社は、保険契約者が円貨により払い込んだ金銭を外貨に換算し、主契約における外貨建の一時払保険料に充当します。
- (2) 前号の円貨により払い込まれる金額（以下「円貨払込金額」といいます。）の主契約における外貨建の一時払保険料への換算には、円貨払込金額を会社の本社または会社の指定した場所で受領する日（以下「受領日」といいます。また、その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下同じ。）における会社所定の為替レートを用いるものとします。
- (3) 前号の会社所定の為替レートは、受領日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を上回ることはありません。
- (4) 保険契約の締結の際の主契約の基本保険金額は、前2号で換算した外貨建の一時払保険料と同額とします。
- (5) 会社は、保険契約の締結の際に交付する保険証券に円貨払込金額を記載します。

（積立利率変動型終身保険（米ドル建）等に付加する場合の特則）

第3条 この特約を積立利率変動型終身保険（米ドル建）、積立利率変動型終身保険（ユーロ建）、積立利率変動型終身保険（豪ドル建）、積立利率変動型終身保険（17）（通貨指定型）または積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加する場合には、前条第4号の規定は適用しません。

保険料外貨入金特約条項 目次

この特約の概要

第3条 積立利率変動型終身保険（米ドル建）等に
付加する場合の特則

第1条 特約の締結

第2条 特約の適用

保険料外貨入金特約条項

（この特約の概要）

この特約は、主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）における外貨と異なる外貨により金銭を払い込み、その金額を主契約における外貨建の一時払保険料に充当する場合の取扱について定めたものです。

（特約の締結）

第1条 保険契約者は、主契約の締結の際、会社の定める取扱範囲で、この特約を主契約に付加して締結することができます。

（特約の適用）

第2条 この特約を主契約に付加した場合には、主契約の普通保険約款の規定にかかわらず、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 会社は、保険契約者が主契約における外貨と異なるつぎの(ア)から(エ)までのうち会社の定める取扱範囲のいずれかの外貨により払い込んだ金銭を主契約における外貨建の一時払保険料に換算し、充当します。

(ア) アメリカ合衆国通貨（米ドル）

(イ) 欧州単一通貨（ユーロ）

(ウ) オーストラリア連邦通貨（豪ドル）

(エ) ニュージーランド通貨（ニュージーランドドル）

(2) 前号の主契約における外貨と異なる外貨により払い込まれる金額（以下「外貨払込金額」といいます。）の主契約における外貨建の一時払保険料への換算には、外貨払込金額を会社の本社または会社の指定した場所で受領する日（以下「受領日」といいます。また、その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下同じ。）における会社所定の為替レートを用いるものとします。

(3) 前号の会社所定の為替レートは、受領日の会社が指標として指定する金融機関が公示する保険契約者が払い込む外貨の対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を主契約における外貨の対顧客電信売相場（TTS）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）で除すことによって得られるレートを下回ることはありません。

(4) 保険契約の締結の際の主契約の基本保険金額は、前2号で換算した主契約における外貨建の一時払保険料と同額とします。

(5) 会社は、保険契約の締結の際に交付する保険証券に外貨払込金額を記載します。

（積立利率変動型終身保険（米ドル建）等に付加する場合の特則）

第3条 この特約を積立利率変動型終身保険（米ドル建）、積立利率変動型終身保険（ユーロ建）、積立利率変動型終身保険（豪ドル建）、積立利率変動型終身保険（17）（通貨指定型）または積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加する場合には、前条第4号の規定は適用しません。

円貨支払特約条項 目次

この特約の概要	第14条	主契約に定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）が付加されている場合の特則
第1条 特約の適用	第15条	主契約に死亡保障抑制期間中死亡時円貨支払額最低保証特約等が付加されている場合の特則
第2条 年金を支払う場合の取扱	第16条	生存給付金付養老保険（通貨指定型）に付加した場合の特則
第3条 死亡給付金等を支払う場合の取扱	第17条	予定利率変動型外貨建終身保険（低解約返還金型）に付加した場合の特則
第4条 年金原資額の一部支払および第2 保険期間移行日における積立金額の一部支払の場合の取扱	第18条	主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則
第5条 解約返還金を支払う場合の取扱	第19条	積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合の特則
第6条 繰上げ年金開始により年金を支払う場合の取扱	第20条	主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合の取扱
第7条 更新時差額返還金を支払う場合の取扱	第21条	主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の取扱
第8条 その他の返還金を支払う場合の取扱	第22条	予定利率変動型外貨建個人年金保険に付加した場合の特則
第9条 主約款の規定の準用	第23条	通貨指定型個人年金保険（24）に付加した場合の特則
第10条 主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合の特則		
第11条 主契約に運用期間中年金支払移行特約等とあわせてこの特約を付加する場合の特則		
第12条 通貨指定型個人年金保険（16）に付加した場合の特則		
第13条 年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合の特則		

円貨支払特約条項

（この特約の概要）

この特約は、主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）および主契約に付加されている特約における外貨建の年金、死亡給付金または死亡保険金（以下「死亡給付金等」といいます。）および解約返還金等を円貨により支払う場合の取扱について定めたものです。

（特約の適用）

第1条 この特約は、主契約および主契約に付加されている特約における外貨建の年金、死亡給付金等および解約返還金等を円貨により支払う場合に適用します。

（年金を支払う場合の取扱）

第2条 第1回の年金の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主契約の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）の通貨に関する規定にかかわらず、年金を円貨により支払います。この場合、以後外貨により年金を支払うことはありません。

2. 前項の場合、主約款の規定にかかわらず、年金額（年金の種類が確定年金（支払額指定型）の場合の年金額を除きます。）は、年金支払開始日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートをを用いて年金原資額（主契約に終身保険移行特約が適用されており、主契約の一部を終身保険に移行する場合、終身保険に移行しない部分の年金原資額とします。）を円貨に換算した金額（以下「円換算年金原資額」といいます。）をもとに、年金支払開始日におけるこの特約を適用した場合の会社の定める率により計算した金額とします。

3. 前項の会社所定の為替レートは、年金支払開始日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
4. つぎの各号の場合には、年金の支払を行わず、円換算年金原資額を保険契約者に支払います。
 - (1) 第2項の規定により計算された年金額が会社の定める金額に満たないとき。
 - (2) 年金の種類が確定年金または確定年金（支払額指定型）の場合で、年金支払期間中に支払われるべき円貨の年金の合計額が円換算年金原資額に満たないとき。
5. 第2項の規定により計算された年金額が会社の定める金額をこえることとなる場合には、円換算年金原資額のうちそのこえる部分に対応する金額を保険契約者に支払います。

（死亡給付金等を支払う場合の取扱）

- 第3条 死亡給付金等の請求に際して、死亡給付金等の受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、死亡給付金等を円貨により支払います。
2. 前項の場合、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて死亡給付金等を円貨に換算します。
 3. 前項の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（年金原資額の一時支払および第2保険期間移行日における積立金額の一時支払の場合の取扱）

- 第4条 年金支払開始日における年金原資額の一時的支払または第2保険期間移行日における積立金額の一時的支払の請求に際して、主約款においてこれらの請求ができる者として定められている者から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、年金原資額（主契約に終身保険移行特則が適用されており、主契約の一部を終身保険に移行する場合、終身保険に移行しない部分の年金原資額とします。以下本条において同じ。）または第2保険期間移行日の前日末の積立金額を円貨により支払います。
2. 前項の場合、年金支払開始日もしくは第2保険期間移行日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて年金原資額または第2保険期間移行日の前日末の積立金額を円貨に換算します。
 3. 前項の会社所定の為替レートは、年金支払開始日もしくは第2保険期間移行日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（解約返還金を支払う場合の取扱）

- 第5条 主契約および特約の解約または基本保険金額もしくは移行後基本保険金額の減額の請求に際して、保険契約者から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、解約返還金（減額の場合の返還金を含みます。以下本条において同じ。）を円貨により支払います。
2. 前項の場合、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて解約返還金を円貨に換算します。
 3. 前項の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（繰上げ年金開始により年金を支払う場合の取扱）

- 第6条 繰上げ年金開始による第1回の年金の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、年金を円貨により支払います。この場合、以後外

貨により年金を支払うことはありません。

2. 前項の場合、主約款の規定にかかわらず、年金額（年金の種類が確定年金（支払額指定型）の場合の年金額を除きます。）は、繰上げ後の年金支払開始日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて繰上げ後の年金支払開始日の前日における解約返還金額を円貨に換算した金額（以下「繰上げ年金開始時の円換算年金原資額」といいます。）をもとに、繰上げ後の年金支払開始日におけるこの特約を適用した場合の会社の定める率により計算した金額とします。
3. 前項の会社所定の為替レートは、繰上げ後の年金支払開始日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
4. つぎの各号の場合には、繰上げ年金開始は行ないません。この場合、会社は、その旨を保険契約者に書面によって通知します。
 - (1) 第2項の規定により計算された年金額が会社の定める金額に満たないとき。
 - (2) 年金の種類が確定年金または確定年金（支払額指定型）の場合で、年金支払期間中に支払われるべき円貨の年金の合計額が繰上げ年金開始時の円換算年金原資額に満たないとき。
5. 第2項の規定により計算された年金額が会社の定める金額をこえることとなる場合には、繰上げ年金開始時の円換算年金原資額のうちそのこえる部分に対応する金額を保険契約者に支払います。

（更新時差額返還金を支払う場合の取扱）

- 第7条 主約款の規定により積み立てられている更新時差額返還金の請求に際して、保険契約者（死亡保険金とともに支払われる場合については死亡保険金受取人とします。）から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、更新時差額返還金を円貨により支払います。
2. 前項の場合、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて更新時差額返還金を円貨に換算します。
 3. 前項の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（その他の返還金を支払う場合の取扱）

- 第8条 主約款の規定により、積立金その他の返還金（以下「その他の返還金」といいます。）を払い戻す場合に、保険契約者から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、その他の返還金を円貨により支払います。
2. 前項の場合、その支払日における会社所定の為替レートを用いてその他の返還金を円貨に換算します。
 3. 前項の会社所定の為替レートは、その他の返還金の支払日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（主約款の規定の準用）

第9条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款の規定を準用します。

（主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合の特則）

- 第10条 主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。
- (1) 第1回の特約年金の請求に際して、特約年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、特約年金を円貨により支払います。この場合、以後外貨により特約年金を支払うことはありません。
 - (2) 前号の場合、死亡給付金等の年金払特約条項第2条（特約年金の支払）第2項の規定にかかわらず、特約年金額は、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下第4号において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて主約款および各特約条項の規定により支払われることとなる死亡給付金等を円貨に換算した金額（以下「円換算死亡給付金額等」といいます。）をもとに、第1回の特約年金の支払日におけるこの特約を適用した場合の会社の定める率

- により計算した金額とします。ただし、特約年金受取人が2人以上であるときは、各特約年金受取人について、死亡給付金等の受取割合に応じて計算された金額をもとに、それぞれ特約年金額を定めます。
- (3) 前号の規定により計算された特約年金額が会社の定める金額に満たないときは、第1号の規定にかかわらず、会社は、円換算死亡給付金額等（特約年金受取人が2人以上であるときは、円換算死亡給付金額等のうちその特約年金を受け取るべき特約年金受取人に対応する金額とします。）を一時に支払います。この場合、死亡給付金等の年金払特約（特約年金受取人が2人以上であるときは、当該特約年金受取人に対応する部分とします。）は、消滅します。
- (4) 第2号の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
2. この特約を定期支払金付積立利率変動型終身保険（通貨指定型）もしくは年金原資保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合またはこの特約とあわせて主契約に積立金の規則的引出特約が付加されている場合で、死亡給付金等の支払事由が生じた後に支払われた定期支払金、定期給付金、運用成果払出金または規則的引出金があるときには、前項に定める会社所定の為替レートをを用いて、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額から主約款または特約条項の規定に定めるその定期支払金、定期給付金、運用成果払出金または規則的引出金の額を差し引いた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、前項の規定を適用します。
3. この特約とあわせて主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。
- (1) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合には、第1項に定める会社所定の為替レートをを用いて、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額に特約条項の規定に定めるその未払分割払金の現価の全額を加えた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に到来する定期支払日における定期支払金について支払われた分割払金がある場合には、第1項に定める会社所定の為替レートをを用いて、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額から特約条項の規定に定めるその分割払金額を差し引いた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
4. この特約を積立利率変動型終身保険（米ドル建）、積立利率変動型終身保険（ユーロ建）または積立利率変動型終身保険（豪ドル建）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。
- (1) 主約款の規定により更新時差額返還金が積み立てられている場合には、第1項に定める会社所定の為替レートをを用いて、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額にその更新時差額返還金の全額を加えた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に積立利率保証期間更新日が到来して更新時差額返還金があった場合で、保険契約者からの請求によりその更新時差額返還金が支払われたときには、第1項に定める会社所定の為替レートをを用いて、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額から主約款の規定に定めるその更新時差額返還金の額を差し引いた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
5. この特約とあわせて主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項に定める特約の型がA型かつ同特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、生存給付金の円換算額上限設定特約条項第9条（主契約に円貨支払特約が適用される場合の特則）に定める死亡保険金の額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
6. この特約とあわせて主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合で、死亡給付金等の支払事由が生じた後に主契約が円貨建の生存給付金付終身保険に移行し、支払われた移行時差額返還金があるときには、つぎの各号のとおり取り扱います。
- (1) 主約款および各特約条項の規定により支払われることとなる死亡給付金等の額を第1項に定める会社所定の為替レートをを用いて円貨に換算した金額からその移行時差額返還金の額を差し引いた額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
- (2) この特約とあわせて主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項に定める特約の型がA型かつ同特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、前号の規定にかかわらず、生存給付金の円換算額上限設定特約条項第9条に定める死亡保険金の額からその移行時差額返還金の額を差し引いた額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。

7. この特約とあわせて主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合で、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置の型がB型となる保険金等がすえ置かれているときには、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額にそのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額を円貨に換算した金額を円換算死亡給付金額等とし、第1項の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に支払われた定期支払金、定期給付金または運用成果払出金がある場合には、前号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額からその定期支払金、定期給付金または運用成果払出金の額を差し引いた額」と読み替えて適用します。
- (3) この特約とあわせて主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合には、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合には、第1号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金およびその未払分割払金の現価の全額」と読み替えて適用します。
 - (イ) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に到来する定期支払日における定期支払金について支払われた分割払金がある場合には、第1号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額からその分割払金額を差し引いた額」と読み替えて適用します。

(主契約に運用期間中年金支払移行特約等とあわせてこの特約を付加する場合の特則)

第11条 主契約に運用期間中年金支払移行特約または年金支払移行特約とあわせてこの特約を付加する場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第1回の特約年金の請求に際して、特約年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、特約年金を円貨により支払います。この場合、以後外貨により特約年金を支払うことはありません。
- (2) 前号の場合、運用期間中年金支払移行特約条項第3条（特約年金額の計算）または年金支払移行特約条項第3条（特約年金額の計算）の規定にかかわらず、特約年金額は、特約年金支払開始日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次号において同じ。）における会社所定の為替レートをを用いて特約年金原資額を円貨に換算した金額（以下「円換算特約年金原資額」といいます。）をもとに、特約年金支払開始日におけるこの特約を適用した場合の会社の定める率により計算した金額とします。
- (3) 前号の会社所定の為替レートは、特約年金支払開始日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (4) つぎの(ア)および(イ)の場合には、この特約の適用は行ないません。この場合、会社は、その旨を保険契約者に書面によって通知します。
 - (ア) 第2号の規定により計算された特約年金額が会社の定める金額に満たないとき。
 - (イ) 年金支払期間中に支払われるべき円貨の特約年金の合計額が円換算特約年金原資額に満たないとき。

2. この特約とあわせて主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項に定める特約の型がA型かつ同特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金を前項に定める会社所定の為替レートをを用いて円貨に換算した金額に特約年金支払開始日の前日における繰越準備金を加えた額を円換算特約年金原資額とし、前項の規定を適用します。

3. 前項の場合で、主契約に生存給付金の支払日指定特約が適用されており、主約款の規定により生存給付金積立金が積み立てられているときには、前項の規定は、「特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金」を「特約年金支払開始日の前日における主約款第21条（解約返還金）に定める解約返還金に同日における生存給付金積立金を加えた金額」と読み替えて適用します。

(通貨指定型個人年金保険（16）に付加した場合の特則)

第12条 この特約を通貨指定型個人年金保険（16）に付加した場合には、第2条（年金を支払う場合の取扱）の規定は適用しません。

2. この特約を通貨指定型個人年金保険（16）に付加した場合には、前条までに定めるほか、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 年金（支払額が死亡時保証金額である場合に限り。）の支払の請求または年金の一括払の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、死亡時保証金額または年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。この場合、つぎの(ア)および(イ)のとおり取り扱います。
- (ア) 請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて死亡時保証金額または年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。
- (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (2) 死亡時増額期間満了時における未払年金の現価の一時支払の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、死亡時増額期間満了時における未払年金の現価を円貨により支払います。この場合、つぎの(ア)および(イ)のとおり取り扱います。
- (ア) 死亡時増額期間の満了日の翌日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて死亡時増額期間満了時における未払年金の現価を円貨に換算します。
- (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、死亡時増額期間の満了日の翌日または請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日のいずれか遅い日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合の特則）

第13条 この特約を年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合には、第2条（年金を支払う場合の取扱）および第11条（主契約に運用期間中年金支払移行特約等とあわせてこの特約を付加する場合の特則）の規定は適用しません。

2. この特約を年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合には、前条までに定めるほか、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 年金（支払額が残余年金支払期間の未払年金の現価である場合に限り。）の支払の請求または年金の一括払の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、残余年金支払期間の未払年金の現価または年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。

(2) 前号の場合、つぎの(ア)および(イ)のとおり取り扱います。

(ア) 請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて残余年金支払期間の未払年金の現価または年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。

(イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

3. この特約を運用期間中年金支払移行特約または年金支払移行特約が付加されている年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）にあわせて付加した場合には、特約年金（支払額が残余年金支払期間の未払特約年金の現価である場合に限り。）の支払の請求または特約年金の一括払の請求について、前項の規定を準用します。

（主契約に定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）が付加されている場合の特則）

第14条 主契約に定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）が付加されている場合には、第3条（死亡給付金等を支払う場合の取扱）第1項、第8条（その他の返還金を支払う場合の取扱）第1項、第10条（主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合の特則）第1項第1号および第11条（主契約に運用期間中年金支払移行特約等とあわせてこの特約を付加する場合の特則）の規定は、「主約款」を「主約款および定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）条項」と読み替えて適用します。

2. 前項の規定にかかわらず、この特約を年金原資運用実績連動保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合には、前条の規定により第11条の規定は適用しません。

（主契約に死亡保障抑制期間中死亡時円貨支払額最低保証特約等が付加されている場合の特則）

第15条 主契約に死亡保障抑制期間中死亡時円貨支払額最低保証特約または保障抑制期間中保険金円貨支払額最低保証特約が付加されている場合には、第3条（死亡給付金等を支払う場合の取扱）および第10条（主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合の特則）の規定は適用しません。

（生存給付金付養老保険（通貨指定型）に付加した場合の特則）

第16条 この特約を生存給付金付養老保険（通貨指定型）に付加した場合には、第2条（年金を支払う場合の取扱）の規定は適用しません。

2. この特約を生存給付金付養老保険（通貨指定型）に付加した場合には、前条までに定めるほか、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 遺族年金の一括払の請求に際して、遺族年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、遺族年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。

(2) 前号の場合、つぎの(ア)および(イ)のとおり取り扱います。

(ア) 請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて遺族年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。

(イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（予定利率変動型外貨建終身保険（低解約返還金型）に付加した場合の特則）

第17条 この特約を予定利率変動型外貨建終身保険（低解約返還金型）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 主約款の規定により、死亡保険金を支払う際に死亡保険金とともに死亡保険金受取人に払い戻される返還金について、第3条（死亡給付金等を支払う場合の取扱）の規定を準用します。

(2) 第5条（解約返還金を支払う場合の取扱）第1項の規定は、「基本保険金額もしくは移行後基本保険金額の減額」を「保険料の減額もしくは第2保険期間死亡保険金額の減額」と、「解約返還金（減額の場合の返還金を含みます。以下本条において同じ。）」を「解約返還金（減額の場合の返還金を含み、解約返還金とともに支払われる返還金も含みます。以下本条において同じ。）」と読み替えて適用します。

(3) 前条までに定めるほか、保険契約の失効による返還金について、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 保険契約の失効による返還金の請求に際して、保険契約者から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、当該返還金を円貨により支払います。

(イ) 前(ア)の場合、主約款の規定により保険契約が効力を失った日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本号において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて当該返還金を円貨に換算します。

(ウ) 前(イ)の会社所定の為替レートは、主約款の規定により保険契約が効力を失った日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

(4) この特約を保険料円貨払込特約（平準払用）が付加されている予定利率変動型外貨建終身保険（低解約返還金型）にあわせて付加した場合には、第2号の規定にかかわらず、第5条第1項の規定は、「基本保険金額もしくは移行後基本保険金額の減額」を「保険料もしくは保険料円貨払込金額の減額もしくは第2保険期間死亡保険金額の減額」と、「解約返還金（減額の場合の返還金を含みます。以下本条において同じ。）」を「解約返還金（減額の場合の返還金を含み、解約返還金とともに支払われる返還金も含みます。以下本条において同じ。）」と読み替えて適用します。

(5) この特約を年金支払移行特約（平準払用）が付加されている予定利率変動型外貨建終身保険（低解約返還金型）にあわせて付加した場合には、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 第8条（その他の返還金を支払う場合の取扱）第1項の規定は、「主約款の規定」を「主約款または年金支払移行特約（平準払用）条項の規定」と、「保険契約者」を「保険契約者または特約年金受取人」

と読み替えて適用します。

- (イ) 前条までに定めるほか、特約年金（支払額が残余年金支払期間の未払特約年金の現価、残余保証期間の未払特約年金の現価または死亡時保証金額である場合に限り、）の支払の請求または特約年金の一括払の請求に際して、特約年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、残余年金支払期間の未払特約年金の現価、残余保証期間の未払特約年金の現価もしくは死亡時保証金額または特約年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。
- (ウ) 前(イ)の場合、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本号において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて、残余年金支払期間の未払特約年金の現価、残余保証期間の未払特約年金の現価もしくは死亡時保証金額または特約年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。
- (エ) 前(ウ)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則）

第18条 主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第1回の特約介護年金の請求に際して、特約介護年金受取人（特約介護年金受取人に特約介護年金の請求を自ら行なうことができない特別な事情がある場合には介護年金支払移行特約条項に定める代理人とします。）から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、特約介護年金を円貨により支払います。この場合、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 特約介護年金額の計算においては、第11条（主契約に運用期間中年金支払移行特約等とあわせてこの特約を付加する場合の特則）第1項第2号および同条同項第3号の規定を準用します。
 - (イ) 前(ア)の規定により計算された特約基本介護年金額が会社の定める金額に満たない場合には、この特約の適用は行ないません。この場合、会社は、その旨を特約介護年金受取人に書面によって通知します。
 - (ウ) 前(ア)の規定により計算された特約基本介護年金額が会社の定める金額をこえることとなる場合には、円換算特約介護年金原資額のうちそのこえる部分に対応する金額を特約介護年金受取人に支払います。
 - (エ) この特約とあわせて主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項に定める特約の型がA型かつ同特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、第11条第2項の規定を準用します。
 - (オ) 前(エ)の場合で、主契約に生存給付金の支払日指定特約が適用されており、主約款の規定により生存給付金積立金が積み立てられているときには、第11条第3項の規定を準用します。
- (2) 第1回の特約介護年金の請求後、特約介護年金（支払額が残余保証期間の未払特約介護年金の現価または死亡時保証金額である場合に限り、）の支払の請求または特約介護年金の一括払の請求に際して、特約介護年金受取人（特約介護年金受取人に特約介護年金の請求を自ら行なうことができない特別な事情がある場合には介護年金支払移行特約条項に定める代理人とします。）から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、残余保証期間の未払特約介護年金の現価もしくは死亡時保証金額または特約介護年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。この場合、前条第5号の規定を準用します。
- (3) 第8条（その他の返還金を支払う場合の取扱）第1項の規定は、「主約款の規定」を「主約款または介護年金支払移行特約条項の規定」と、「保険契約者」を「保険契約者または特約介護年金受取人（特約介護年金受取人に特約介護年金の請求を自ら行なうことができない特別な事情がある場合には介護年金支払移行特約条項に定める代理人とします。）」と読み替えて適用します。
- (4) 介護年金支払移行特約とあわせて主契約に定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）が付加されている場合には、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 第1号および第2号の規定は、「主約款」を「主約款または定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）条項」と読み替えて適用します。
 - (イ) 第14条（主契約に定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）が付加されている場合の特則）第1項および前号の規定にかかわらず、第8条第1項の規定は、「主約款の規定」を「主約款または定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）条項もしくは介護年金支払移行特約条項の規定」と、「主約款の

通貨」を「主約款または定額終身保険移行特約（移行後通貨指定型）条項の通貨」と、「保険契約者」を「保険契約者または特約介護年金受取人（特約介護年金受取人に特約介護年金の請求を自ら行なうことができない特別な事情がある場合には介護年金支払移行特約条項に定める代理人とします。）」と読み替えて適用します。

（積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合の特則）

第19条 この特約を積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第3条（死亡給付金等を支払う場合の取扱）および第10条（主契約に死亡給付金等の年金払特約が付加されている場合の特則）の規定は、認知症介護保険金を支払う場合に準用します。
- (2) 前号の場合で主契約の規定により認知症介護保険金について代理請求が行なわれるときは、第3条の規定は、「死亡給付金等の受取人」を「主約款に定める代理人」と、第10条の規定は、「特約年金受取人」を「主約款に定める代理人」と読み替えて適用します。

（主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合の取扱）

第20条 主契約に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項の規定により、最終回の生存給付金支払日に対象額から上限額指定通貨換算額を差し引いた金額を支払う際に、保険契約者から申出があり、かつ、会社が承諾したときは、当該金額を円貨により支払います。この場合、第8条（その他の返還金を支払う場合の取扱）の規定を準用します。

（主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の取扱）

第21条 主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) すえ置期間の満了（保険金等のすえ置特約条項に定めるすえ置の型がA型の場合に限ります。）により、同特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の元利金を支払う際に、保険金等の受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) すえ置期間の満了日の翌日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本号において同じ。）における会社所定の為替レートを用いてすえ置かれている保険金等の元利金を円貨に換算します。
 - (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、すえ置期間の満了日の翌日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (2) 保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の請求に際して、保険金等の受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) すえ置かれている保険金等の請求を会社が受け付けた日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本号において同じ。）における会社所定の為替レートを用いてすえ置かれている保険金等の元利金を円貨に換算します。
 - (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、すえ置かれている保険金等の請求を会社が受け付けた日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (3) すえ置期間中に保険金等の受取人が死亡したことにより、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の元利金を支払う際に、保険金等の受取人の相続人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、第8条（その他の返還金を支払う場合の取扱）の規定を準用します。
- (4) すえ置かれている保険金等に係る保険契約の部分が解約されたことにより、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の元利金を支払う際に、保険金等の受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、第5条（解約返還金を支払う場合の取扱）の規定を準用します。

- (5) すえ置期間中に重大事由によりすえ置かれている保険金等に係る保険契約の部分が解除されたことにより、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の元利金を支払う際に、保険金等の受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、第8条の規定を準用します。
- (6) すえ置かれている保険金等に係る保険契約の部分が消滅（解約および重大事由による解除による消滅を除きます。）したことにより、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置かれている保険金等の元利金を支払う際に、保険金等の受取人（本号(7)の場合には、死亡給付金等の受取人とします。）から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款および各特約条項の通貨に関する規定にかかわらず、すえ置かれている保険金等の元利金を円貨により支払います。この場合、つぎのとおり取り扱います。
- (7) 主契約の死亡給付金等の支払事由が生じたことによる保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、第3条（死亡給付金等を支払う場合の取扱）の規定を準用します。
- (イ) 主約款および各特約条項の規定により年金（年金の名称の如何を問いません。以下同じ。）が支払われるべき期間の満了による保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、つぎのとおり取り扱います。
- a. 年金が支払われるべき期間の満了日の翌日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本(イ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いてすえ置かれている保険金等の元利金を円貨に換算します。
- b. 前a.の会社所定の為替レートは、年金が支払われるべき期間の満了日の翌日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (ウ) 年金の支払開始日以後における被保険者の死亡（被保険者の死亡により、年金の支払の請求を要する場合に限ります。）または年金の一括払による保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、つぎのとおり取り扱います。
- a. 年金の支払または年金の一括払の請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本(ウ)において同じ。）における会社所定の為替レートを用いてすえ置かれている保険金等の元利金を円貨に換算します。
- b. 前a.の会社所定の為替レートは、年金の支払または年金の一括払の請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。
- (エ) 年金の支払開始日以後における被保険者の死亡（被保険者の死亡により、年金の支払の請求を要する場合を除きます。）による保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、第8条の規定を準用します。
- (オ) 死亡時増額期間満了時における未払年金の現価の一時支払による保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、第12条（通貨指定型個人年金保険（16）に付加した場合の特則）第2項第2号の規定を準用します。
- (カ) 免責事由により、主契約の死亡給付金等または年金が支払われないことによる保険契約の消滅により、すえ置かれている保険金等の元利金を支払う場合には、第8条の規定を準用します。

（予定利率変動型外貨建個人年金保険に付加した場合の特則）

第22条 この特約を予定利率変動型外貨建個人年金保険に付加した場合には、第2条（年金を支払う場合の取扱）の規定は適用しません。

2. この特約を予定利率変動型外貨建個人年金保険に付加した場合には、前条までに定めるほか、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 年金（支払額が残余年金支払期間の未払年金の現価、残余保証期間の未払年金の現価または死亡時保証金額である場合に限ります。）の支払の請求または年金の一括払の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、残余年金支払期間の未払年金の現価、残余保証期間の未払年金の現価もしくは死亡時保証金額または年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。

(2) 前号の場合、つぎの(ア)および(イ)のとおり取り扱います。

(ア) 請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日（その日が、会社が指標と

して指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。)における会社所定の為替レートを用いて残余年金支払期間の未払年金の現価、残余保証期間の未払年金の現価もしくは死亡時保証金額または年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。

- (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場 (TTB) (1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。)を下回ることはありません。
- (3) 主約款の規定により、死亡給付金を支払う際に死亡給付金とともに死亡給付金受取人に払い戻される返還金について、第3条(死亡給付金等を支払う場合の取扱)の規定を準用します。
- (4) 第5条(解約返還金を支払う場合の取扱)第1項の規定は、「解約返還金(減額の場合の返還金を含みます。以下本条において同じ。)」を「解約返還金(解約返還金とともに支払われる返還金も含みます。以下本条において同じ。)」と読み替えて適用します。
- (5) 前条までに定めるほか、保険契約の失効による返還金について、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 保険契約の失効による返還金の請求に際して、保険契約者から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、当該返還金を円貨により支払います。
 - (イ) 前(ア)の場合、主約款の規定により保険契約が効力を失った日(その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本号において同じ。)における会社所定の為替レートを用いて当該返還金を円貨に換算します。
 - (ウ) 前(イ)の会社所定の為替レートは、主約款の規定により保険契約が効力を失った日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場 (TTB) (1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。)を下回ることはありません。

(通貨指定型個人年金保険 (24) に付加した場合の特則)

第23条 この特約を通貨指定型個人年金保険 (24) に付加した場合には、第2条(年金を支払う場合の取扱)の規定は適用しません。

- 2. この特約を通貨指定型個人年金保険 (24) に付加した場合には、前条までに定めるほか、つぎの各号のとおり取り扱います。
 - (1) 年金の一括払の請求に際して、年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、年金の一括払をしたときの支払額を円貨により支払います。この場合、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日(その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下(イ)において同じ。)における会社所定の為替レートを用いて年金の一括払をしたときの支払額を円貨に換算します。
 - (イ) 前(ア)の会社所定の為替レートは、請求に必要な書類が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場 (TTB) (1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。)を下回ることはありません。
 - (2) 年金の分割払中に年金の一括払が請求された場合で、未払分割払金の現価を支払う際に年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾したときは、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、未払分割払金の現価を円貨により支払います。この場合、前号の規定を準用します。
 - (3) 年金の分割払中に主契約が消滅した場合(年金の一括払により消滅した場合を除きます。)で、未払分割払金の現価を支払う際に年金受取人から申出があり、かつ、会社が承諾したときは、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、未払分割払金の現価を円貨により支払います。この場合、第8条(その他の返還金を支払う場合の取扱)の規定を準用します。

生存給付金等の円貨支払特約条項 目次

この特約の概要	第7条 主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則
第1条 特約の締結	第8条 主契約に年金支払移行特約が付加された場合の特則
第2条 生存給付金および遺族年金を支払う場合の取扱	第9条 生存給付金付終身保険（通貨指定型）に付加した場合の特則
第3条 満期保険金を支払う場合の取扱	第10条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則
第4条 特約の解約	
第5条 特約の消滅とみなす場合	
第6条 主約款の規定の準用	

生存給付金等の円貨支払特約条項

（この特約の概要）

この特約は、主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）における外貨建の生存給付金、遺族年金および満期保険金を円貨により支払う場合の取扱について定めたものです。

（特約の締結）

第1条 保険契約者（主契約の遺族年金の支払事由の発生以後は、遺族年金受取人とします。以下第4条（特約の解約）において同じ。）は、主契約の契約日以後、会社の定める取扱範囲で、この特約を主契約に付加して締結することができます。

（生存給付金および遺族年金を支払う場合の取扱）

第2条 この特約を主契約に付加した場合には、主契約の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）の通貨に関する規定にかかわらず、生存給付金および遺族年金を円貨により支払います。

2. 前項の場合、支払われる生存給付金または遺族年金ごとの支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートをを用いて生存給付金または遺族年金を円貨に換算します。

3. 前項の会社所定の為替レートは、各支払日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（満期保険金を支払う場合の取扱）

第3条 この特約を主契約に付加した場合には、主約款の通貨に関する規定にかかわらず、満期保険金を円貨により支払います。

2. 前項の場合、主契約の保険期間の満了日の翌日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下次項において同じ。）における会社所定の為替レートをを用いて満期保険金を円貨に換算します。

3. 前項の会社所定の為替レートは、主契約の保険期間の満了日の翌日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（特約の解約）

第4条 保険契約者は、いつでも将来に向けて、この特約を解約することができます。

（特約の消滅とみなす場合）

第5条 主契約が解約その他の事由によって消滅した場合には、この特約は消滅したものとみなします。

（主約款の規定の準用）

第6条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款の規定を準用します。

(主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則)

第7条 主契約に介護年金支払移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、主契約の全部が特約介護年金に移行したときには、この特約は消滅したものとみなします。

(主契約に年金支払移行特約が付加された場合の特則)

第8条 この特約が付加されている主契約に年金支払移行特約が付加された場合には、この特約は消滅したものとみなします。

(生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合の特則)

第9条 この特約を生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合で、主契約の最終回の生存給付金支払日が到来したときには、この特約は消滅したものとみなします。

2. 主契約に生存給付金の支払日指定特則が適用されている場合には、前項の規定は、「生存給付金支払日」を「指定生存給付金支払日」と読み替えて適用します。

(主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則)

第10条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、主契約が円貨建の生存給付金付終身保険に移行したときには、この特約は消滅したものとみなします。

生存給付金の円換算額上限設定特約条項 目次

<p>この特約の概要</p> <p>第1条 特約の締結</p> <p>第2条 上限額の設定および変更</p> <p>第3条 特約の型</p> <p>第4条 生存給付金の取扱</p> <p>第5条 繰越準備金の取扱</p> <p>第6条 特約の解約</p> <p>第7条 特約の消滅とみなす場合</p> <p>第8条 主約款の規定の準用</p>	<p>第9条 主契約に円貨支払特約が適用される場合の特則</p> <p>第10条 主契約に年金支払移行特約が付加された場合の特則</p> <p>第11条 主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則</p> <p>第12条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則</p> <p>第13条 主契約に生存給付金の支払日指定特約が適用されている場合の特則</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生存給付金の円換算額上限設定特約条項

(この特約の概要)

この特約は、主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）における生存給付金について、円貨で設定した上限額をこえた場合に、そのこえた金額を繰越準備金として積み立てる取扱について定めたものです。

(特約の締結)

第1条 保険契約者は、主契約の契約日以後、会社の定める範囲で、会社の承諾を得て、この特約を主契約に付加して締結することができます。

(上限額の設定および変更)

第2条 保険契約者は、この特約の締結の際、会社の定める範囲で、生存給付金の円貨建の上限（以下「上限額」といいます。）を設定するものとします。

2. 主契約の生存給付金受取人が2人以上の場合には、生存給付金受取人ごとに上限額を設定することを要します。

3. 保険契約者は、会社の定める範囲で、上限額を変更することができます。この場合、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

(特約の型)

第3条 この特約における特約の型は、主契約の通貨の種類、生存給付金を支払う通貨および次条に定める繰越準備金を積み立てる通貨に応じてつぎのとおりとし、保険契約者は、この特約の締結の際、会社の定める範囲で、特約の型を1つ指定するものとします。

(1) 主契約の通貨の種類が外貨の場合

特約の型	生存給付金を支払う通貨	繰越準備金を積み立てる通貨
A型	円貨	円貨
B型	円貨	指定通貨
C型	指定通貨	指定通貨

(2) 主契約の通貨の種類が円貨の場合

特約の型	生存給付金を支払う通貨	繰越準備金を積み立てる通貨
D型	円貨	円貨

2. 特約の型がA型またはB型の場合には、主契約の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）の通貨に関する規定にかかわらず、生存給付金を円貨により支払います。

3. 主契約の通貨の種類が外貨の場合、保険契約者は、生存給付金支払日に限り、会社の定める範囲で、会社の同意を得て、第1項により指定された特約の型を変更することができます。この場合、保険契約者は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

4. 前項の場合、次条に定める繰越準備金について、つぎのとおり取り扱います。

(1) 特約の型をA型からB型またはC型に変更した場合

- (ア) 当該生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。以下本項において同じ。）における会社所定の為替レートを用いて、繰越準備金を指定通貨に換算します。
- (イ) 本号(ア)の会社所定の為替レートは、当該生存給付金支払日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を上回ることはありません。
- (2) 特約の型をB型またはC型からA型に変更した場合
 - (ア) 当該生存給付金支払日における会社所定の為替レートを用いて、繰越準備金を円貨に換算します。
 - (イ) 本号(ア)の会社所定の為替レートは、当該生存給付金支払日の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

（生存給付金の取扱）

第4条 この特約を主契約に付加した場合には、特約の型に応じて、主契約の生存給付金および本条に定める繰越準備金について、つぎのとおり取り扱います。

(1) 特約の型がA型の場合

- (ア) 主約款の生存給付金の支払に関する規定にかかわらず、生存給付金の支払額（主契約の生存給付金受取人が2人以上の場合には、それぞれの生存給付金受取人に対する生存給付金の支払額とします。）はつぎのとおりとします。
 - a. 主契約の生存給付金を生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）における会社所定の為替レートを用いて円貨に換算した金額に本号(イ)に定める繰越準備金を加えた金額（以下本号において「対象額円換算額」といいます。）が上限額以上となる場合
上限額
 - b. 対象額円換算額が上限額未満となる場合
対象額円換算額
- (イ) 本号(ア)a.の場合、対象額円換算額から上限額を差し引いた金額はつぎのとおり取り扱います。
 - a. 最終回以外の生存給付金を支払うとき
繰越準備金として当該生存給付金支払日から会社所定の利率による利息をつけて積み立てます。
 - b. 最終回の生存給付金を支払うとき
保険契約者に支払います。
- (ウ) 本号(ア)の会社所定の為替レートは、当該生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

(2) 特約の型がB型の場合

- (ア) 主約款の生存給付金の支払に関する規定にかかわらず、生存給付金の支払額（主契約の生存給付金受取人が2人以上の場合には、それぞれの生存給付金受取人に対する生存給付金の支払額とします。）はつぎのとおりとします。
 - a. 主契約の生存給付金に本号(イ)に定める繰越準備金を加えた金額を生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）における会社所定の為替レートを用いて円貨に換算した金額（以下本号において「対象額円換算額」といいます。）が上限額以上となる場合
上限額
 - b. 対象額円換算額が上限額未満となる場合
対象額円換算額
- (イ) 本号(ア)a.の場合、対象額円換算額から上限額を差し引いた金額はつぎのとおり取り扱います。
 - a. 最終回以外の生存給付金を支払うとき
生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）における会社所定の為替レートを用いて指定通貨に換算した金額を、繰越準備金として当該生存給付金支払日から会社所定の利率による利息をつけて積み立てます。
 - b. 最終回の生存給付金を支払うとき

保険契約者に支払います。

- (ウ) 本号(ア)および本号(イ)a.の会社所定の為替レートは、当該生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。

(3) 特約の型がC型の場合

- (ア) 主約款の生存給付金の支払に関する規定にかかわらず、生存給付金の支払額（主約款の生存給付金受取人が2人以上の場合には、それぞれの生存給付金受取人に対する生存給付金の支払額とします。）はつぎのとおりとします。

a. 主約款の生存給付金に本号(イ)に定める繰越準備金を加えた金額（以下本号において「対象額」といいます。）が上限額を生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）における会社所定の為替レートをを用いて指定通貨に換算した金額（以下「上限額指定通貨換算額」といいます。）以上となる場合

上限額指定通貨換算額

b. 対象額が上限額指定通貨換算額未満となる場合

対象額

- (イ) 本号(ア)a.の場合、対象額から上限額指定通貨換算額を差し引いた金額はつぎのとおり取り扱います。

a. 最終回以外の生存給付金を支払うとき

繰越準備金として当該生存給付金支払日から会社所定の利率による利息をつけて積み立てます。

b. 最終回の生存給付金を支払うとき

保険契約者に支払います。

- (ウ) 本号(ア)の会社所定の為替レートは、当該生存給付金支払日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）の会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信買相場（TTB）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を下回ることはありません。また、同金融機関が公示する対顧客電信売相場（TTS）（1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。）を上回ることはありません。

(4) 特約の型がD型の場合

- (ア) 主約款の生存給付金の支払に関する規定にかかわらず、生存給付金の支払額（主約款の生存給付金受取人が2人以上の場合には、それぞれの生存給付金受取人に対する生存給付金の支払額とします。）はつぎのとおりとします。

a. 主約款の生存給付金に本号(イ)に定める繰越準備金を加えた金額（以下本号において「対象額」といいます。）が上限額以上となる場合

上限額

b. 対象額が上限額未満となる場合

対象額

- (イ) 本号(ア)a.の場合、対象額から上限額を差し引いた金額はつぎのとおり取り扱います。

a. 最終回以外の生存給付金を支払うとき

繰越準備金として当該生存給付金支払日から会社所定の利率による利息をつけて積み立てます。

b. 最終回の生存給付金を支払うとき

保険契約者に支払います。

（繰越準備金の取扱）

第5条 繰越準備金が積み立てられている場合、特約の型に応じて、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 特約の型がA型の場合

- (ア) 死亡保険金を支払う場合

主約款の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金をその日（その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。）における会社所定の為替レートをを用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額を死亡保険金として支払います。

- (イ) 被保険者が死亡した場合で、免責事由により死亡保険金が支払われないとき

主約款の返還金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金をその日（その日が、会社が指標と

して指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。)における会社所定の為替レートを用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(ウ) 主契約の解約により解約返還金を支払う場合

主契約の解約返還金に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金をその日(その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。)における会社所定の為替レートを用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額を解約返還金として保険契約者に支払います。

(エ) 重大事由により保険契約が解除された場合

主契約の返還金に、被保険者が死亡した場合はその日、それ以外の場合は解除の通知を発信した日における繰越準備金をそれぞれの日(それぞれの日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。)における会社所定の為替レートを用いて指定通貨に換算した金額を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(2) 特約の型がB型、C型またはD型の場合

(ア) 死亡保険金を支払う場合

主契約の死亡保険金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額を死亡保険金として支払います。

(イ) 被保険者が死亡した場合で、免責事由により死亡保険金が支払われないとき

主契約の返還金に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(ウ) 主契約の解約により解約返還金を支払う場合

主契約の解約返還金に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金を加えた金額を解約返還金として保険契約者に支払います。

(エ) 重大事由により保険契約が解除された場合

主契約の返還金に、被保険者が死亡した場合はその日、それ以外の場合は解除の通知を発信した日における繰越準備金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

2. 前項第1号の会社所定の為替レートは、同項同号に定めるそれぞれの為替レートの適用日における、会社が指標として指定する金融機関が公示する対顧客電信売相場(TTS)(1日のうちに公示の変更があった場合には、その日の最初の公示値とします。)を上回ることはありません。

(特約の解約)

第6条 保険契約者は、いつでも将来に向けて、この特約を解約することができます。この場合、保険契約者は、請求に必要な書類(別表1)を提出してください。

2. この特約が解約された場合で、繰越準備金が積み立てられているときには、請求に必要な書類(別表1)が会社の本社または会社の指定した場所に到着した日における繰越準備金を特約の解約返還金として保険契約者に支払います。

(特約の消滅とみなす場合)

第7条 つぎの各号の場合には、この特約は消滅したものとみなします。

(1) 主契約の最終回の生存給付金支払日が到来したとき。

(2) 主契約が解約その他の事由によって消滅したとき。

(主約款の規定の準用)

第8条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款の規定を準用します。

(主契約に円貨支払特約が適用される場合の特則)

第9条 この特約が付加されている主契約の死亡保険金、解約返還金またはその他の返還金を支払う際に、円貨支払特約が適用される場合で、特約の型がA型かつ繰越準備金が積み立てられているときには、第5条(繰越準備金の取扱)の規定にかかわらず、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) 死亡保険金を支払う場合

主契約の死亡保険金を円貨支払特約条項の規定により円貨に換算した金額に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額を死亡保険金として支払います。

(2) 被保険者が死亡した場合で、免責事由により死亡保険金が支払われないとき

主契約の返還金を円貨支払特約条項の規定により円貨に換算した金額に、被保険者が死亡した日における繰越準備金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(3) 主契約の解約により解約返還金を支払う場合

主契約の解約返還金を円貨支払特約条項の規定により円貨に換算した金額に、主契約の解約返還金計算日における繰越準備金を加えた金額を解約返還金として保険契約者に支払います。

(4) 重大事由により保険契約が解除された場合

主契約の返還金を円貨支払特約条項の規定により円貨に換算した金額に、被保険者が死亡した場合はその日、それ以外の場合は解除の通知を発信した日における繰越準備金を加えた金額を返還金として保険契約者に支払います。

(主契約に年金支払移行特約が付加された場合の特則)

第10条 この特約が付加されている主契約に年金支払移行特約が付加された場合には、この特約は消滅したものとみなします。

(主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則)

第11条 主契約に介護年金支払移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、主契約の全部が特約介護年金に移行したときには、この特約は消滅したものとみなします。

(主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則)

第12条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、主契約が円貨建の生存給付金付終身保険に移行したときには、この特約は消滅したものとみなします。

(主契約に生存給付金の支払日指定特則が適用されている場合の特則)

第13条 主契約に生存給付金の支払日指定特則が適用されている場合は、第3条（特約の型）、第4条（生存給付金の取扱）および第7条（特約の消滅とみなす場合）の規定は、「生存給付金支払日」を「指定生存給付金支払日」と読み替えて適用します。

別表1 請求書類

	項 目	必 要 書 類
1	上限額の変更	(1) 会社所定の上限額の変更請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
2	特約の型の変更	(1) 会社所定の特約の型の変更請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
3	特約の解約	(1) 会社所定の特約の解約請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券
<p>(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。</p> <p>2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。</p>		

年金支払移行特約条項 目次

この特約の概要

- 第1条 用語の意義
- 第2条 特約の締結
- 第3条 特約年金額の計算
- 第4条 特約年金の種類
- 第5条 特約年金の支払
- 第6条 特約年金の一括払
- 第7条 特約年金の継続支払
- 第8条 特約年金の請求、支払時期および支払場所
- 第9条 特約年金受取人
- 第10条 遺言による特約年金受取人の変更
- 第11条 後継特約年金受取人
- 第12条 遺言による後継特約年金受取人の指定または変更
- 第13条 年齢の計算

- 第14条 解約の取扱
- 第15条 時効
- 第16条 主約款の規定の準用
- 第17条 積立利率変動型終身保険等に付加した場合の特則
- 第18条 主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合の特則
- 第19条 積立利率変動型定額部分付変額終身保険(15)等に付加した場合の特則
- 第20条 積立利率変動型定額部分付変額終身保険(15)等に付加した場合の特約年金支払開始日等の特別取扱の特則
- 第21条 生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合の特則
- 第22条 主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の特則

年金支払移行特約条項

(この特約の概要)

この特約は、すでに締結されている主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）について、年金支払に移行することを目的としたものです。

(用語の意義)

第1条 この特約条項において使用されるつぎの各号の用語の意義は、それぞれつぎのとおりとします。

(1) 「特約年金支払開始日」

「特約年金支払開始日」は、会社がこの特約の付加の申込を会社の本社または会社の指定した場所で受け付けた日の翌日とします。

(2) 「特約年金支払日」

「特約年金支払日」とは、第1回の特約年金については特約年金支払開始日をいい、第2回以後の特約年金については、特約年金支払開始日の年単位の応当日をいいます。

(特約の締結)

第2条 保険契約者は、主契約の契約日から起算して1年以上経過している場合、会社の定める取扱範囲で、この特約を主契約に付加して締結することができます。

2. 特約年金に移行した部分については、特約年金支払開始日以後は、主契約の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）および各特約条項に定める保険金、給付金その他保険金に準じる保険給付はありません。

3. つぎの各号の場合には、第1項の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。

(1) 次条の規定により計算される特約年金額が、会社の定める金額に満たないとき。

(2) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額に満たないとき。

(特約年金額の計算)

第3条 前条の規定によりこの特約を締結したときは、会社の定める方法により、特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額（以下「特約年金原資額」といいます。）をもとに、特約年金支払開始日における会社の定める率により特約年金額を定めます。

(特約年金の種類)

第4条 特約年金の種類は、確定年金とします。

(特約年金の支払)

第5条 特約年金は、つぎのとおりとします。

	支払額	受取人	特約年金を支払う場合（以下「支払事由」といいます。）
確定年金	特約年金額	特約年金受取人	被保険者が年金支払期間中の特約年金支払日に生存しているとき
	残余年金支払期間の未払特約年金の現価		被保険者が年金支払期間中の最後の特約年金支払日前に死亡したとき

2. 特約年金受取人と被保険者が同一の場合で、前項の規定により、未払特約年金の現価を支払うときは、第11条（後継特約年金受取人）および第12条（遺言による後継特約年金受取人の指定または変更）の規定により定める後継特約年金受取人に支払います。

(特約年金の一括払)

第6条 特約年金受取人は、年金支払期間の最後の特約年金支払日前に限り、将来の特約年金の全部の支払にかえて、残余年金支払期間の未払特約年金の一括払を請求することができます。この場合の支払額は、未払特約年金の現価とし、保険契約（特約年金に移行した部分に限ります。）は特約年金の一括払を行なったときに消滅します。

(特約年金の継続支払)

第7条 特約年金受取人は、被保険者が死亡したことにより、残余年金支払期間の未払特約年金の現価が支払われることとなるときは、会社に、請求に必要な書類（別表1）を提出して、その支払にかえて、特約年金の継続支払を請求することができます。

2. 前項の場合、残余年金支払期間中の特約年金支払日に特約年金を継続して支払い、年金支払期間の満了時に保険契約（特約年金に移行した部分に限ります。以下本項において同じ。）は消滅します。ただし、前条に定める特約年金の一括払の請求があったときは、保険契約は特約年金の一括払を行なったときに消滅します。

(特約年金の請求、支払時期および支払場所)

第8条 特約年金を請求するときは、特約年金受取人は、会社に、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

2. 主約款に定める保険給付の支払時期および支払場所に関する規定は、この特約による特約年金の支払の場合に準用します。

(特約年金受取人)

第9条 保険契約者は、この特約の締結の際、被保険者の同意を得て、特約年金受取人を定めることを要します。

ただし、特約年金受取人は保険契約者または被保険者であることを要します。

2. 保険契約者と特約年金受取人が異なる場合、特約年金受取人は、特約年金支払開始日に、その移行する部分について保険契約上の一切の権利義務を承継するものとします。

3. 特約年金受取人は、被保険者の同意を得て、会社に対する通知により、特約年金受取人を変更することができます。ただし、変更後の特約年金受取人は被保険者であることを要します。

4. 前項の規定により特約年金受取人が変更された場合には、変更後の特約年金受取人は、その変更前の特約年金受取人の保険契約上の一切の権利義務を承継するものとします。

5. 第3項の通知をするときは、特約年金受取人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

6. 第3項の通知が会社に到着したときは、特約年金受取人の変更の効力は、その通知を發した時にさかのぼって生じるものとします。

7. 前項の規定にかかわらず、第3項の通知が会社に到達する前に、変更前の特約年金受取人に特約年金を支払ったときは、その支払後に変更後の特約年金受取人から特約年金の請求を受けても、会社はこれを支払いません。

(遺言による特約年金受取人の変更)

第10条 前条の規定によるほか、特約年金受取人は、法律上有効な遺言により、特約年金受取人を変更することができます。ただし、変更後の特約年金受取人は被保険者であることを要します。

2. 前項の特約年金受取人の変更は、被保険者の同意がなければ、その効力を生じません。
3. 前2項の規定により特約年金受取人が変更された場合には、変更後の特約年金受取人は、その変更前の特約年金受取人の保険契約上の一切の権利義務を承継するものとします。
4. 第1項および第2項の規定による特約年金受取人の変更は、特約年金受取人が死亡した後、特約年金受取人の相続人（遺言執行者が指定されているときは遺言執行者を含みます。以下本条において同じ。）が、その旨を会社に通知しなければ、会社に対抗することができません。
5. 前項の通知をするときは、特約年金受取人の相続人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。

(後継特約年金受取人)

第11条 特約年金受取人は、被保険者の同意を得て、会社に対する通知により、後継特約年金受取人を指定または変更することができます。この場合、後継特約年金受取人は1人の特約年金受取人に対して1人であることを要します。

2. 前項の通知をするときは、特約年金受取人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
3. 特約年金受取人が特約年金の支払事由の発生以前に死亡したときは、後継特約年金受取人が新たな特約年金受取人となるものとし、その後継特約年金受取人はその死亡した特約年金受取人の保険契約上の一切の権利義務を承継するものとします。
4. 前項の場合で、後継特約年金受取人がすでに死亡しているときまたは後継特約年金受取人が指定されていないときは、特約年金受取人の法定相続人を後継特約年金受取人とし、前項の規定を適用します。
5. 前2項の規定により特約年金受取人となった者が2人以上いる場合、その受取割合は均等とします。
6. 第1項の通知が会社に到着したときは、後継特約年金受取人の指定または変更の効力は、その通知を発した時にさかのぼって生じるものとします。
7. 前項の規定にかかわらず、第1項の通知が会社に到達する前に、指定または変更前の特約年金受取人または後継特約年金受取人に特約年金を支払ったときは、その支払後に指定または変更後の後継特約年金受取人から特約年金の請求を受けても、会社はこれを支払いません。
8. 第1項から前項までの規定にかかわらず、後継特約年金受取人が故意に特約年金受取人を死亡させたときは、その者は後継特約年金受取人としての取扱を受けることはできません。

(遺言による後継特約年金受取人の指定または変更)

第12条 前条の規定によるほか、特約年金受取人は、法律上有効な遺言により、後継特約年金受取人を指定または変更することができます。この場合、後継特約年金受取人は1人の特約年金受取人に対して1人であることを要します。

2. 前項の後継特約年金受取人の指定または変更は、被保険者の同意がなければ、その効力を生じません。
3. 前2項の規定による後継特約年金受取人の指定または変更は、特約年金受取人が死亡した後、特約年金受取人の相続人（遺言執行者が指定されているときは遺言執行者を含みます。以下本条において同じ。）が、その旨を会社に通知しなければ、会社に対抗することができません。
4. 前項の通知をするときは、特約年金受取人の相続人は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。
5. 遺言により指定または変更された後継特約年金受取人については、前条第3項から第5項までおよび第8項の規定を準用します。

(年齢の計算)

第13条 この特約を付加した場合の被保険者の年齢の計算については、主約款の規定にかかわらず、つぎのとおりとします。

- (1) 特約年金支払開始日における被保険者の年齢（以下「移行後年齢」といいます。）は、特約年金支払開始日現在の満年で計算し、1年未満の端数については切り捨てます。
- (2) 特約年金支払開始日後の被保険者の年齢は、前号の移行後年齢に、特約年金支払日ごとに1歳を加えて計算します。

(解約の取扱)

第14条 この特約を付加した場合、主契約の解約およびこの特約のみの解約はできません。

(時効)

第15条 特約年金の支払を請求する権利は、これを行行使することができる時から3年間行使しない場合には消滅します。

(主約款の規定の準用)

第16条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款の規定を準用します。

(積立利率変動型終身保険等に付加した場合の特則)

第17条 この特約を積立利率変動型終身保険、積立利率変動型終身保険（米ドル建）、積立利率変動型終身保険（ユーロ建）または積立利率変動型終身保険（豪ドル建）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 主約款の規定により更新時差額返還金が積み立てられている場合で、年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額にその更新時差額返還金の全額を加えた額に満たないときには、第2条（特約の締結）の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。
- (2) 主約款の規定により更新時差額返還金が積み立てられている場合には、特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額にその更新時差額返還金の全額を加えた額を特約年金原資額とし、第3条（特約年金額の計算）の規定を適用します。
- (3) 特約年金支払開始日以後は、主約款に定める更新時差額返還金はありません。

(主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合の特則)

第18条 この特約を定期支払金の分割払特約が付加されている主契約に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合で、年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額にその未払分割払金の現価の全額を加えた額に満たないときには、第2条（特約の締結）の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。
- (2) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合には、特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額にその未払分割払金の現価の全額を加えた額を特約年金原資額とし、第3条（特約年金額の計算）の規定を適用します。

(積立利率変動型定額部分付変額終身保険（15）等に付加した場合の特則)

第19条 主契約が積立利率変動型定額部分付変額終身保険（15）または積立利率変動型定額部分付変額終身保険（通貨指定型）の場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 特約年金支払開始日以後は、特別勘定による資産の運用はしません。
- (2) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日末の主契約の解約返還金額に満たないときには、第2条（特約の締結）の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。
- (3) 特約年金支払開始日の前日末の主契約の解約返還金額を特約年金原資額とし、第3条（特約年金額の計算）の規定を適用します。
- (4) 会社は、天災、戦争その他の変乱、火災またはシステム障害その他これらに準じる突発的な異常事態によって特別勘定資産の売買ができないとき（以下「特別勘定資産の売買が不能なとき」といいます。）は、その特別勘定について売買ができなくなった日から売買ができることとなった日の前日までの期間（以下「取引停止期間」といいます。）中、この特約の付加の申込の受付を行わず、すでに受け付けていた場合でも、この特約の付加の申込はなかったものとして取り扱います。
- (5) 会社は、前号の取扱を行なう場合には、会社の定める方法により、直ちにその旨を公表します。

(積立利率変動型定額部分付変額終身保険（15）等に付加した場合の特約年金支払開始日等の特別取扱の特則)

第20条 主契約が積立利率変動型定額部分付変額終身保険（15）または積立利率変動型定額部分付変額終身保険（通貨指定型）の場合には、前条までに定める特約年金支払開始日および特約年金原資額の取扱（この取

扱を特約年金支払開始日等の通常取扱といいます。)のほか、保険契約者は、この特約を主約款の規定に定める第2保険期間移行日に主契約に付加して締結する際、主約款の規定に定める第2保険期間移行日を特約年金支払開始日とし、第3条(特約年金額の計算)の規定の適用にあたって特約年金支払開始日の前日末の主契約の積立金額を特約年金原資額とする取扱(この取扱を特約年金支払開始日等の特別取扱といいます。)を選択することができます。

2. 前項の規定にかかわらず、つぎの各号の場合には、本条の特約年金支払開始日等の特別取扱は行ないません。

(1) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が特約年金支払開始日の前日末の主契約の積立金額に満たない場合

(2) 特別勘定資産の売買が不能なときで、取引停止期間中に第2保険期間移行日が到来した場合

3. 会社は、前項第2号の規定により本条の特約年金支払開始日等の特別取扱を行わない場合には、会社の定める方法により、直ちにその旨を公表します。

(生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合の特則)

第21条 この特約を生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

(1) この特約を生存給付金の支払日指定特則が適用されている生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合で、主約款の規定により生存給付金積立金が積み立てられているときには、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が本号(イ)に定める特約年金原資額に満たない場合には、第2条(特約の締結)の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。

(イ) 主約款第42条(生存給付金の支払日指定特則)第2項第3号中「第21条(解約返還金)に定める解約返還金」とあるのを「特約年金支払開始日の前日における第21条(解約返還金)に定める解約返還金」と、「解約返還金計算日」とあるのを「特約年金支払開始日の前日」と読み替えた場合の解約返還金の額を特約年金原資額とし、第3条(特約年金額の計算)の規定を適用します。

(2) この特約を生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されている生存給付金付終身保険(通貨指定型)に付加した場合で、生存給付金の円換算額上限設定特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が本号(イ)に定める特約年金原資額に満たない場合には、第2条の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。

(イ) 生存給付金の円換算額上限設定特約条項第5条(繰越準備金の取扱)第1項中「主契約の解約返還金」とあるのを「特約年金支払開始日の前日における主契約の解約返還金」と、「主契約の解約返還金計算日」とあるのを「特約年金支払開始日の前日」と読み替えた場合の解約返還金の額を特約年金原資額とし、第3条の規定を適用します。

(3) 第1号の場合で、生存給付金付終身保険(通貨指定型)に生存給付金の円換算額上限設定特約が付加されており、生存給付金の円換算額上限設定特約条項の規定により繰越準備金が積み立てられているときには、つぎのとおり取り扱います。

(ア) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が本号(イ)に定める特約年金原資額に満たない場合には、第2条の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。

(イ) 第1号(イ)において特約年金原資額として定めた解約返還金の額に、生存給付金の円換算額上限設定特約条項に定める特約の型に応じて、つぎの金額を加えた額を特約年金原資額とし、第3条の規定を適用します。

a. 特約の型がA型の場合

特約年金支払開始日の前日における繰越準備金をその日(その日が、会社が指標として指定する金融機関の休業日の場合は、その日の直後に到来するその金融機関の営業日とします。)における生存給付金の円換算額上限設定特約条項第5条第2項に定める会社所定の為替レートを用いて指定通貨に換算した金額

b. 特約の型がB型、C型またはD型の場合

特約年金支払開始日の前日における繰越準備金

(主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の特則)

第22条 この特約を保険金等のすえ置特約が付加されている主契約に付加した場合で、この特約における特約年

金への移行元となる部分について、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置の型がB型となる保険金等がすえ置かれているときには、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 年金支払期間中に支払われるべき特約年金の合計額が次号に定める特約年金原資額に満たない場合には、第2条（特約の締結）の規定にかかわらず、保険契約者は、この特約を締結することはできません。
- (2) 特約年金支払開始日の前日の主契約の解約返還金額にそのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額を特約年金原資額とし、第3条（特約年金額の計算）の規定を適用します。
- (3) この特約とあわせて主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合で、同特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金があるときには、前号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金およびその未払分割払金の現価の全額」と読み替えて適用します。

別表1 請求書類

	項 目	必 要 書 類
1	第1回の特約年金	(1) 会社所定の請求書 (2) 被保険者の住民票（ただし、受取人と同一の場合は不要。また、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 特約年金受取人の戸籍抄本 (4) 特約年金受取人の印鑑証明書 (5) 保険証券
2	第2回以後の特約年金	(1) 会社所定の請求書 (2) 被保険者の住民票（ただし、受取人と同一の場合は不要。また、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 特約年金受取人の戸籍抄本 (4) 特約年金受取人の印鑑証明書 (5) 年金証書
3	特約年金の継続支払	(1) 会社所定の請求書 (2) 被保険者の死亡事実が記載された住民票（ただし、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 特約年金受取人の戸籍抄本 (4) 特約年金受取人の印鑑証明書 (5) 年金証書
4	特約年金受取人の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 変更前の特約年金受取人の印鑑証明書 (3) 年金証書
5	遺言による特約年金受取人の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 変更前の特約年金受取人の死亡事実が記載された住民票（ただし、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 遺言書の写しおよびその有効性を証する書類 (4) 変更前の特約年金受取人の相続人であることを証する書類と印鑑証明書（ただし、遺言執行者からの通知のときは遺言執行者であることを証する書類と印鑑証明書） (5) 年金証書
6	後継特約年金受取人の指定または変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 特約年金受取人の印鑑証明書 (3) 年金証書
7	遺言による後継特約年金受取人の指定または変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 特約年金受取人の死亡事実が記載された住民票（ただし、会社が必要と認めた場合は戸籍抄本） (3) 遺言書の写しおよびその有効性を証する書類 (4) 特約年金受取人の相続人であることを証する書類と印鑑証明書（ただし、遺言執行者からの通知のときは遺言執行者であることを証する書類と印鑑証明書） (5) 年金証書
<p>(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。</p> <p>2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。</p>		

死亡給付金等の年金払特約条項 目次

<p>この特約の概要</p> <p>第1条 用語の意義</p> <p>第2条 特約年金の支払</p> <p>第3条 特約年金の支払に関する補則</p> <p>第4条 特約年金の現価の一時支払</p> <p>第5条 特約年金の請求、支払時期および支払場所</p> <p>第6条 特約の締結</p> <p>第7条 特約の解約</p> <p>第8条 特約の返還金</p> <p>第9条 特約の消滅とみなす場合</p> <p>第10条 特約年金が支払われる場合の特約年金受取人に関する取扱</p> <p>第11条 特約年金の支払回数の変更</p> <p>第12条 時効</p> <p>第13条 主約款の規定の準用</p> <p>第14条 主契約に運用期間中年金支払移行特約条項等を適用した場合の特則</p>	<p>第15条 定期支払金付積立利率変動型終身保険（通貨指定型）等に付加した場合等の特則</p> <p>第16条 積立利率変動型終身保険等に付加した場合の特則</p> <p>第17条 変額個人年金保険（13）に付加した場合の特則</p> <p>第18条 主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則</p> <p>第19条 積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合の特則</p> <p>第20条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則</p> <p>第21条 積立利率変動型個人年金保険（21）（通貨指定型）に付加した場合の特則</p> <p>第22条 主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の特則</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

死亡給付金等の年金払特約条項

（この特約の概要）

この特約は、死亡給付金等について、一時支払にかえて年金支払を行なうことを目的としたものです。

（用語の意義）

第1条 この特約条項において使用されるつぎの各号の用語の意義は、それぞれつぎのとおりとします。

(1) 「特約年金額」

「特約年金額」とは、特約年金を支払う場合に基準となる金額として、次条第2項の規定により定められた金額をいいます。ただし、第11条（特約年金の支払回数の変更）の規定により特約年金の支払回数が変更されたときは、変更後の支払回数にもとづき次条第2項の規定により定められた金額をいいます。

(2) 「年金支払期間」

「年金支払期間」とは、特約年金が支払われる場合に、主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）の死亡給付金または死亡保険金その他の保険金（以下「死亡給付金等」といいます。）の支払事由が生じた日から、最終回の特約年金の支払日までの期間をいいます。なお、年金支払期間が満了したときは、この特約は消滅します。

（特約年金の支払）

第2条 会社は、主契約の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）の規定により主契約の死亡給付金等が支払われることとなるときは、死亡給付金等の一時支払にかえて、次項の規定によって定められた特約年金額と同額の特約年金を特約年金受取人に支払います。

2. 前項の場合、会社の定める方法により、主約款および各特約条項の規定により支払われることとなる死亡給付金等の額（以下「死亡給付金額等」といいます。）をもとに、死亡給付金等の支払事由が生じた日における会社の定める率により特約年金額を定めます。ただし、特約年金受取人が2人以上であるときは、各特約年金受取人について、死亡給付金等の受取割合に応じて計算された金額をもとに、それぞれ特約年金額を定めます。

3. 前項の規定によって定められた特約年金額が会社の定める金額に満たないときは、第1項の規定にかかわらず、会社は、死亡給付金額等（特約年金受取人が2人以上であるときは、死亡給付金額等のうちその

特約年金を受け取るべきこの特約における特約年金受取人に対応する金額とします。)を一時に支払います。
この場合、この特約(特約年金受取人が2人以上であるときは、この特約における当該特約年金受取人に対応する部分とします。)は、消滅します。

4. 特約年金の支払回数については、保険契約者がこの特約の締結時に定めた一定の回数とします。ただし、特約の締結後にその回数に変更されたときは、変更後の回数とします。
5. 特約年金受取人が2人以上であるときは、すべての特約年金受取人について、特約年金の支払回数は同一とします。
6. 特約年金の支払日については、つぎのとおりとします。
 - (1) 第1回の特約年金
主契約の死亡給付金等の支払事由が生じた日
 - (2) 第2回以後の特約年金
第1回の特約年金の支払日の年単位の応当日

(特約年金の支払に関する補則)

第3条 特約年金受取人は、主契約の死亡給付金等の受取人としてします。ただし、死亡給付金等の受取人が2人以上である場合で、死亡給付金等の受取人が故意に主契約の被保険者を死亡させたときは、その主契約の死亡給付金等の受取人を除きます。

2. 第1回の特約年金の支払日以後、特約年金受取人を変更することはできません。
3. 特約年金の支払事由発生後、その年金支払期間中に特約年金受取人が死亡したときは、前条に定める年金の支払の規定にかかわらず、会社は、特約年金の未支払分の現価を、死亡した特約年金受取人の法定相続人に一時に支払います。この場合、この特約(特約年金受取人が2人以上であるときは、死亡した特約年金受取人に対応する部分とします。)は、その特約年金受取人の死亡時に消滅します。
4. 特約年金受取人は、死亡給付金等の支払事由発生後、第1回の特約年金が支払われる前に限り、特約年金の支払にかえて、主約款の規定により、死亡給付金等(特約年金受取人が2人以上であるときは、死亡給付金等のうちこの特約における当該特約年金受取人に対応する金額とします。以下次項において同じ。)の支払を請求することができます。
5. 前項の場合、会社が、死亡給付金等を支払ったときは、この特約(特約年金受取人が2人以上であるときは、前項の請求を行なった特約年金受取人に対応する部分とします。)は消滅します。

(特約年金の現価の一時支払)

第4条 特約年金受取人は、年金支払期間中、将来の特約年金の支払にかえて、特約年金の未支払分の現価の一時支払を請求することができます。

2. 会社が、特約年金の未支払分の現価を一時に支払った場合には、この特約(特約年金受取人が2人以上であるときは、この特約における当該特約年金受取人に対応する部分とします。)は消滅します。

(特約年金の請求、支払時期および支払場所)

第5条 特約年金の支払事由が生じたときは、保険契約者または特約年金受取人は、すみやかに会社に通知してください。

2. 特約年金の支払事由が生じたときは、特約年金受取人は、会社に、請求に必要な書類(別表1)を提出して、第1回の特約年金を請求してください。この場合、特約年金受取人が2人以上のときは、特約年金受取人は共同して請求することを要します。
3. 会社は、第1回の特約年金を支払うときに、年金証書を作成して特約年金受取人に交付します。
4. 第2回以後の特約年金の支払日が到来したときは、特約年金受取人は、会社に、請求に必要な書類(別表1)を提出してください。
5. 前条の規定により特約年金の未支払分の現価の一時支払を請求するときは、特約年金受取人は、会社に、請求に必要な書類(別表1)を提出してください。
6. 主約款に定める死亡給付金等の支払時期および支払場所に関する規定は、この特約による特約年金の支払の場合に準用します。

(特約の締結)

第6条 保険契約者は、主契約の契約日以後、主契約の死亡給付金等の支払事由発生前に限り、会社の定める取扱範囲で、この特約を主契約に付加して締結することができます。

(特約の解約)

第7条 保険契約者は、主契約の死亡給付金等の支払事由発生前に限り、いつでも将来に向って、この特約を解約することができます。

(特約の返還金)

第8条 この特約に対する解約返還金はありません。

(特約の消滅とみなす場合)

第9条 つぎの各号の場合には、この特約は消滅したものとみなします。

- (1) 主契約が解約その他の事由によって消滅した場合。ただし、特約年金の支払事由が生じたときを除きます。
- (2) 主契約の年金支払開始日が到来したとき。

(特約年金が支払われる場合の特約年金受取人に関する取扱)

第10条 特約年金が支払われる場合には、主契約の死亡給付金等の支払事由が生じた時に、この特約にかかわる一切の権利義務が特約年金受取人に承継されます。

(特約年金の支払回数の変更)

第11条 保険契約者は、主契約の死亡給付金等の支払事由発生前に限り、会社の承諾を得て、特約年金の支払回数を変更することができます。

2. 前項の規定にかかわらず、第2条（特約年金の支払）第2項の規定によって定められた特約年金額が会社の定める金額に満たない場合には、第2条第3項の規定にかかわらず、特約年金受取人は、会社の承諾を得て、会社の定める範囲で、特約年金の支払回数を変更することができます。この場合、第2条第5項の規定は適用しません。
3. 前項の規定にかかわらず、会社の定める金額に満たない特約年金額について、変更後の支払回数にもとづき第2条第2項の規定により新たに計算した金額が、会社の定める金額に満たないときは、特約年金の支払回数の変更は取り扱いません。
4. 特約年金の支払回数の変更をするときは、保険契約者（主契約の死亡給付金等の支払事由発生後は特約年金受取人として）は、請求に必要な書類（別表1）を提出してください。この場合、特約年金受取人が2人以上のときで、第2項の変更をするときは、特約年金受取人は共同して請求することを要します。

(時効)

第12条 特約年金の支払を請求する権利は、これを行行使することができる時から3年間行使しない場合には消滅します。

(主約款の規定の準用)

第13条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款の規定を準用します。

(主契約に運用期間中年金支払移行特約条項等を適用した場合の特則)

第14条 この特約を付加した主契約に運用期間中年金支払移行特約条項または年金支払移行特約条項を適用した場合には、この特約は消滅します。

(定期支払金付積立利率変動型終身保険（通貨指定型）等に付加した場合等の特則)

第15条 この特約を定期支払金付積立利率変動型終身保険（通貨指定型）、定期支払金付積立利率変動型終身保険、年金原資保証型変額個人年金保険（14）もしくは年金原資保証型変額個人年金保険（通貨指定型）に付加した場合またはこの特約とあわせて主契約に積立金の規則的引出特約が付加されている場合で、死亡給付金等の支払事由が生じた後に支払われた定期支払金、定期給付金、運用成果払出金または規則的引出金があるときには、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額からその定期支払金、定期給付金、運用成果払出金または規則的引出金の額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条（特約年金の支払）の規定を適用します。

2. この特約とあわせて主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合には、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額にその未払分割払金の現価の全額を加えた額を死亡給付金額等とし、第2条の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に到来する定期支払日における定期支払金について支払われた分割払金がある場合には、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額からその分割払金額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条の規定を適用します。

(積立利率変動型終身保険等に付加した場合の特則)

第16条 この特約を積立利率変動型終身保険、積立利率変動型終身保険（米ドル建）、積立利率変動型終身保険（ユーロ建）または積立利率変動型終身保険（豪ドル建）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 主約款の規定により更新時差額返還金が積み立てられている場合には、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額にその更新時差額返還金の全額を加えた額を死亡給付金額等とし、第2条（特約年金の支払）の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に積立利率保証期間更新日が到来して更新時差額返還金があった場合で、保険契約者からの請求によりその更新時差額返還金が支払われたときには、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額からその更新時差額返還金の額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条の規定を適用します。

(変額個人年金保険（13）に付加した場合の特則)

第17条 この特約を変額個人年金保険（13）に付加した場合には、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 第9条（特約の消滅とみなす場合）第2号の規定は適用しません。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に支払われた主契約の年金があるときには、主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額からその年金の額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条（特約年金の支払）の規定を適用します。

(主契約に介護年金支払移行特約が付加されている場合の特則)

第18条 主契約に介護年金支払移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、主契約の全部が特約介護年金に移行したときには、この特約は消滅したものとみなします。

(積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合の特則)

第19条 この特約を積立利率変動型終身保険（20）（通貨指定型）に付加した場合で、主契約の認知症介護保険金が支払われることとなるときは、第3条（特約年金の支払に関する補則）第4項の規定にかかわらず、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 特約年金受取人は、認知症介護保険金の支払事由発生後、第1回の特約年金が支払われる前に限り、会社の定める取扱範囲で、特約年金のうち全部または一部の支払にかえて、主約款の規定による認知症介護保険金の全部または一部の支払を請求することができます。
 - (2) 前号の場合、会社が、認知症介護保険金の全部を支払ったときは、この特約は消滅します。
 - (3) 第1号に定める認知症介護保険金の一部の支払の請求があったときは、主約款および各特約条項の規定により支払われることとなる認知症介護保険金の額から第1号の規定により支払われる額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条（特約年金の支払）の規定を適用します。
2. 主約款に定める保険金の代理請求に関する規定は、この特約による特約年金の支払（第4条（特約年金の現価の一時支払）に定める特約年金の現価の一時支払および前項に定める認知症介護保険金の全部または一部の支払を含みます。）の場合に準用します。

(主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約が付加されている場合の特則)

第20条 主契約に目標値到達時円貨建生存給付金付終身保険移行特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、死亡給付金等の支払事由が生じた後に主契約が円貨建の生存給付金付終身保険に移行し、支払われた移行時差額返還金があるときは、主約款および各特約条項の規定により支払われることとなる死亡給付金等の額からその移行時差額返還金を到達判定日における目標値判定為替レートで指定通貨に換算した金額を差し引いた額を死亡給付金額等とし、第2条（特約年金の支払）の規定を適用します。

(積立利率変動型個人年金保険 (21) (通貨指定型) に付加した場合の特則)

第21条 この特約を積立利率変動型個人年金保険 (21) (通貨指定型) に付加した場合で、終身保険移行特則の適用により主契約が年金支払開始日に終身保険に移行するときには、第9条 (特約の消滅とみなす場合) 第2号の規定は適用しません。

(主契約に保険金等のすえ置特約が付加されている場合の特則)

第22条 主契約に保険金等のすえ置特約とあわせてこの特約が付加されている場合で、保険金等のすえ置特約条項の規定によりすえ置の型がB型となる保険金等がすえ置かれているときには、つぎの各号のとおり取り扱います。

- (1) 主約款の規定により支払われることとなる主契約の死亡給付金等の額にそのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額を死亡給付金額等とし、第2条 (特約年金の支払) の規定を適用します。
- (2) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に支払われた定期支払金、定期給付金または運用成果払出金がある場合には、前号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額からその定期支払金、定期給付金または運用成果払出金の額を差し引いた額」と読み替えて適用します。
- (3) この特約とあわせて主契約に定期支払金の分割払特約が付加されている場合には、つぎのとおり取り扱います。
 - (ア) 定期支払金の分割払特約条項の規定による支払事由の生じた定期支払金の未払分割払金がある場合には、第1号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金およびその未払分割払金の現価の全額」と読み替えて適用します。
 - (イ) 死亡給付金等の支払事由が生じた後に到来する定期支払日における定期支払金について支払われた分割払金がある場合には、第1号の規定は、「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額」を「そのすえ置かれている保険金等の元利金を加えた額からその分割払金額を差し引いた額」と読み替えて適用します。

別表1 請求書類

(1) 特約年金の請求書類

	項 目	必 要 書 類
1	第1回の特約年金	(1) 会社所定の請求書 (2) 支払われることとなる主契約の死亡給付金等の請求書類
2	第2回以後の特約年金	(1) 会社所定の請求書 (2) 特約年金受取人の戸籍抄本 (3) 特約年金受取人の印鑑証明書 (4) 年金証書
3	特約年金の未支払分の現価の一時支払	(1) 会社所定の請求書 (2) 特約年金受取人の戸籍抄本 (3) 特約年金受取人の印鑑証明書 (4) 年金証書
<p>(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。</p> <p>2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。</p>		

(2) その他の請求書類

	項 目	必 要 書 類
	特約年金の支払回数の変更	(1) 会社所定の保険契約内容変更請求書 (2) 保険契約者（主契約の死亡給付金等の支払事由発生後は特約年金受取人）の印鑑証明書 (3) 保険証券
<p>(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。</p> <p>2. 会社は、請求書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、請求を会社が受け付けた日を請求書類が会社の本社に到着した日とみなします。</p>		

保険契約者代理特約条項 目次

この特約の概要	第4条 告知義務違反による解除等の通知
第1条 特約の締結	第5条 特約の解約
第2条 保険契約者代理人による代理手続	第6条 特約の消滅とみなす場合
第3条 保険契約者代理人の変更	第7条 主約款等の規定の準用
	第8条 積立利率変動型個人年金保険(21)(通貨指定型)に付加した場合の特則

保険契約者代理特約条項

(この特約の概要)

この特約は、保険契約者（主たる保険契約（以下「主契約」といいます。）の普通保険約款（以下「主約款」といいます。）および各特約条項に定める年金（年金の名称の如何を問いません。以下同じ。）の支払開始日以後については年金の受取人としてします。以下同じ。）が手続を自ら行なうことができない特別な事情があるときに、保険契約者代理人が保険契約者の代理人として手続を行なうことを可能とするを主な内容とするものです。

(特約の締結)

第1条 保険契約者は、主契約の締結の際または主契約の締結後において、会社の定める取扱範囲で、被保険者の同意（被保険者の死亡後はこれを要しません。）および会社の承諾を得て、この特約を主契約に付加して締結することができます。

(保険契約者代理人による代理手続)

第2条 保険契約者が手続を自ら行なうことができないつぎのいずれかに該当する特別な事情があるときは、保険契約者が被保険者の同意（被保険者の死亡後はこれを要しません。）および会社の承諾を得てあらかじめ指定または次条の規定により変更した保険契約者代理人が、手続に必要な書類（別表1）を提出して、保険契約者の代理人として手続を行なうことができます。ただし、保険契約者が法人である場合を除きます。

(1) 手続を行なう意思表示が困難であると会社が認めた場合

(2) 前号に準じる状態であると会社が認めた場合

2. 保険契約者代理人が行なうことのできる手続は、つぎのとおりとします。

(1) 主約款および各特約条項に定める保険契約者が行なうことのできる手続とします。この場合、保険契約者と保険金等の受取人が同一人である場合における、主約款および各特約条項に定める保険金等の受取人が行なうことのできる手続を含みます。

(2) 前号の規定にかかわらず、つぎの手続を除きます。

(ア) 保険契約者の変更手続

(イ) 保険金等の受取人の変更手続（被保険者の生存に関し支払う保険金等の受取人を保険契約者のみに変更する場合を除きます。）

(ウ) 保険契約者代理人ならびに主約款および各特約条項に定める指定代理請求人の変更手続

(エ) 主約款および各特約条項に定める代理請求が可能な保険金等の請求手続

3. 前2項の規定により受取人を変更する場合で、保険契約者と被保険者が同一人であるときは、保険契約者代理人が被保険者の代理人として同意を行なうことができます。

4. 第1項および第2項の規定により保険契約者代理人が手続を行なう場合、保険契約者代理人は手続時においてつぎのいずれかに該当することを要します。

(1) つぎの範囲内の者

(ア) 保険契約者の戸籍上の配偶者

(イ) 保険契約者の直系血族

(ウ) 保険契約者の3親等内の親族

(2) 前号以外の者でつぎの範囲内の者。ただし、会社所定の書類（別表1）によりその事実が確認でき、かつ、保険契約者のために手続を行なうべき相当な関係があると会社が認めた者に限り、かつ、

(ア) 保険契約者と同居または生計を一にしている者

- (イ) 保険契約者の財産管理を行なっている者
 - (ウ) 被保険者
 - (エ) 保険金等の受取人
 - (オ) その他(ア)から(エ)までに定める者と同等の関係にある者
5. 第1項、第2項および前項の規定にかかわらず、故意に保険金等の支払事由を生じさせた者または故意に保険契約者を第1項各号に定める状態に該当させた者は、保険契約者の代理人として手続を行なうことができません。
6. 保険契約者代理人の変更が行なわれた場合、変更を行なった後は、変更前に手続可能な手続があっても、変更を行なう前の保険契約者代理人による代理手続は取り扱いません。
7. 本条の規定により保険契約者代理人が行なった手続は、保険契約者に対してその効力を生じます。
8. 本条の規定により保険金等の代理請求を行なう場合で、主約款の規定にもとづき会社が必要な事項の確認を行なう際、本条に定める保険契約者代理人が、正当な理由なく当該確認を妨げ、またはこれに応じなかったとき（会社の指定した医師による必要な診断に応じなかったときを含みます。）は、会社は、これにより当該事項の確認が遅延した期間の滞滞の責任を負わず、その間は保険金等を支払いません。

（保険契約者代理人の変更）

- 第3条 保険契約者は、被保険者の同意（被保険者の死亡後はこれを要しません。）および会社の承諾を得て、保険契約者代理人を変更することができます。
2. 保険契約者代理人の変更をするときは、保険契約者は、手続に必要な書類（別表1）を提出してください。

（告知義務違反による解除等の通知）

- 第4条 主契約の告知義務違反による解除および重大事由による解除の通知について、保険契約者またはその住所もしくはその居所が不明である場合など、正当な理由によって保険契約者に通知できない場合には、主約款に定める通知先のほか、保険契約者代理人に通知することがあります。

（特約の解約）

- 第5条 保険契約者は、いつでも将来に向かって、この特約を解約することができます。

（特約の消滅とみなす場合）

- 第6条 つぎの各号の場合には、この特約は消滅したものとみなします。
- (1) 保険契約者または保険契約者代理人が死亡したとき。
 - (2) 保険契約者に変更されたとき。
 - (3) 主契約が解約その他の事由によって消滅したとき。
 - (4) 保険契約者と年金の受取人が異なる場合で、主約款および各特約条項に定める年金の支払開始日が到来したとき。

（主約款等の規定の準用）

- 第7条 この特約に別段の定めのない場合には、主約款および各特約条項の規定を準用します。

（積立利率変動型個人年金保険（21）（通貨指定型）に付加した場合の特則）

- 第8条 この特約を積立利率変動型個人年金保険（21）（通貨指定型）に付加した場合で、終身保険移行特則の適用により主契約が年金支払開始日に終身保険に移行するときには、第6条（特約の消滅とみなす場合）第4号の規定にかかわらず、終身保険移行部分について、この特約は継続するものとします。

別表1 手続書類

(1) 手続書類

項 目	必 要 書 類
代理手続	(1) 主約款および各特約条項に定める会社所定の請求書その他の手続に必要な書類 (2) 保険契約者が手続を自ら行なうことができない特別な事情を示す書類 (3) 保険契約者および保険契約者代理人の戸籍抄本 (4) 保険契約者の住民票 (5) 保険契約者代理人の住民票 (6) 保険契約者代理人の印鑑証明書 (7) 保険契約者が成年後見登記されていないことの証明 (8) 代理手続を行なう者が保険契約者と同居または生計を一にしている者であるときは、その事実を証する書類 (9) 代理手続を行なう者が保険契約者の財産管理を行なっている者であるときは、契約書および財産管理状況の報告書の写しなどその事実を証する書類
(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。 2. 会社は、手続書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、手続の請求を会社が受け付けた日を手続書類が会社の本社に到着した日とみなします。	

(2) その他の手続書類

項 目	必 要 書 類
保険契約者代理人の変更	(1) 会社所定の名義変更請求書 (2) 保険契約者の印鑑証明書 (3) 保険証券または年金証書
(注) 1. 会社は、上記以外の書類の提出を求め、または上記の提出書類の全部または一部の省略を認めることがあります。 2. 会社は、手続書類について、書面に代えて電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信技術を利用する方法により提出することを認めることがあります。なお、この場合、手続の請求を会社が受け付けた日を手続書類が会社の本社に到着した日とみなします。	

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

生命保険のご契約に関する苦情・ご相談についてはお客さまサービスセンターへご連絡ください。
〈お客さまサービスセンター フリーダイヤル：0120-876-126〉

一般社団法人生命保険協会の「生命保険相談所」では、電話・文書（電子メール・FAX は不可）・来訪により生命保険に関するさまざまな相談・照会・苦情をお受けしております。また、全国各地に「連絡所」を設置し、電話にてお受けしております。

（生命保険協会ホームページアドレス <https://www.seiho.or.jp/>）

「生命保険相談所」が苦情の申出を受けたことを生命保険会社に連絡し、解決を依頼した後、原則として1か月を経過しても、ご契約者などと生命保険会社との間で解決がつかない場合については、指定紛争解決機関として、「生命保険相談所」内に裁定審査会を設け、ご契約者などの正当な利益の保護を図っております。

説明事項ご確認のお願い

この「ご契約のしおり・約款」は、ご契約にともなう大切なことがらを記載したものですので、必ずお読みいただき、内容を十分にご確認いただきますようお願いいたします。

- クーリング・オフ制度（お申込みの撤回など）
- 商品のしくみ
- 死亡保険金および生存給付金をお支払いできない場合
- 告知
- ご契約の成立と保障の責任開始期
- 解約と解約返還金

特に上記の項目については、ぜひご理解いただきたいことがらですので、ご不明な点がございましたら下記にお問い合わせください。
なお、保険証券とともに大切に保管し、ご活用ください。

第一フロンティア生命 お客さまサービスセンター

ご契約の照会につきましては

フリーダイヤル **0120-876-126**

【営業時間／9:00～17:00（土日、祝日、年末年始などの休日を除く）】

お客さまサービスセンターへのお電話は、当社業務の運営管理およびサービス充実などの観点から録音をさせていただいております。あらかじめご了承ください。

[募集代理店]

[引受保険会社]

第一フロンティア生命保険株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-1日比谷フォートタワー
ホームページ <https://www.d-frontier-life.co.jp/>

お客さまサービスセンター **0120-876-126**
フリーダイヤル

営業時間 9:00～17:00（土日、祝日、年末年始などの休日を除く）

'26年4月版